



*Strategic  
Business  
Innovator*

# SBIホールディングス株式会社 インフォメーション ミーティング

**2013年 5月28日(火) 東京**

**5月31日(金) 名古屋**

**6月 3日(月) 大阪**

本資料に掲載されている事項は、SBIホールディングス株式会社によるSBIグループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、SBIグループ各社の発行する株式その他の金融商品への投資の勧誘を目的としたものではありません。

また、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。

なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

# 本日のプログラム

**第1部** Key Questionsのご説明

**第2部** 質疑応答

## 第1部 Key Questions

1. 2013年3月期の決算はどのように捉えればよいのでしょうか？
2. 今期は「攻めに転じる」と発表していますが、どのような戦略なのでしょう？
3. SBIグループの目指す方向性は？
4. 株価についてはどう考えていますか？

# 1. 2013年3月期の決算はどのように捉えればよいのでしょうか？

- (1) 国際会計基準(IFRS)導入後の初の通期連結決算
- (2) 連結貸借対照表について
- (3) 営業キャッシュフローの状況
- (4) セグメント別概況について
- (5) 配当政策と株主構成

## 2013年3月期 連結決算のポイント

### ① 2013年3月期より国際会計基準(IFRS)を導入

2012年3月期の連結業績は、あくまで国際会計基準(IFRS)での業績比較のために作成したものであり、正式に国際会計基準(IFRS)に基づく開示を開始したのは2013年3月期第1四半期からである。

### ② 2013年3月期の業績は上半期と下半期で隔世の感がある。

2012年末以降のマーケット市況回復に伴い、金融サービス事業およびアセットマネジメント事業は下半期にかけて業績が拡大

# (1) 国際会計基準(IFRS)導入後の初の通期決算

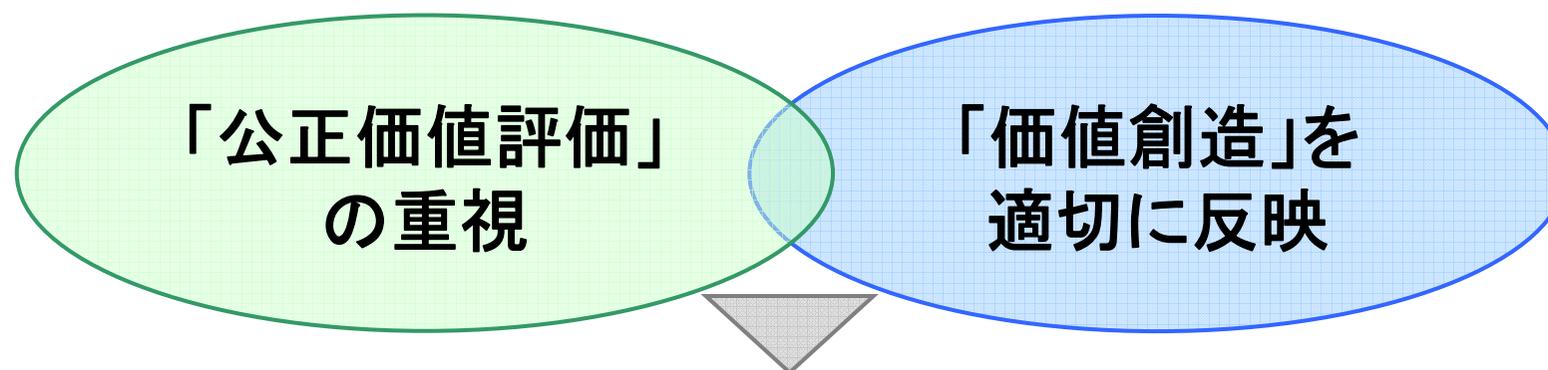
～香港上場の公約通り、2013年3月期から国際会計基準(IFRS)を導入～

国際会計基準(IFRS):世界110カ国以上で採用されている国際的な会計基準。

日本の上場企業での導入は、住友商事、JT、HOYA、DeNA、楽天、マネックスなど12社のみ

(2013年5月現在)

## IFRS導入の目的



## 経営および財務報告の透明性向上

環境変化への適応力も求められる昨今、グローバルスタンダードに則り、“己を知り”、自社の様々なリスクを認識し、当社がさらなる進化を遂げるためのツールとしてIFRSを導入

## 2013年3月期 連結業績(IFRS)

～前期に実施した組織再編による影響を除くと  
実質的には前期比 増収増益～

(単位:百万円)

|                   | 2012年3月期<br>(2011年4月～2012年3月) |         | 2013年3月期<br>(2012年4月～2013年3月) | 前期比<br>増減率(%)<br>(IFRSベース) |
|-------------------|-------------------------------|---------|-------------------------------|----------------------------|
|                   | 日本会計基準                        | IFRS ※  |                               |                            |
| 営業収益<br>(売上高)     | 145,074                       | 177,409 | 153,476                       | ▲13.5                      |
| 営業利益              | 7,575                         | 17,530  | 16,577                        | ▲5.4                       |
| 税引前利益             | 17,552                        | 15,600  | 14,213                        | ▲8.9                       |
| 当期利益              | 3,200                         | 2,762   | 6,962                         | +152.1                     |
| 内、親会社所有者への<br>帰属分 | —                             | 303     | 3,202                         | +955.9                     |

※2012年3月期には、組織再編の実施による旧SBIベリトランスの売却益(約102億円)や、IFRSベースでは連結対象として扱われるVSNの売却益(約58億円)等の特殊要因が含まれる。

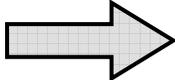
## (2) 連結貸借対照表について

### 連結貸借対照表における総資産の大幅拡大の要因について

(単位:億円)

|          | 2012年3月末 | 2013年3月末 | 変動額    |
|----------|----------|----------|--------|
| 資産合計     | 16,556   | 24,944   | +8,388 |
| (内訳)     |          |          |        |
| 現代スイス連結化 | —        | 4,497    | +4,497 |
| 証券業関連資産  | 9,902    | 14,336   | +4,434 |
| その他      | 6,654    | 6,111    | ▲543   |

株式市場の急回復に伴いSBI証券の顧客による取引が増大していることから、預託金等の証券業関連資産も大きく拡大

親会社所有者  
 帰属持分比率 ※1 2013年3月末 12.2%  22.9%

証券会社特有の資産・負債勘定(※2)の影響を考慮した実質的な数値

**現金及び現金同等物(2013年3月末、連結ベース): 1,334億円**

※1 親会社の所有者に帰属する資本持分合計÷総資産で算出

※2 証券会社特有の資産＝預託金＋信用取引資産＋その他の証券業関連資産

証券会社特有の負債＝信用取引負債＋受入保証金＋顧客からの預り金＋その他の証券業関連負債

### (3) 営業キャッシュフローの状況

(単位:百万円)

|                 | 2013年3月期 |
|-----------------|----------|
| 営業活動によるキャッシュフロー | ▲36,984  |
| 税引前当期利益         | 14,213   |
| 営業債権及びその他の債権の増減 | 10,614   |
| 営業債務及びその他の債務の増減 | 14,167   |
| 証券業関連資産及び負債の増減  | ▲72,300  |
| その他             | ▲3,678   |

株式市況の回復に伴い、SBI証券の自己資金による信用取引貸付が大幅に増加したこと等が主な要因となり、2013年3月期の営業活動によるキャッシュフローはマイナスとなったが、この要因を除けば実質的に約353億円のプラス

## (4) セグメント別概況について

# 主要3事業を軸としたグループ組織体制



【2012年4月～】



各事業において中間持株会社を設立

# 子会社である海外金融機関の 今後のセグメント区分について

証券、銀行、保険等の金融サービスを提供する国内外の子会社

事業基盤:

国内

海外

セグメント:

金融サービス事業

アセットマネジメント事業

海外事業関連の子会社やアセット等は香港現地法人の傘下で管理  
→ 将来の香港現地法人の第2本社化を想定

各国の出資先企業の状況に応じて、  
海外市場でのIPOや将来売却の可能性も

今後は上記の考え方に沿ってセグメント区分を行なう

## 2013年3月期 セグメント別 営業収益(売上高)(IFRS)

(単位:百万円)

|                      | 2013年3月期<br>上半期<br>(2012年4月～<br>2012年9月) | 2013年3月期<br>下半期<br>(2012年10月～<br>2013年3月) | 上半期比<br>増減率(%) | 2013年3月期<br>通期<br>(2012年4月～<br>2013年3月) |
|----------------------|--|---|----------------|---|
| 金融サービス<br>事業         | 50,627                                   | 62,713                                    | +23.9          | 113,340                                 |
| アセットマネジメント<br>事業     | 13,665                                   | 18,537                                    | +35.7          | 32,202                                  |
| バイオ関連<br>事業          | 500                                      | 470                                       | ▲6.2           | 970                                     |
| その他事業<br>(主に不動産関連事業) | 4,190                                    | 5,050                                     | +20.5          | 9,240                                   |

※セグメント別の数字には連結消去は含まれておりません。

## 2013年3月期 セグメント別 税引前利益(IFRS)

(単位:百万円)

|                      | 2013年3月期<br>上半期<br>(2012年4月～<br>2012年9月) | 2013年3月期<br>下半期<br>(2012年10月～<br>2013年3月) | 上半期比<br>増減率(%) | 2013年3月期<br>通期<br>(2012年4月～<br>2013年3月) |
|----------------------|--|---|----------------|---|
| 金融サービス<br>事業         | 3,878                                    | 14,863                                    | +283.2         | 18,741                                  |
| アセットマネジメント<br>事業     | 479                                      | 4,971                                     | +938.8         | 5,450                                   |
| バイオ関連<br>事業          | ▲1,160                                   | ▲2,740                                    | —              | ▲3,900                                  |
| その他事業<br>(主に不動産関連事業) | 646                                      | 1,013                                     | +56.7          | 1,659                                   |

※セグメント別の数字には連結消去は含まれておりません。

## ①金融サービス事業

＜主要金融サービス事業各社の概況＞

- ( i ) **SBI証券**
- ( ii ) **住信SBIネット銀行(持分法適用会社)**
- ( iii ) **SBI損保**
- ( iv ) **SBIマネープラザ**

## ( i ) SBI証券

- 2013年3月期第4四半期(1-3月)は前四半期比で、営業収益は52.3%増、営業利益は154.9%増と、四半期業績は好調に推移
- 活況なマーケット環境の下、4月に月間の個人株式委託売買代金が過去最高を記録するとともに、4月単月の単体業績は過去最高益を記録した2006年3月期中の月次での利益水準に迫るなど、2013年4月以降状況は様変わり

# SBI証券 2013年3月期連結業績 (日本会計基準)

## 【前期比較】

(単位:百万円)

|               | 2012年3月期<br>(2011年4月～2012年3月) | 2013年3月期<br>(2012年4月～2013年3月) | 前期比<br>増減率(%) |
|---------------|-------------------------------|-------------------------------|---------------|
| 営業収益<br>(売上高) | 39,738                        | 43,401                        | +9.2          |
| 純営業収益         | 36,406                        | 40,495                        | +11.2         |
| 営業利益          | 7,532                         | 11,478                        | +52.4         |
| 経常利益          | 7,464                         | 11,512                        | +54.2         |
| 当期純利益         | 5,645 (※1)                    | 6,733 (※2)                    | +19.3         |

※1 2012年3月期において、特別利益として投資有価証券売却益49億円を計上。

※2 金融商品取引責任準備金につき、2013年3月期第3四半期以降の株式相場の活況を受けて株式売買代金等が著増した結果、金融商品取引法に則り、2013年3月期第4四半期において約520百万円の積み立て(特別利益の減少)を実施。

# SBI証券 2013年3月期連結業績

## (日本会計基準)

～第3四半期に比べ業績は大幅に拡大～

### 【前四半期比較】

(単位:百万円、%)

|               | 2013年3月期<br>第1四半期<br>(2012年4-6月) | 2013年3月期<br>第2四半期<br>(2012年7-9月) | 2013年3月期<br>第3四半期<br>(2012年10-12月) | 2013年3月期<br>第4四半期<br>(2013年1-3月) | 前四半期比<br>増減率(%) |
|---------------|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|-----------------|
| 営業収益<br>(売上高) | 9,178                            | 9,031                            | 9,984                              | 15,207                           | +52.3           |
| 純営業収益         | 8,536                            | 8,263                            | 9,260                              | 14,435                           | +55.9           |
| 営業利益          | 1,426                            | 1,661                            | 2,364                              | 6,026                            | +154.9          |
| 経常利益          | 1,455                            | 1,701                            | 2,443                              | 5,911                            | +141.9          |
| 当期純利益         | 1,370                            | 1,043                            | 1,441                              | 2,879 <sup>(※)</sup>             | +99.8           |

過去最高 2006年3月期第4四半期(2006年1-3月):105億円

※ 金融商品取引責任準備金につき、2013年3月期第3四半期以降の株式相場の活況を受けて株式売買代金等が著増した結果、金融商品取引法に則り、2013年3月期第4四半期において約520百万円の積み立て(特別利益の減少)を実施。

## 主要オンライン証券の連結業績比較 (日本会計基準)

(単位:百万円)

|                      | 営業収益<br>(売上高) | 前期比<br>増減率(%) | 営業利益          | 前期比<br>増減率(%) |
|----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| <b>SBI</b>           | <b>43,401</b> | <b>+9.2</b>   | <b>11,478</b> | <b>+52.4</b>  |
| <b>マネックス</b> (※1)    | <b>37,390</b> | <b>+15.8</b>  | <b>2,067</b>  | <b>▲15.6</b>  |
| <b>楽天</b> (※2)       | <b>24,548</b> | <b>+18.0</b>  | <b>7,064</b>  | <b>+73.0</b>  |
| <b>松井</b> (非連結)(※3)  | <b>20,799</b> | <b>+17.5</b>  | <b>10,195</b> | <b>+38.5</b>  |
| <b>カブドットコム</b> (非連結) | <b>13,132</b> | <b>+6.2</b>   | <b>3,882</b>  | <b>+30.8</b>  |

※1 前第2四半期より、TradeStation社(米国)の数値を連結対象に含む。2013年3月期よりIFRSを導入しているが、上記数値はマネックス発表による日本会計基準での値。

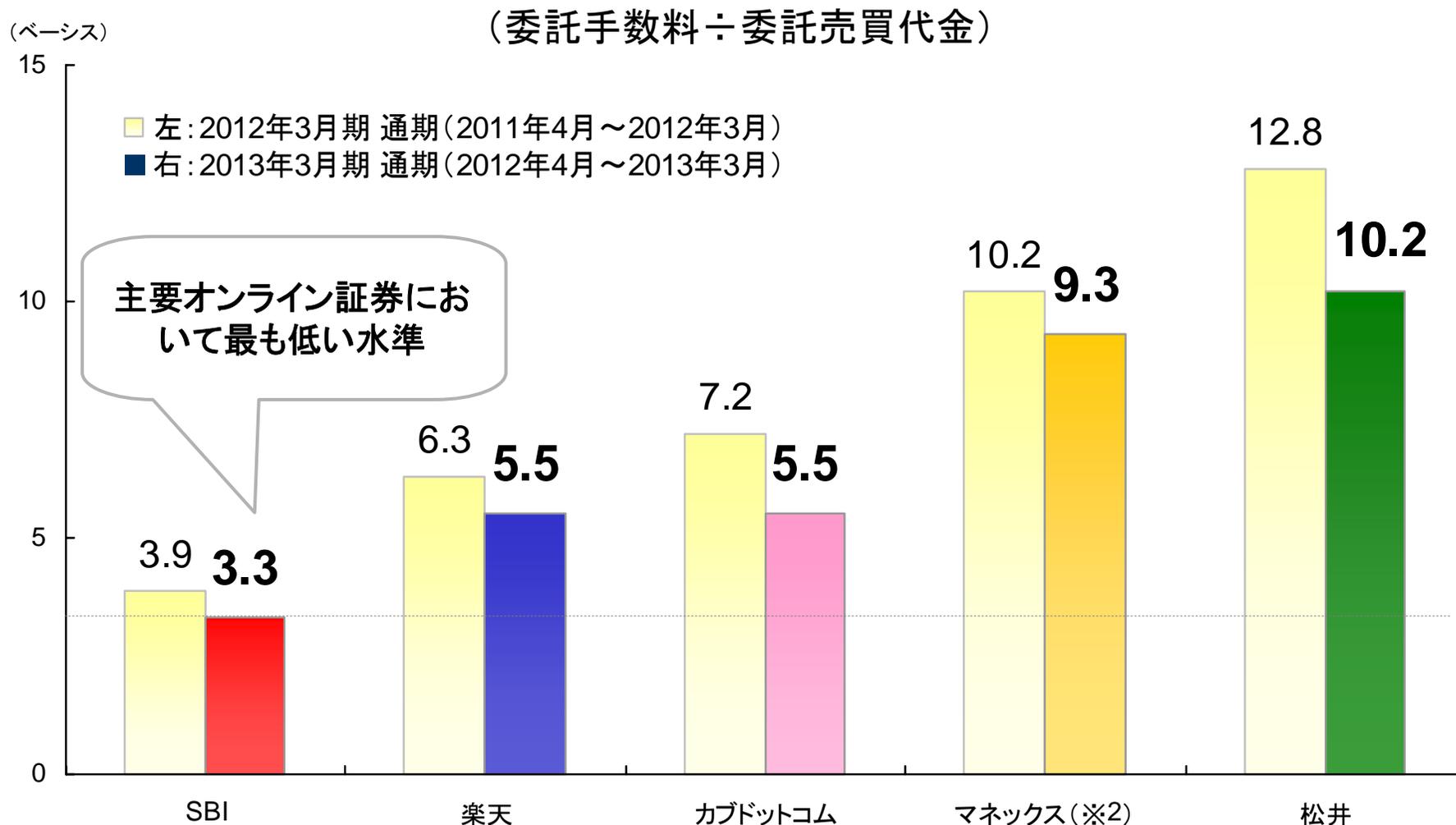
※2 ドットコモディティ(株)を連結子会社化し、前第2四半期より連結決算業績を開示。

※3 当第1四半期より連結子会社の吸収合併により連結対象子会社がなくなったため非連結の数値。

前年同期比増減率については、前年同期の松井証券連結の数値から算出。

出所: 各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計

## 主要オンライン証券のベースス比較



※1 主要オンライン証券5社はSBI証券、楽天証券、カブドットコム証券、マネックス証券、松井証券

※2 マネックスの数値は、マネックス証券の委託手数料の数値を使用

出所: 各社決算資料、月次開示資料等より当社作成

委託手数料は決算短信より数値を使用

SBI証券はインターネット部門のみの数値を使用

# SBI証券の証券業界におけるポジショニング

## (2013年3月期)

### 純営業収益ランキング

単位: 億円

|    |          |        |
|----|----------|--------|
| 1  | 野村       | 18,136 |
| 2  | 大和       | 4,173  |
| 3  | 三菱UFJ    | 3,060  |
| 4  | SMBC日興   | 2,747  |
| 5  | みずほ      | 2,572  |
| 6  | 岡三       | 771    |
| 7  | 東海東京     | 659    |
| 8  | SMBCフレンド | 594    |
| 9  | SBI      | 404    |
| 10 | マネックス    | 360    |
| 11 | 楽天       | 234    |
| 12 | 松井       | 199    |
| 13 | カブドットコム  | 114    |

### 純利益ランキング

単位: 億円

|    |          |       |
|----|----------|-------|
| 1  | 野村       | 1,072 |
| 2  | 大和       | 729   |
| 3  | 三菱UFJ    | 469   |
| 4  | SMBC日興   | 457   |
| 5  | みずほ      | 286   |
| 6  | 岡三       | 143   |
| 7  | 東海東京     | 112   |
| 8  | SMBCフレンド | 103   |
| 9  | SBI      | 67    |
| 10 | 松井       | 64    |
| 11 | 楽天       | 56    |
| 12 | マネックス    | 39    |
| 13 | カブドットコム  | 22    |

※1 オンライン証券5社及び純営業収益200億円以上を抽出

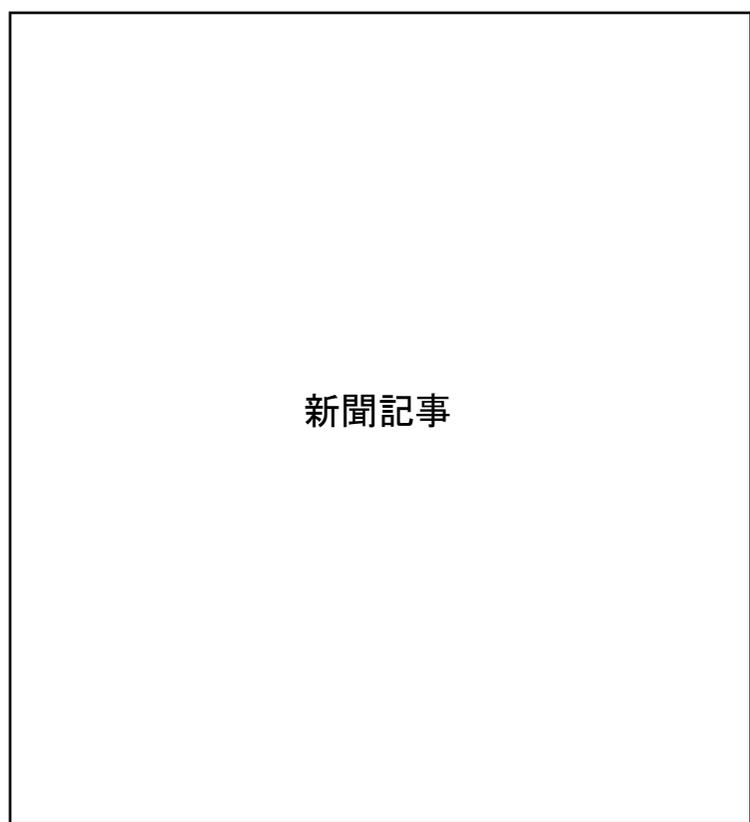
※2 連結ベース。連結対象がない場合は単独 ※3 野村は米国会計基準。純営業収益は収益合計(金融費用控除後)を使用



# 活況なマーケット環境下で様変わりする SBI証券の取引状況(2)



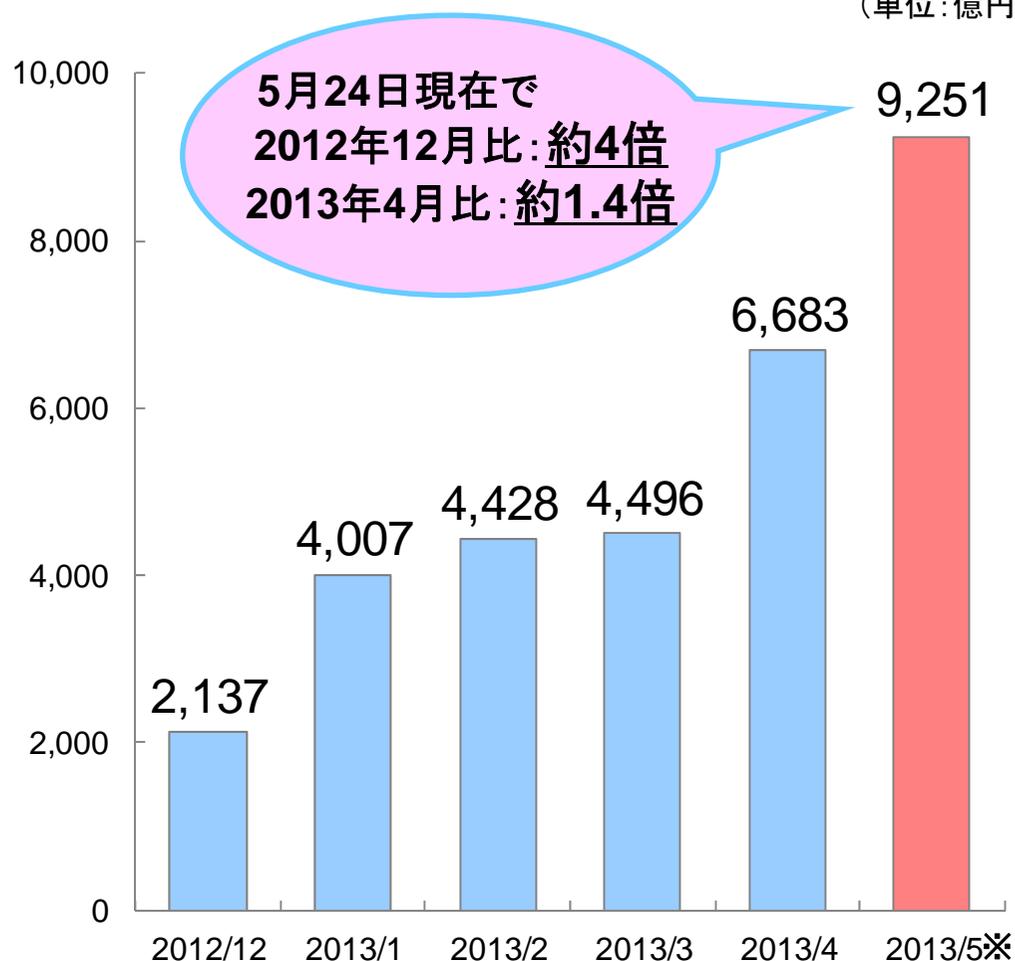
『株売買代金55%増  
ネット証券7社 4月35兆円に』



(2013年5月8日 日本経済新聞 朝刊)

[ SBI証券における一日平均売買代金の推移 ]  
(2012年12月～2013年5月)

(単位:億円)



※2013年5月の一日平均売買代金は5月24日現在の速報値

# 活況なマーケット環境下で様変わりする SBI証券の取引状況(3)

- 上昇基調にある株式市場を追い風に、顧客基盤が大幅に拡大

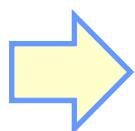
|                   | 2012年12月 | 2013年1月～5月24日現在<br>までの平均 |
|-------------------|----------|--------------------------|
| 新規獲得口座数<br>(一日平均) | 830      | 1,684                    |

2012年12月比  
2倍以上

|      | 2012年12月末 | 2013年3月末  |
|------|-----------|-----------|
| 預り資産 | 5兆1,418億円 | 6兆3,603億円 |

2012年12月比  
23.7%増

- 2014年1月開始予定の「少額投資非課税制度(日本版ISA)」  
長期保有を目的とする株式・投信の取引の更なる増加が見込まれる  
SBI証券では、2013年3月29日から口座開設の予約申込みの受付開始



予約受付開始から1ヶ月で目標口座の3割以上を既に受付

SBI証券:

# 全ての利益項目(営業利益・経常利益・当期純利益)で 過去最高を記録した2006年3月期との比較



## SBI証券 純営業収益(単体)の比較

(単位:百万円)

|            |            | 2006/3期 | 2013/3期 | 増加額      | 増減率    |            |
|------------|------------|---------|---------|----------|--------|------------|
|            | 金融収支       | 8,198   | 10,187  | 1,988    | 24.3%  | 金融収支 24%増  |
|            | FX収益       | 1,395   | 3,708   | 2,313    | 165.8% | FX 2.6倍    |
|            | 信託報酬等      | 241     | 2,327   | 2,085    | 861.7% | 信託報酬 9.6倍  |
|            | 債券売買収益     | 1,218   | 1,886   | 668      | 54.8%  | 債券売買益 55%増 |
|            | 募集手数料      | 1,510   | 1,858   | 347      | 23.0%  | 募集手数料 23%増 |
|            | その他受入手数料   | 983     | 1,590   | 607      | 61.8%  |            |
|            | その他トレーディング | 356     | 1,135   | 778      | 218.4% | 為替益等 3倍    |
|            | 引受手数料      | 255     | 297     | 42       | 16.6%  |            |
|            | その他営業収益    | 258     | 74      | ▲ 184    | ▲71.3% | 有料情報の無償化拡大 |
| 委託手数料以外の収益 |            | 14,418  | 23,065  | 8,647    | 60.0%  | 60%増       |
| 委託手数料      |            | 36,922  | 17,304  | ▲ 19,618 | ▲53.1% | 委託手数料 53%減 |
| 純営業収益      |            | 51,341  | 40,370  | ▲ 10,971 | ▲21.4% | 21%減       |

年間委託売買代金 77兆6,558億円【手数料率 4.8bp】

年間委託売買代金 50兆530億円【手数料率 3.3bp】

## 2013年4月は2006年3月期の月次に 迫る利益水準へ

[ 月次(単体業績)での利益水準比較 ]

(単位:億円)

|      | 2005年 | 2006年 |    |    | 2013年 |    |              |
|------|-------|-------|----|----|-------|----|--------------|
|      | 12月   | 1月    | 2月 | 3月 | 3月    | 4月 | 5月※<br>(見込み) |
| 営業収益 | 62    | 64    | 57 | 58 | 57    | 66 | 76           |
| 営業利益 | 37    | 36    | 32 | 33 | 24    | 31 | 36以上         |

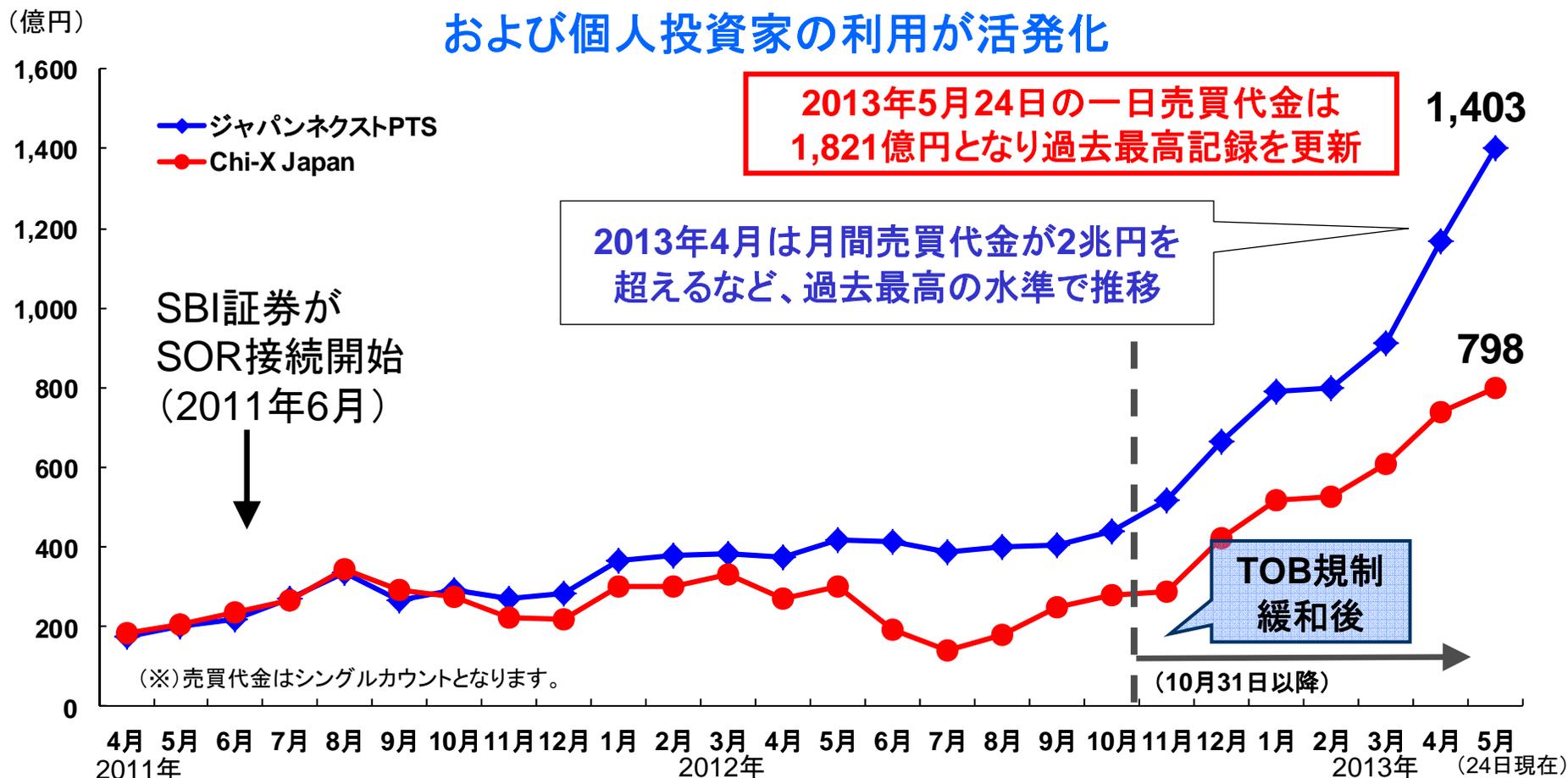
月次の過去最高益

2006年3月期は、通期の営業利益(連結)  
においても過去最高益(300億円)を記録

※2013年5月度見込みの単体営業収益および営業利益は2013年5月23日現在の暫定値

# ジャパンネクストPTSの月間一日平均売買代金は急増

2012年末のTOB規制緩和やアベノミクス効果により、機関投資家  
および個人投資家の利用が活発化



## TOB規制

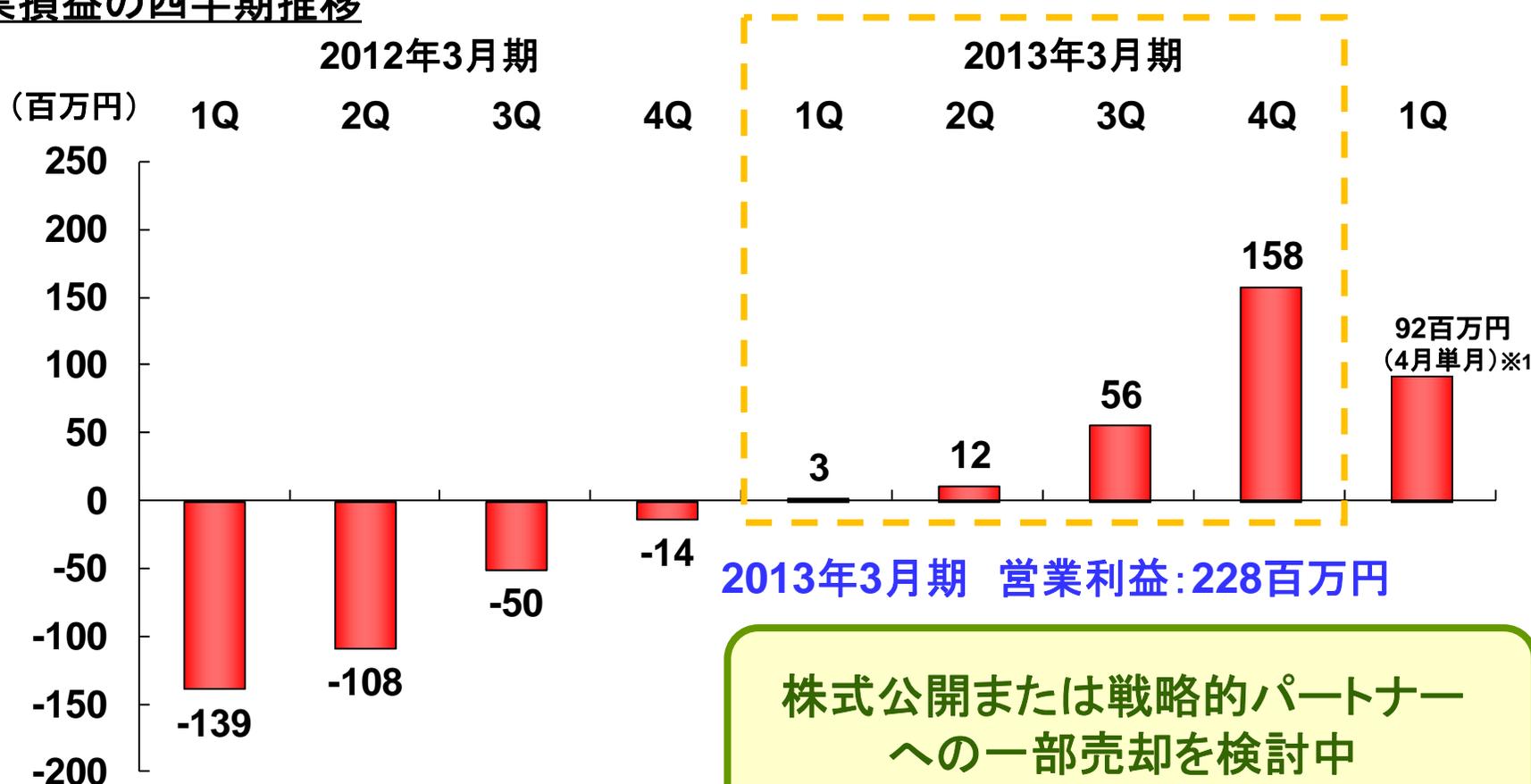
PTSの利用においては、株式保有比率が5%を超えたり、既に5%を超えている株主が買い増したりする場合は、TOB(株式公開買い付け)の実施が義務付けられていたため、大手機関投資家がPTSの利用を敬遠する要因となっていた。

# SBIジャパンネクスト証券の業績推移

(2012年9月より連結子会社化)

**売買代金は引き続き順調に拡大し、2013年3月期は1Qに黒字化。以降、加速度的に黒字幅を拡大。**

## 営業損益の四半期推移



## 順調に増加する取引参加企業

### 【既存の取引参加企業】(計20社)

- ・ SBI証券
- ・ ゴールドマン・サックス証券
- ・ モルガン・スタンレーMUFG証券
- ・ メリルリンチ日本証券
- ・ ドイツ証券
- ・ ソシエテ・ジェネラル証券
- ・ JPモルガン証券
- ・ クレディ・スイス証券
- ・ UBS証券
- ・ BNPパリバ証券
- ・ シティグループ証券
- ・ みずほ証券
- ・ バークレイズ証券
- ・ 野村證券
- ・ ニューエッジ・ジャパン証券
- ・ マッコーリー・キャピタル証券
- ・ **SMBC日興証券**(2012年5月)
- ・ **三菱UFJモルガン・スタンレー証券**(2012年5月)
- ・ **大和証券**(2012年10月)
- ・ **立花証券**(2012年11月)

2013年3月期に新たに4社が取引参加

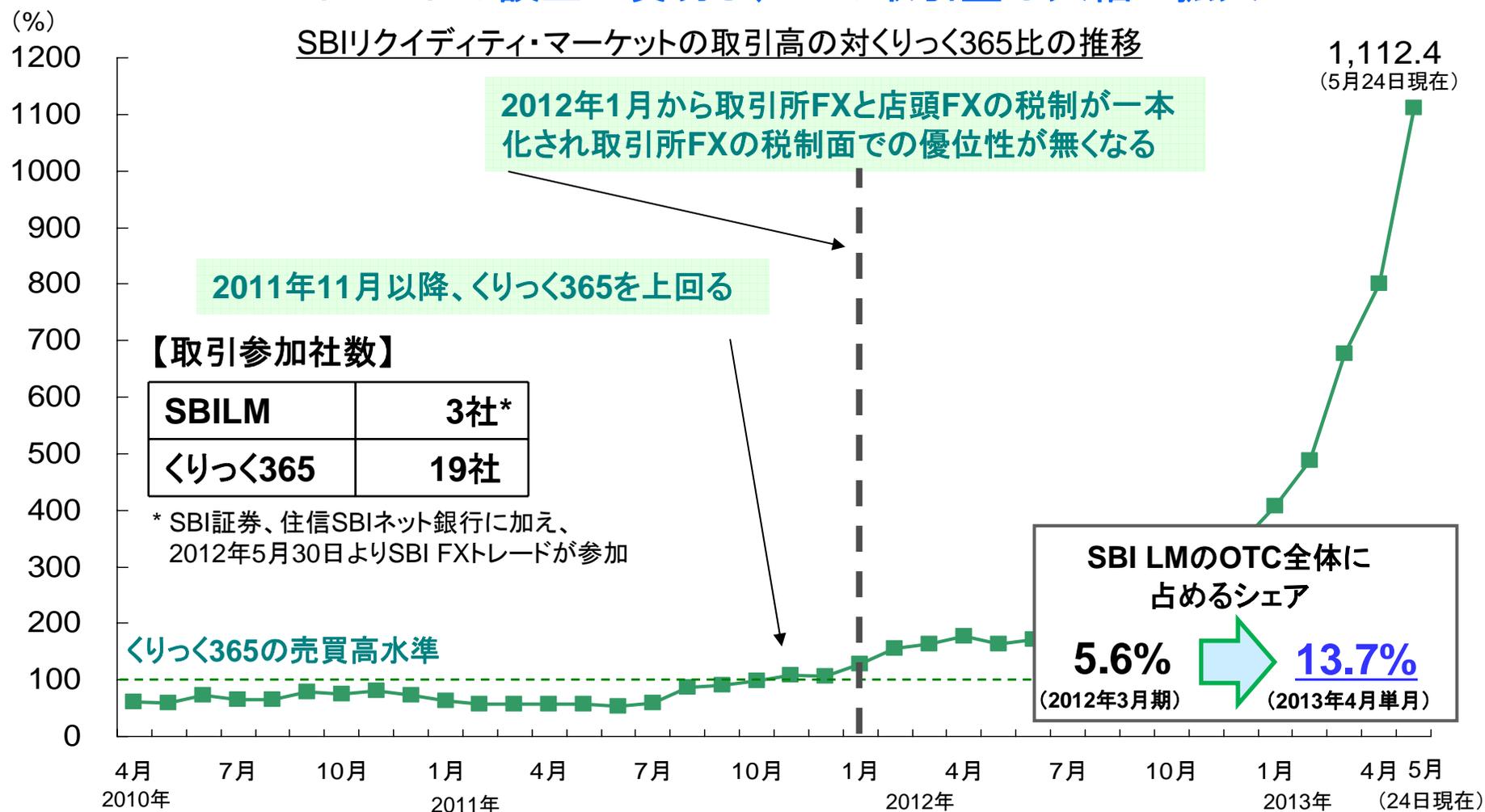
### 【今後の参加企業】

外資系2社、他日系数社が新たに接続の見込み

2013年2月中旬から新しい通信規約を提供したことで、世界最速水準のマッチングエンジンの性能を最大限発揮しさらなる性能向上を実現

# SBIリクイディティ・マーケットの売買高は取引所FXのくりっく365を大きく上回り順調に推移

2012年1月の店頭FX取引に係る制度改定(FX税制改正)やSBI FXトレードの設立が奏功し、FXの取引量は大幅に拡大



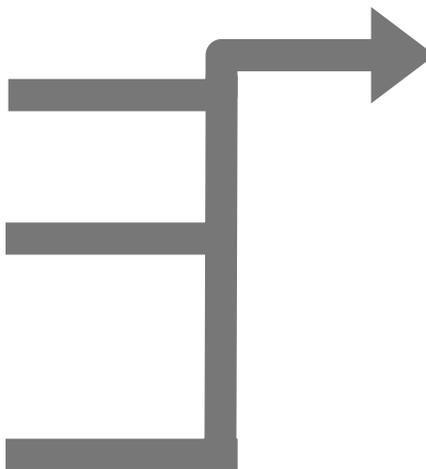
# SBIグループとしての店頭FX業界における ポジションは第3位の水準に

店頭FX業者全体におけるSBIグループ全体としての売買高順位は  
50社中**3位**(※当社集計)(2013年4月度)の水準に達する

外国為替証拠金取引の月次取引状況(2013年4月)

|     | 社名         |
|-----|------------|
| 1位  | A社         |
| 2位  | B社         |
| 3位  | C社         |
| 4位  | SBI FXトレード |
| 5位  | D社         |
| 6位  | SBI証券      |
| 7位  | E社         |
| ⋮   | ⋮          |
| 18位 | 住信SBIネット銀行 |
| ⋮   | ⋮          |
| 50位 | X社         |

SBIグループ  
で合算すると



2012年5月30日  
サービス開始

|     | 社名                                |
|-----|-----------------------------------|
| 1位  | A社                                |
| 2位  | B社                                |
| 3位  | SBIグループ全体<br>(SBIリクイディティマーケット取引高) |
| 4位  | C社                                |
| 5位  | D社                                |
| 6位  | E社                                |
| 7位  | F社                                |
| ⋮   | ⋮                                 |
| ⋮   | ⋮                                 |
| 48位 | X社                                |

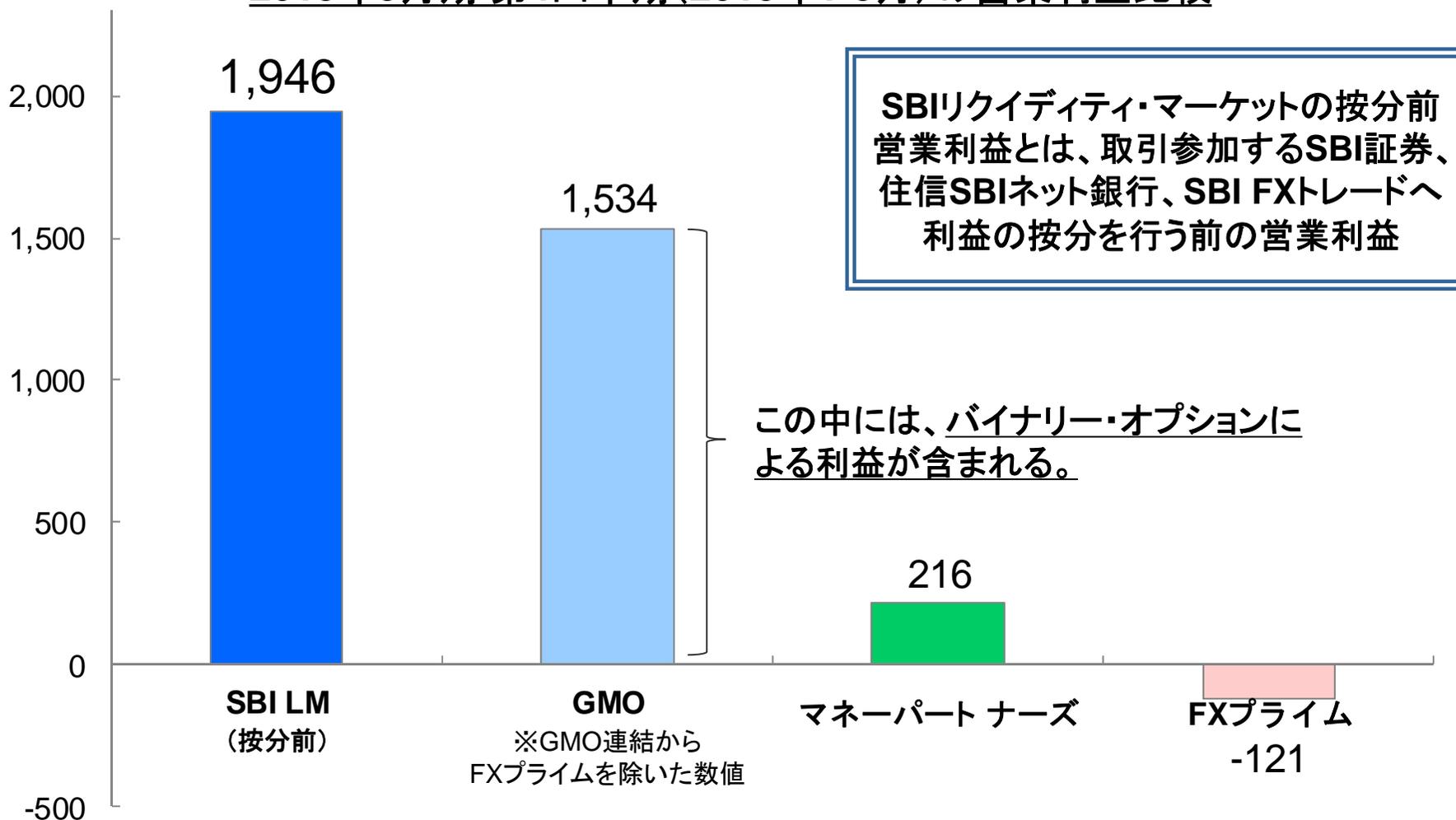
※順位は取引通貨金額による

## 競合店頭FX業者との営業利益比較

**SBIリクイディティ・マーケットの営業利益(按分前)は、競合他社を圧倒**

(単位:百万円)

### 2013年3月期 第4四半期(2013年1-3月)の営業利益比較

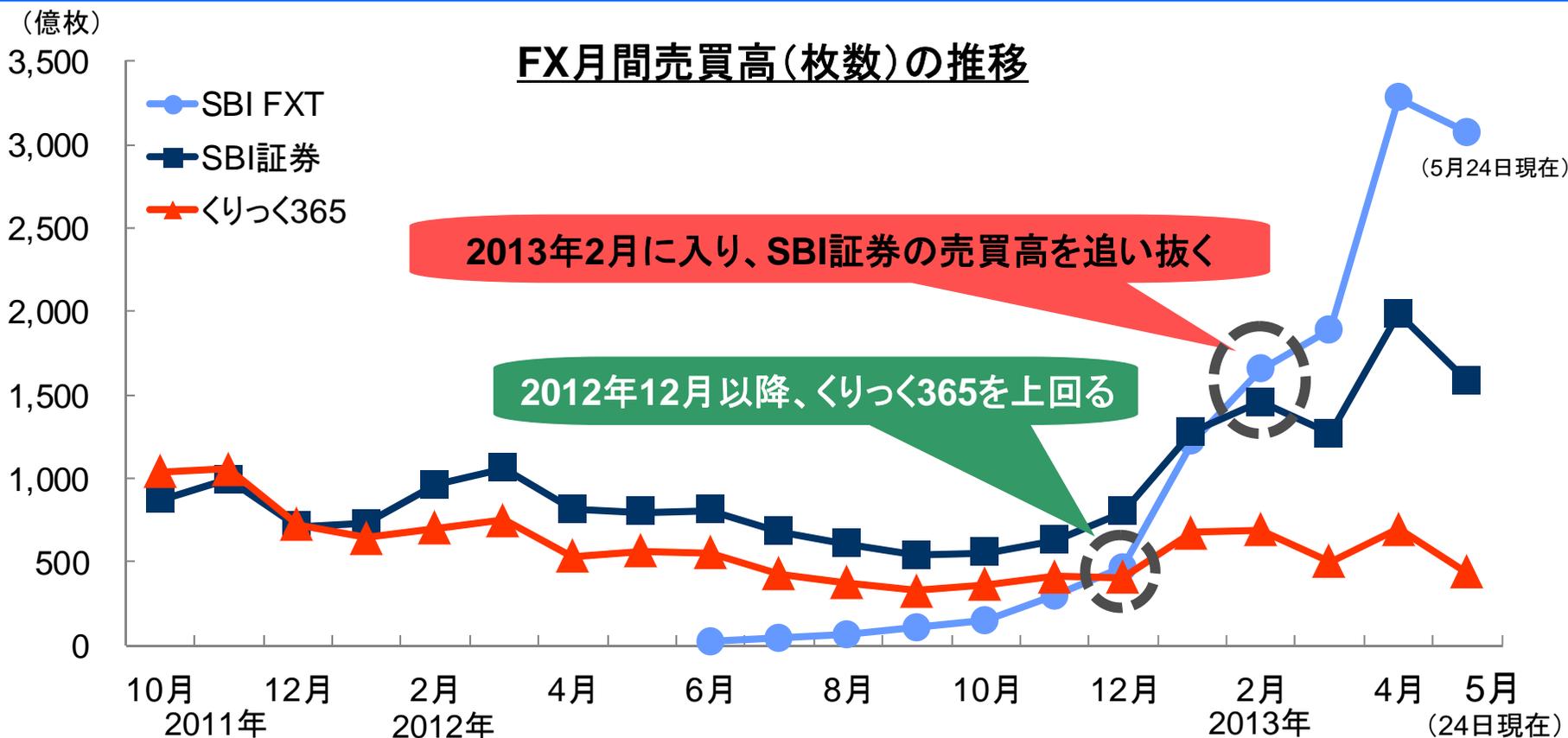


# SBI FXトレードは主要通貨ペア全てにおける大幅な スプレッド縮小により圧倒的有利な取引条件を実現

(例:USD/JPY 1~1万通貨 0.10銭)



店頭FX業者全体におけるSBI FXトレードの売買高順位は50社中  
19位(9月)→15位(10月)→11位(11月、12月)→8位(1月)→6位(2月)→5位(3月)→**4位**(4月)と躍進中



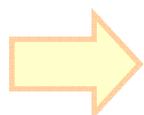
お客様の利便性向上とサービスの一層の充実などに取り組んだことなどが高く評価され、  
**2013年度オリコン顧客満足度ランキング「FX取引(初心者)」部門にて第1位を獲得**

出所:東京金融取引所資料、金融先物取引業協会資料

## FX業界における規制強化について

### ■ 「バイナリー・オプション」規制への動き

設定された条件(為替相場が現在よりも「上」か「下」か)をクリアするか、しないかのどちらかを予想し、当たれば利益が得られ、外れた場合は投資額が「ゼロ」になる取引で、一部の大手FX専業会社において取扱いのある人気商品。

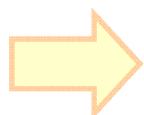


「賭博性」の高い商品設計となっており、過度の投機的取引を助長するものとして問題視され、金融先物取引業協会が自主規制をまとめ、関連法令も改正手続き中。

SBI FXトレードでは、これまでバイナリー・オプション商品の取扱いをあえて行ってこなかったが、今後新規制のもとでの対応は検討中

### ■ 「スリッページ※」問題に対する規制の可能性

顧客がパソコンなどを通じて行った発注から、実際に約定するまでにタイムラグが生じることを利用し、利益確定などを意図的に遅延させ、顧客にとって不利なレートで約定させることで、自社の利益を確保するFX業者が散見。



2013年1月 金融庁が金融先物取引業協会に規制の検討を依頼。  
一部のFX業者に対する検査で問題点が指摘されており、米国同様、自主規制ルールが制定され、業者へのペナルティが課される可能性が高い。

SBIグループでは顧客の注文がサーバに到達した時点での最優良執行価格で約定

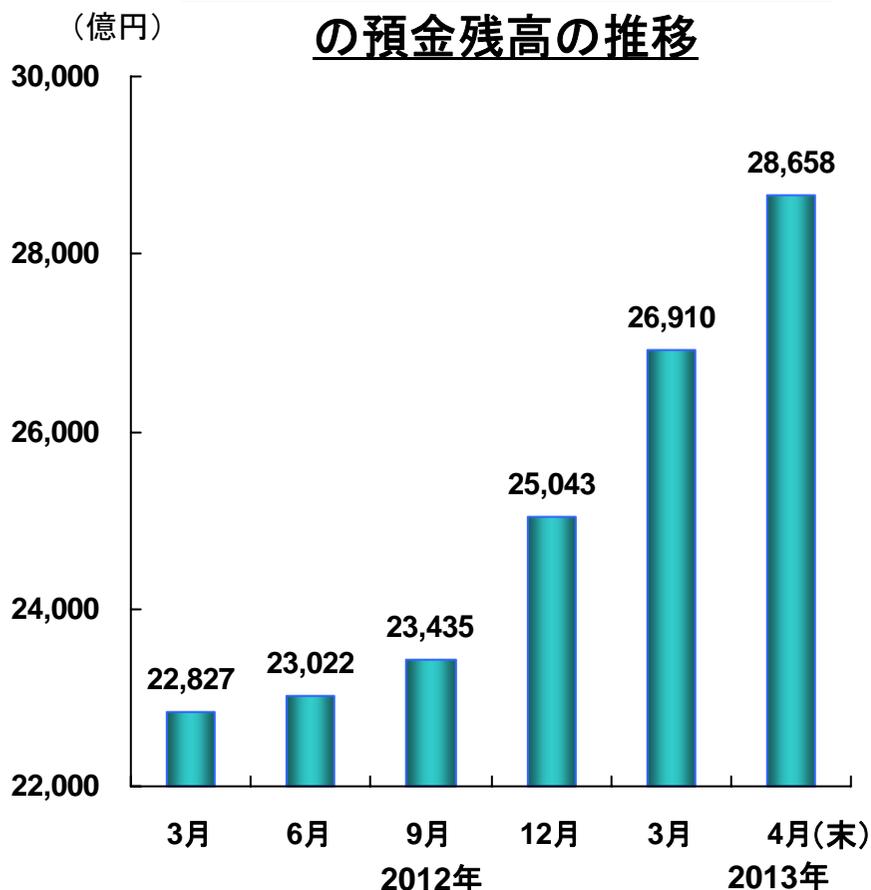
## (ii) 住信SBIネット銀行(持分法適用会社)

- 2013年3月末時点で口座数は164万口座、預金残高は2兆6,910億円に達し、2013年5月10日には預金残高が2兆9,000億円を突破するなど、引き続き事業基盤は順調に拡大
- 住宅ローンやパーソナルローン、オートローン等、運用手段の多様化が進む
- 住信SBIネット銀行は順調に業容を拡大させており、2013年3月期の経常利益は前期比36.4%増の79億円へ

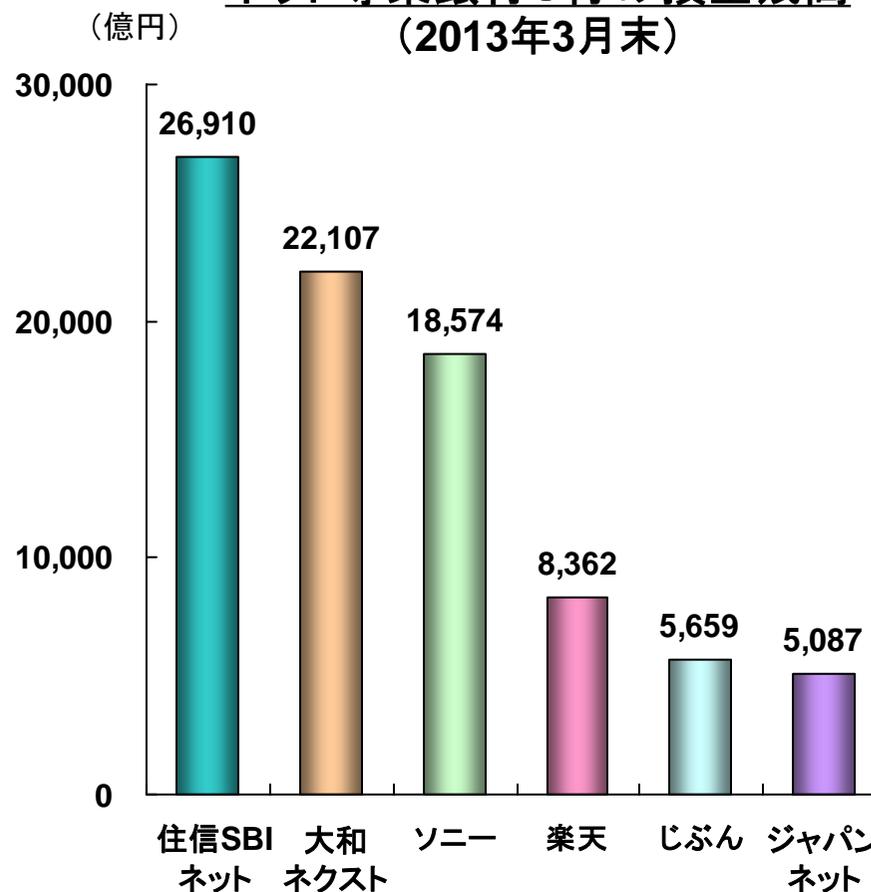
# 預金残高はネット専門銀行で初めて 2兆9,000億円を突破(2013年5月10日)

口座数: 1,675,624 / 預金残高: 2兆8,658億円  
(2013年4月末時点)

### 直近1年間の住信SBIネット銀行 の預金残高の推移



### ネット専門銀行6行の預金残高 (2013年3月末)



# 順調に積み上がる預金残高



**地方銀行・新規参入銀行等75行のうち、住信SBIネット銀行は37位(2013年3月末)**

**今年度中に30位圏内へ**

## 預金残高順銀行ランキング(地方銀行・新規参入銀行等)

(単位:億円)

| 順位 | 銀行名      | 上場       | 預金残高    |
|----|----------|----------|---------|
| 1  | 横浜銀行     | ○        | 110,916 |
| 2  | 千葉銀行     | ○        | 93,765  |
| 3  | 福岡銀行     | 銀行持株会社※1 | 76,886  |
| 4  | 静岡銀行     | ○        | 76,741  |
| 5  | 常陽銀行     | ○        | 72,666  |
| 6  | 七十七銀行    | ○        | 65,323  |
| 7  | 西日本シティ銀行 | ○        | 63,140  |
| 8  | 京都銀行     | ○        | 58,702  |
| 9  | 広島銀行     | ○        | 57,646  |
| 10 | 八十二銀行    | ○        | 56,700  |
| 11 | 群馬銀行     | ○        | 56,449  |
| 12 | 新生銀行     | ○        | 56,101  |
| 13 | 北陸銀行     | 銀行持株会社   | 54,431  |
| 14 | 中国銀行     | ○        | 53,150  |
| 15 | 足利銀行     | 銀行持株会社   | 46,863  |

| 順位 | 銀行名      | 上場     | 預金残高   |
|----|----------|--------|--------|
| 16 | 伊予銀行     | ○      | 45,025 |
| 17 | 池田泉州銀行   | 銀行持株会社 | 44,077 |
| 18 | 山口銀行     | 銀行持株会社 | 43,755 |
| 19 | 南都銀行     | ○      | 42,899 |
| 20 | 十六銀行     | ○      | 42,811 |
| 21 | 北海道銀行    | 銀行持株会社 | 41,476 |
| 22 | 第四銀行     | ○      | 40,470 |
| 23 | 滋賀銀行     | ○      | 39,945 |
| 24 | 百五銀行     | ○      | 39,378 |
| 25 | 大垣共立銀行   | ○      | 38,147 |
| 26 | 東邦銀行     | ○      | 38,019 |
| 27 | 肥後銀行     | ○      | 35,909 |
| 28 | 山陰合同銀行   | ○      | 35,850 |
| 29 | 武蔵野銀行    | ○      | 35,162 |
| 30 | シティバンク銀行 | ×      | 35,105 |

| 順位 | 銀行名        | 上場     | 預金残高   |
|----|------------|--------|--------|
| 31 | 紀陽銀行       | 銀行持株会社 | 34,470 |
| 32 | 百十四銀行      | ○      | 33,837 |
| 33 | スルガ銀行      | ○      | 32,650 |
| 34 | 近畿大阪銀行     | 銀行持株会社 | 32,361 |
| 35 | 鹿児島銀行      | ○      | 30,999 |
| 36 | 北國銀行       | ○      | 29,640 |
| 37 | 住信SBIネット銀行 | ×      | 29,579 |
| 38 | あおぞら銀行     | ○      | 27,276 |
| 39 | 岩手銀行       | ○      | 25,849 |
| 40 | 山梨中央銀行     | ○      | 24,643 |

※1:銀行持株会社が上場

⋮

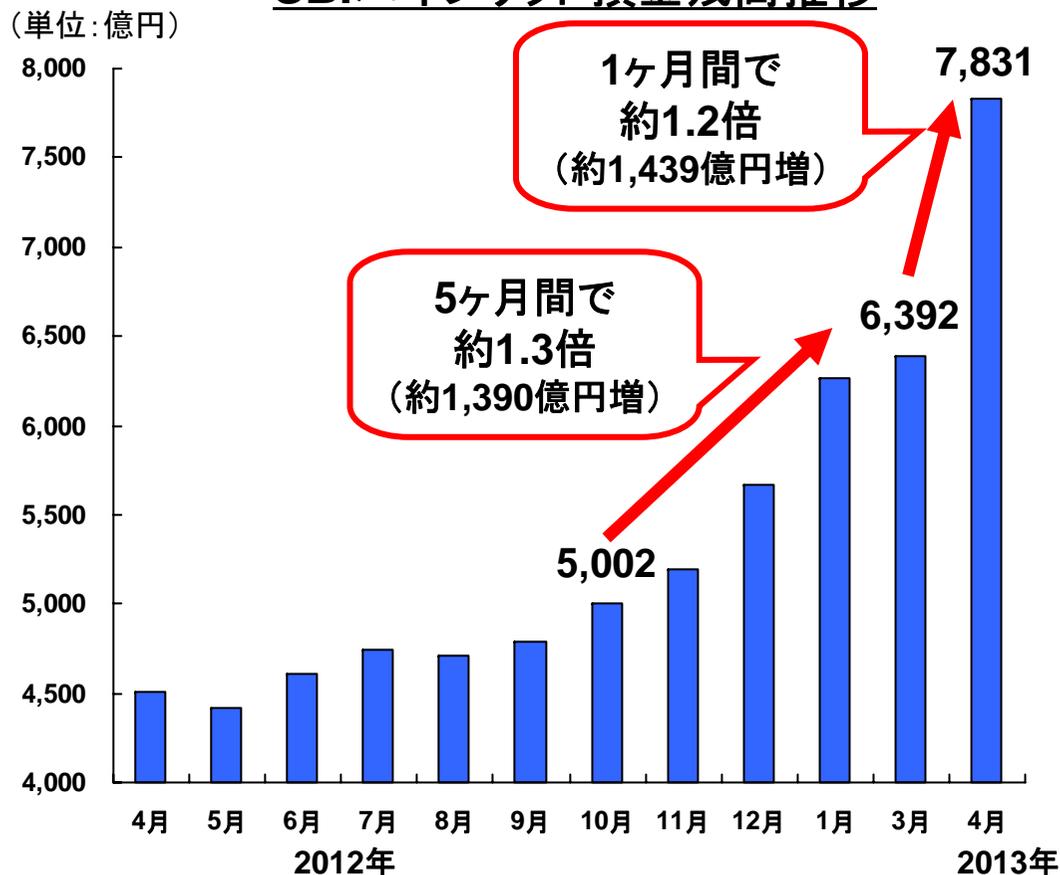
※2012年3月末時点。  
但し住信SBIネット銀行は2013年5月26日時点。  
(出所)一般社団法人全国銀行協会、各社HP

# SBI証券とのシナジーが預金残高増加に寄与 (SBIハイブリッド預金)

**SBIハイブリッド預金(証券取引の売買代金自動入出金サービス) :**

SBI証券における株式等の現物取引の買付余力の計算、信用取引における信用建余力の計算、現引可能額の計算に利用可能。

## SBIハイブリッド預金残高推移



背景:

・2012年末から住信SBIネット銀行・SBI証券両社の口座開設数が伸びていることから、SBIハイブリッド預金の利用者も増加

SBI証券の新規口座開設者の35%程度が銀行口座も開設

・株式市場における市況回復を背景に1口座あたりの預金残高も増加

# 運用手段の多様化(例)住宅ローン



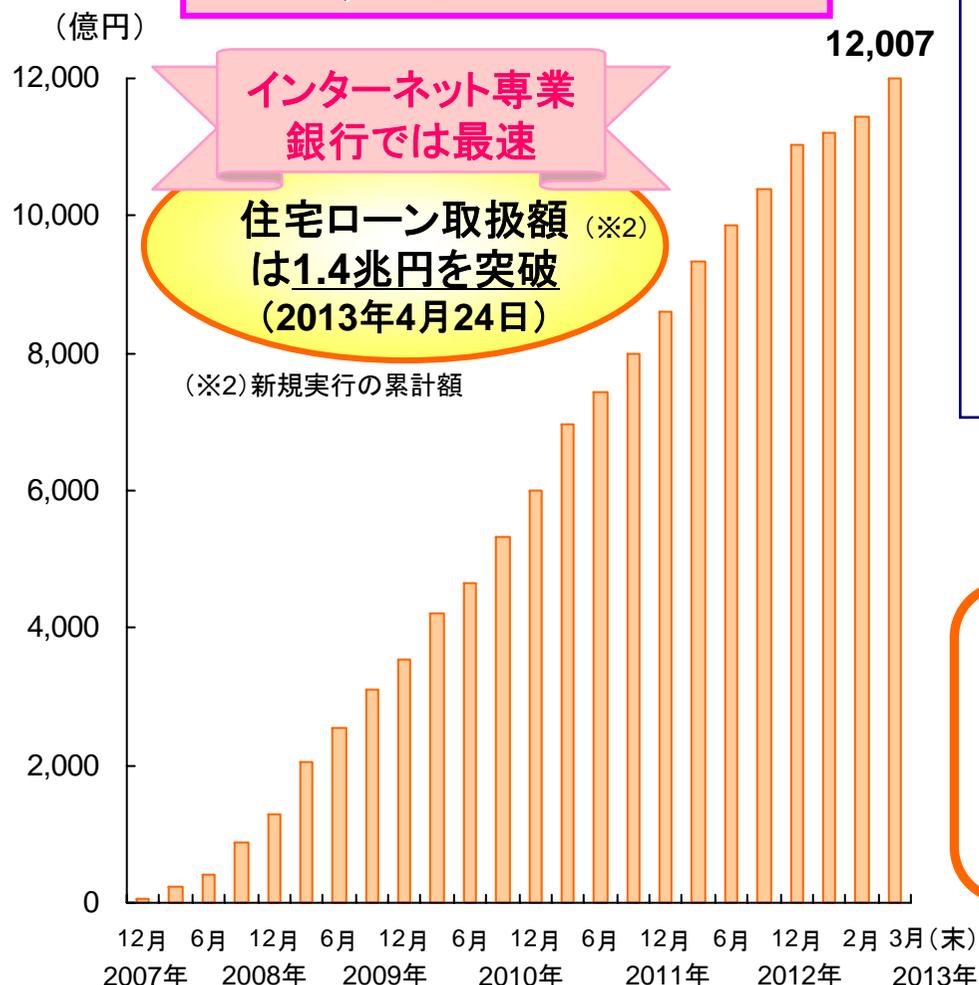
**オートローン(1,620億円※4月末)、ネットローン(500億円※5月17日)も残高が拡大**

## 住宅ローン残高(※1)の推移

(2007年12月～2013年3月末)

(※1)新規実行の累計額から返済分を控除。  
三井住友信託銀行の代理店経由等を含む

1兆2,007億円(2013年3月末)



### 住信SBIネット銀行の住宅ローン事業:

- ①住信SBIネット銀行による提携不動産会社経由の住宅ローン(2007年9月～)
- ②三井住友信託銀行の銀行代理業(2012年1月～)

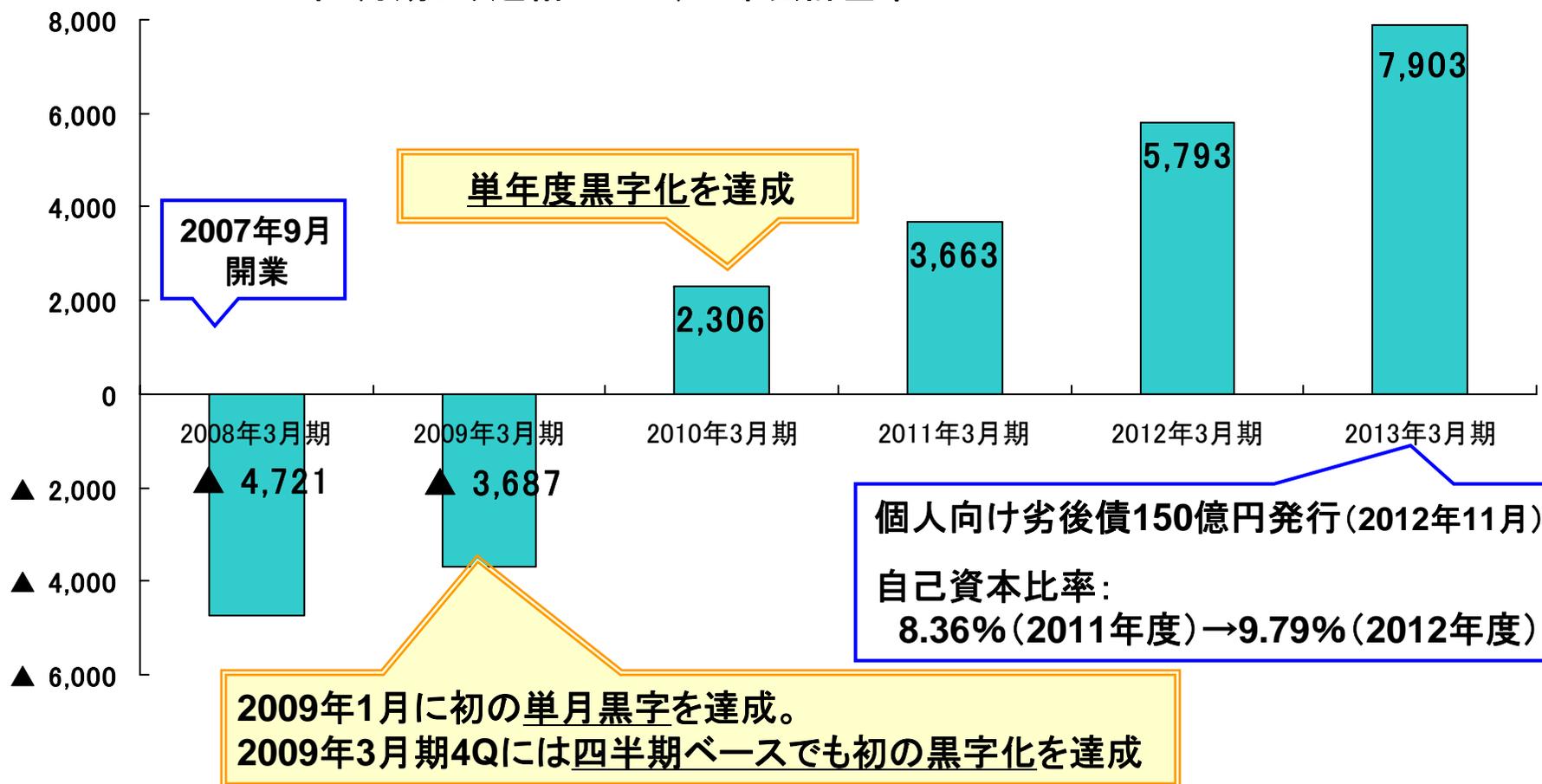


**2013年3月期の住宅ローン事業(①+②)は取扱件数が前期比で17%増加し、手数料も前期比15%増加。**

# 2013年3月期の経常利益は 前期比36.4%増の79億円へ

## 住信SBIネット銀行の開業後の経常利益の推移

(百万円) ※2010年3月期より連結ベース、日本会計基準



# インターネット専門銀行の業績比較

## (日本会計基準)

### 【2013年3月期決算】

単位: 億円、( )内は前年同期比。

|              | 創業時期     | 貸出残高   | 経常収益        | 経常利益      | 当期純利益     |
|--------------|----------|--------|-------------|-----------|-----------|
| 住信SBIネット銀    | 2007年9月  | 11,297 | 402 (16.1)  | 79 (36.4) | 47 (▲7.3) |
| 大和ネクスト銀(単体)  | 2011年5月  | 892    | 285 (214.9) | 50 (前年赤字) | 33 (前年赤字) |
| ソニー銀         | 2001年6月  | 9,702  | 343 (5.5)   | 45 (12.4) | 33 (87.6) |
| 楽天銀          | 2001年7月  | 1,998  | 412 (7.7)   | 84 (32.9) | 118 (9.8) |
| じぶん銀(単体)     | 2008年7月  | 649    | 171 (139.4) | 18 (前年赤字) | 18 (前年赤字) |
| ジャパンネット銀(単体) | 2000年10月 | 289    | 185 (▲0.8)  | 25 (11.2) | 15 (9.9)  |

累損を解消し、2012年3月期第4四半期より法人税納税を開始したため、住信SBIネット銀行の2013年3月期当期純利益は7.3%減の47億円に。

**住信SBIネット銀行は2013年度も好調にスタートした模様**

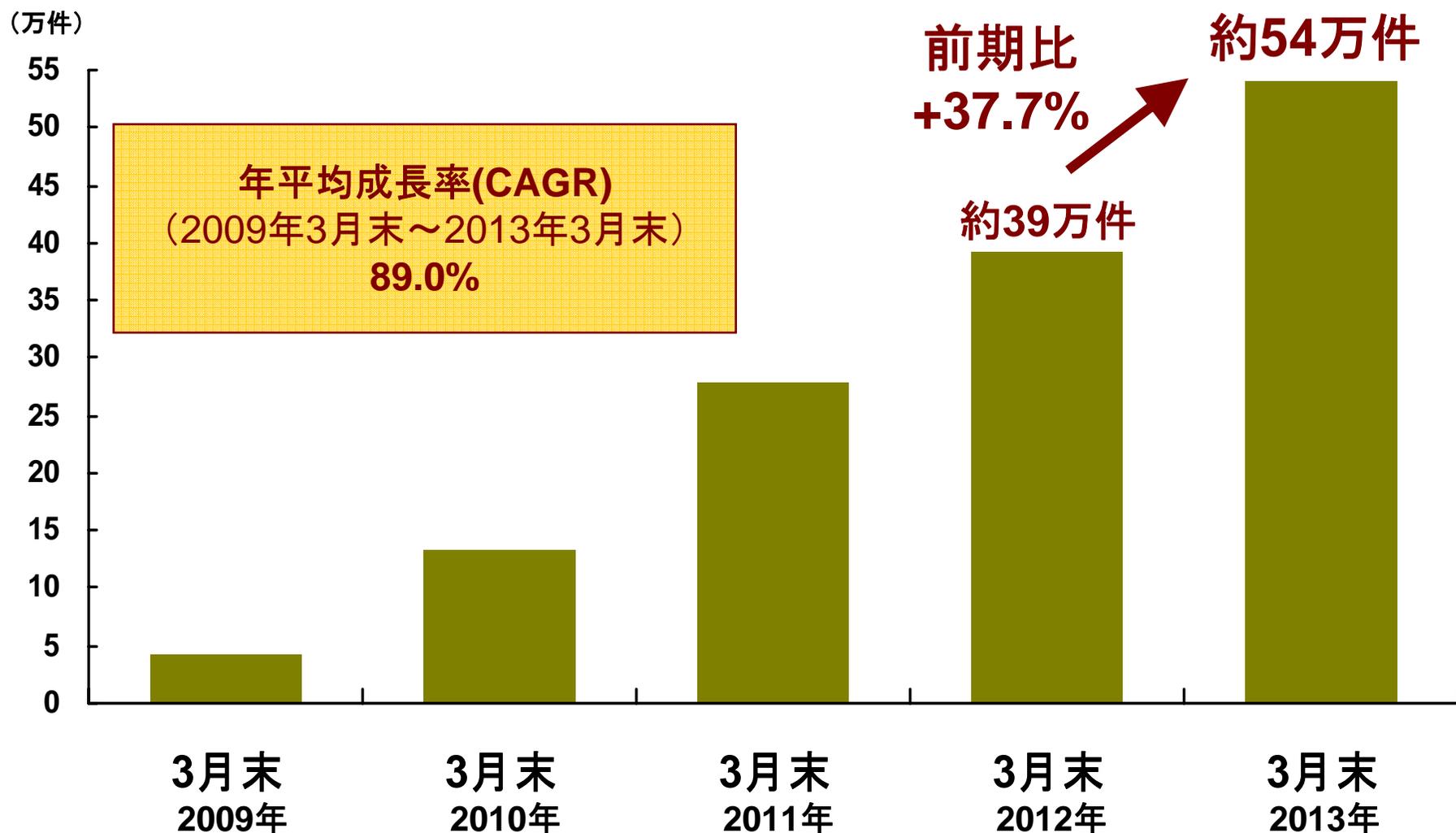
## (iii) SBI損保

- 自動車保険の保有契約件数は前期比37.7%増、元受収入保険料も同36.5%増と、引き続き順調に拡大
- 収益性向上のための施策が功を奏し、純損失は改善傾向を示し、営業キャッシュフローは1.9億円の黒字
- コンバインド・レシオは2013年3月期に実質的に(※あいおい損保(当時)への精算金支払い7.6億円を除外した場合)100%以下を実現。  
2014年3月期においてはIFRS連結ベースで四半期での実質黒字化を目指す。

# SBI損保の自動車保険 保有契約件数は約54万件、前期比37.7%増

自動車保険 契約数(計上ベース※)

2013年4月末:約55万件



※計上=保険料の入金完了ベース、継続契約、継続期間満了、中途解約者数は除く 43

SBI損保:

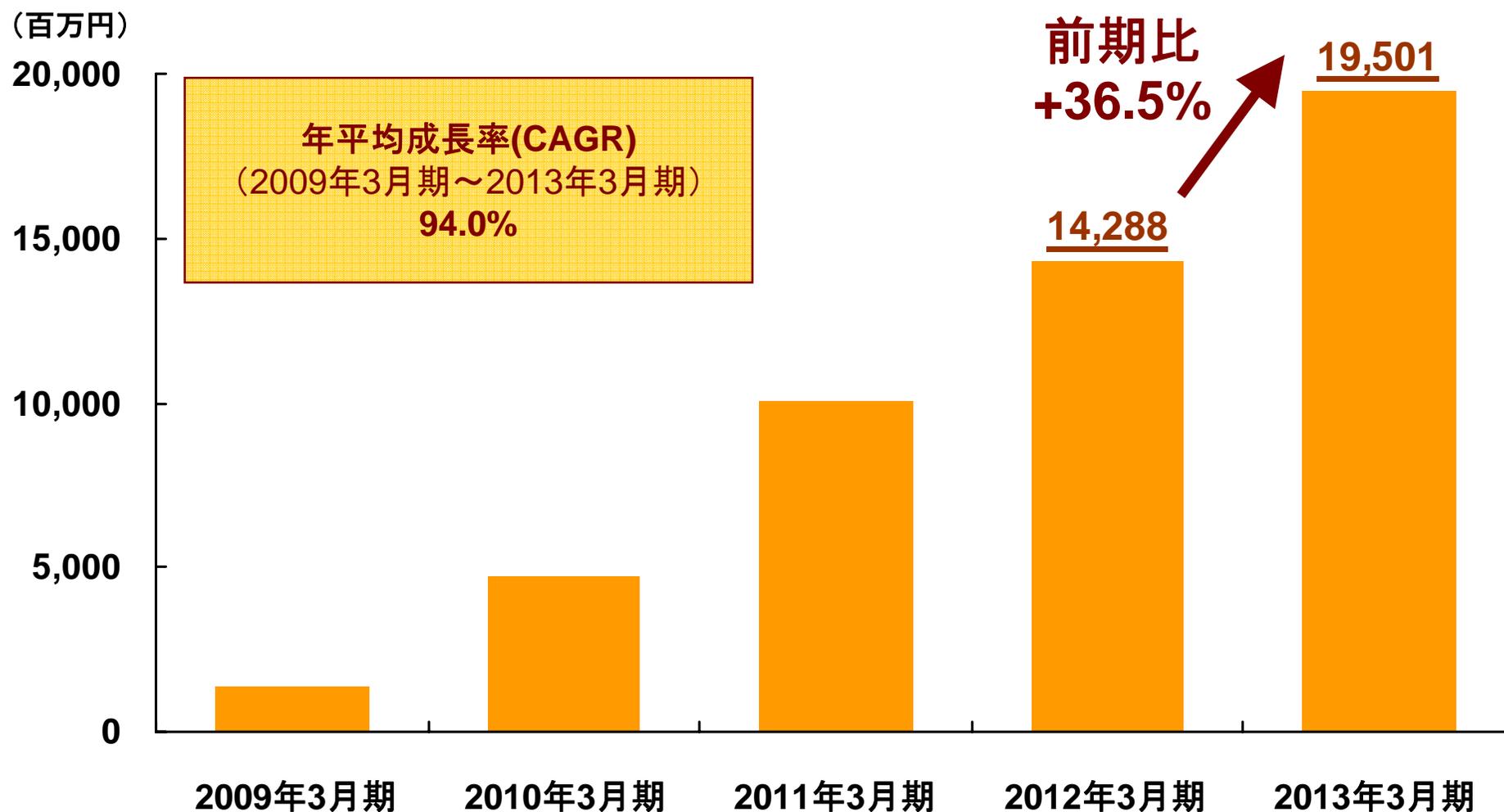
# SBI損保の自動車保険、元受収入保険料も順調に推移 前期比36.5%増



## 元受収入保険料の推移

【2014年3月期】

2013年4月単月(速報値): 2,270百万円



# ダイレクト系損保主要各社の自動車保険料収入比較

## 【自動車保険料収入の比較】

(単位:百万円)

|                | 開業時期     | 2011年<br>3月期  | 2012年3月期     |               | 2013年3月期     |                                |
|----------------|----------|---------------|--------------|---------------|--------------|--------------------------------|
| ソニー損保          | 1999年9月  | 65,516        | ソニー損保        | 70,712        | ソニー損保        | 74,406                         |
| アクサ<br>ダイレクト   | 1999年7月  | 33,271        | アクサ<br>ダイレクト | 35,261        | アクサ<br>ダイレクト | 38,136                         |
| 三井ダイレクト        | 2000年6月  | 32,688        | 三井ダイレクト      | 33,830        | 三井ダイレクト      | 34,735                         |
| チューリッヒ<br>保険※1 | 1986年7月  | 27,931        | チューリッヒ<br>保険 | 30,126        | チューリッヒ<br>保険 | 未発表<br>(3Q累計:22,810)           |
| アメリカン<br>ホーム   | 1960年12月 | 17,143        | アメリカン<br>ホーム | 16,594        | <b>SBI損保</b> | <b>19,501</b><br>(3Q累計:14,416) |
| そんぽ24          | 2001年3月  | 10,697        | <b>SBI損保</b> | <b>14,288</b> | アメリカン<br>ホーム | 未発表<br>(3Q累計:11,265)           |
| <b>SBI損保</b>   | 2008年1月  | <b>10,069</b> | そんぽ24        | 11,810        | そんぽ24        | <b>12,890</b>                  |
| イーデザイン<br>損保※2 | 2009年6月  | 2,856         | イーデザイン<br>損保 | 5,213         | イーデザイン<br>損保 | <b>10,523</b>                  |

## 収益性向上に向けた取り組み

### 【フェーズ1】

あいおい損保(当時)との再保険契約終了(2011年3月末)  
業務委託契約終了(2012年3月末)

- ・ 創業期の引受リスク、資本負担の軽減を主目的としていた再保険契約の新規拠出を終了
- ・ コールセンター等の業務委託契約を終了し、費用を固定化

### 【フェーズ2】

さらなる事業費の圧縮、損害率改善のための施策を次々と実施

<施策例>

- ・ 事故対応における時間外・休日受付業務の内製化による外部委託コストの削減
- ・ コールセンターの稼働時間の変更
- ・ SBIマネープラザと連携したリアル販売チャネルの強化
- ・ 商品ポートフォリオの多様化
- ・ ペーパーレス化、各種帳票の見直しによる郵送費の節減
- ・ ターゲットマーケティングの強化による広告宣伝費の圧縮

## コンバインド・レシオの改善状況

コンバインド・レシオが大幅に改善。2013年3月期は、実質的には100%以下となる。2014年3月期には四半期の実質黒字化(当社IFRS連結ベース)を目指す。

|                           | コンバインド・レシオ   | = | 正味事業費率       | + | 正味損害率        |
|---------------------------|--------------|---|--------------|---|--------------|
| 2011年3月期                  | 175.9%       |   | 82.3%        |   | 93.6%        |
| 2013年3月期                  | 103.1%       |   | 33.4%        |   | 69.8%        |
| <u>2013年3月期<br/>(修正後)</u> | <u>99.2%</u> |   | <u>29.4%</u> |   | <u>69.8%</u> |

あいおい損保(当時)との再保険に関する清算金7.6億円を除外した場合

※コンバインド・レシオ

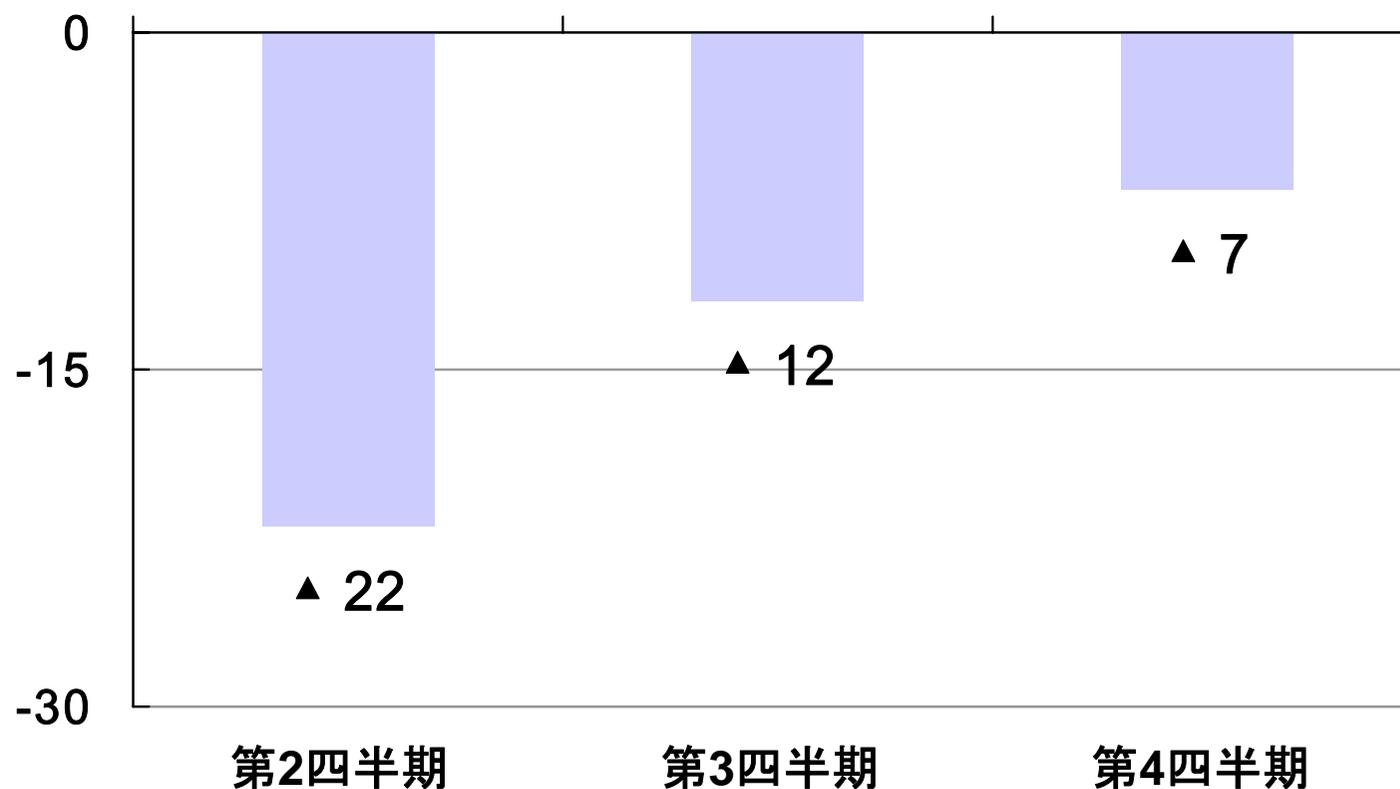
損害保険会社の収益力を示す指標。保険料収入に対する保険金の支払、事業費支出の割合を示す。

## 業績の改善状況

純損失は2013年3月期第2四半期を底に改善傾向を示しており、  
営業キャッシュフローは1.9億円の黒字

### 【2013年3月期 純損失※】

(単位:億円)



※当社連結への影響(国際会計基準(IFRS))

## (iv) SBIマネープラザ

(2012年6月15日より営業開始)

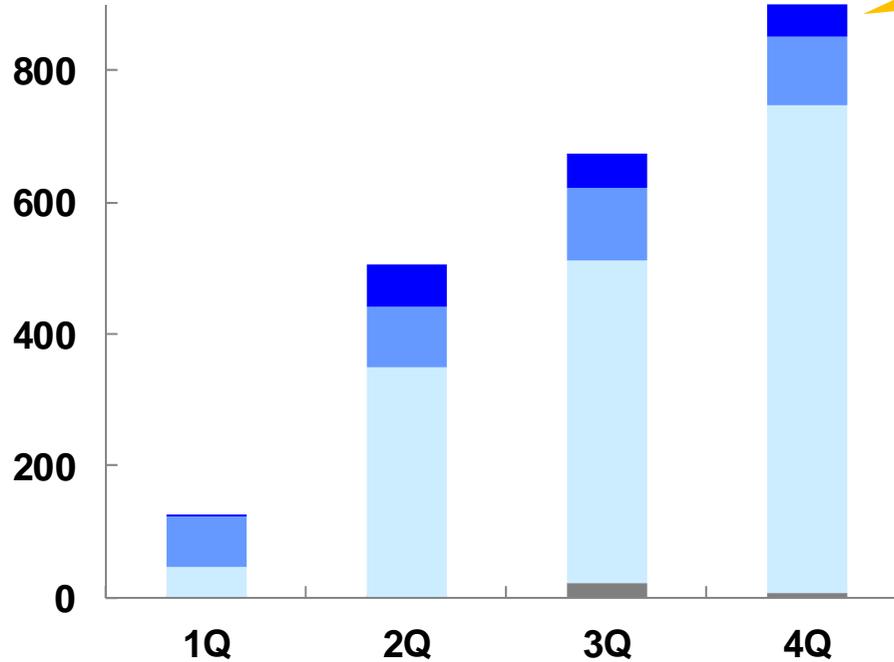
- 2013年3月期第4四半期は好調な株式相場を追い風に証券事業の売上が大幅に拡大
- 第2四半期までの累積損失を一掃し、2013年3月期通期の営業利益は36百万円となり、営業開始初年度からの通期黒字化を達成
- 2014年3月期第1四半期は、最低5億円程度の営業利益確保を目指す

## SBIマネープラザは営業開始初年度からの 通期営業黒字化を達成 (2012年6月15日営業開始)

- 2013年3月期第4四半期は好調な株式相場を追い風に証券事業の売上が大幅に拡大。第2四半期までの累積損失を一掃し、通期の営業利益は36百万円の黒字に。
- これまでの基盤であった証券事業に加え、保険事業、住宅ローン事業も徹底的に強化していくことで、景況に左右されにくい安定した収益体制の構築を目指す。

### 売上高の推移

(百万円)



(2012年6月15日より営業開始)

2013年3月期

保険・住宅ローン取り扱い店舗を増やし、更なる収益拡大を図る

- 保険事業
- 住宅ローン事業
- 証券事業
- その他

2013年4月・5月(累計)の営業利益は3億円程度となる見込みで、第1四半期は最低5億円の営業利益確保を目指す

## ②アセットマネジメント事業

# アセットマネジメント事業 2013年3月期業績



有望投資先の順調な企業価値向上に加え、相場環境が大きく好転したこともあり、一部の非上場株式で大幅な評価引き下げを行ったにも関わらず、下半期業績は上半期に対して大幅な増収増益を達成した。

## 【半期業績推移】

(IFRSベース、単位:億円)

| 2013年3月期   | 上半期<br>(2012年4月～2012年9月) | 下半期<br>(2012年10月～2013年3月) | 通期<br>(2012年4月～2013年3月) |
|------------|--------------------------|---------------------------|-------------------------|
| AM事業 営業収益  | 137                      | 185                       | 322                     |
| AM事業 税引前利益 | 5                        | 50                        | 55                      |

韓国・現代スイス貯蓄銀行の連結子会社化に際して、監査法人の指導のもと、既存持分(現代スイス貯蓄銀行の20.9%)の簿価は額面まで評価を引き下げた結果、2013年3月期下半期のアセットマネジメント事業の税引前利益は50億円にとどまる。

# アセットマネジメント事業の業績分析

相場の激変により、上半期までと下半期以降とで

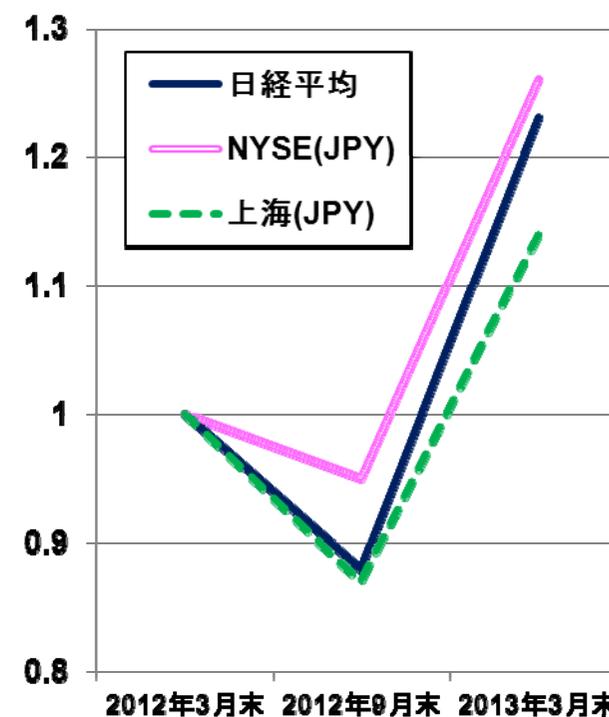
大きく様変わりした事業環境

## 【株式市場】

|      | 2012年<br>3月末 | 2012年<br>9月末 | 2013年<br>3月末 | 騰落率 (%)            |                    |
|------|--------------|--------------|--------------|--------------------|--------------------|
|      |              |              |              | 12年3月末<br>vs12年9月末 | 12年9月末<br>vs13年3月末 |
| 日経平均 | 10,083.56    | 8,870.16     | 12,397.91    | ▲12.0              | +39.8              |
| NYSE | 8,206.93     | 8,251.00     | 9,107.05     | +0.5               | +10.4              |
| 上海   | 2,262.79     | 2,086.17     | 2,236.62     | ▲7.8               | +7.2               |

## 世界の主要株式市場の株価推移

(2012年3月末を1として指数化したもの)



※NYSE、上海については円換算されたものを指数化  
(出典: Bloomberg)

## 【外為市場】(1通貨単位=円)

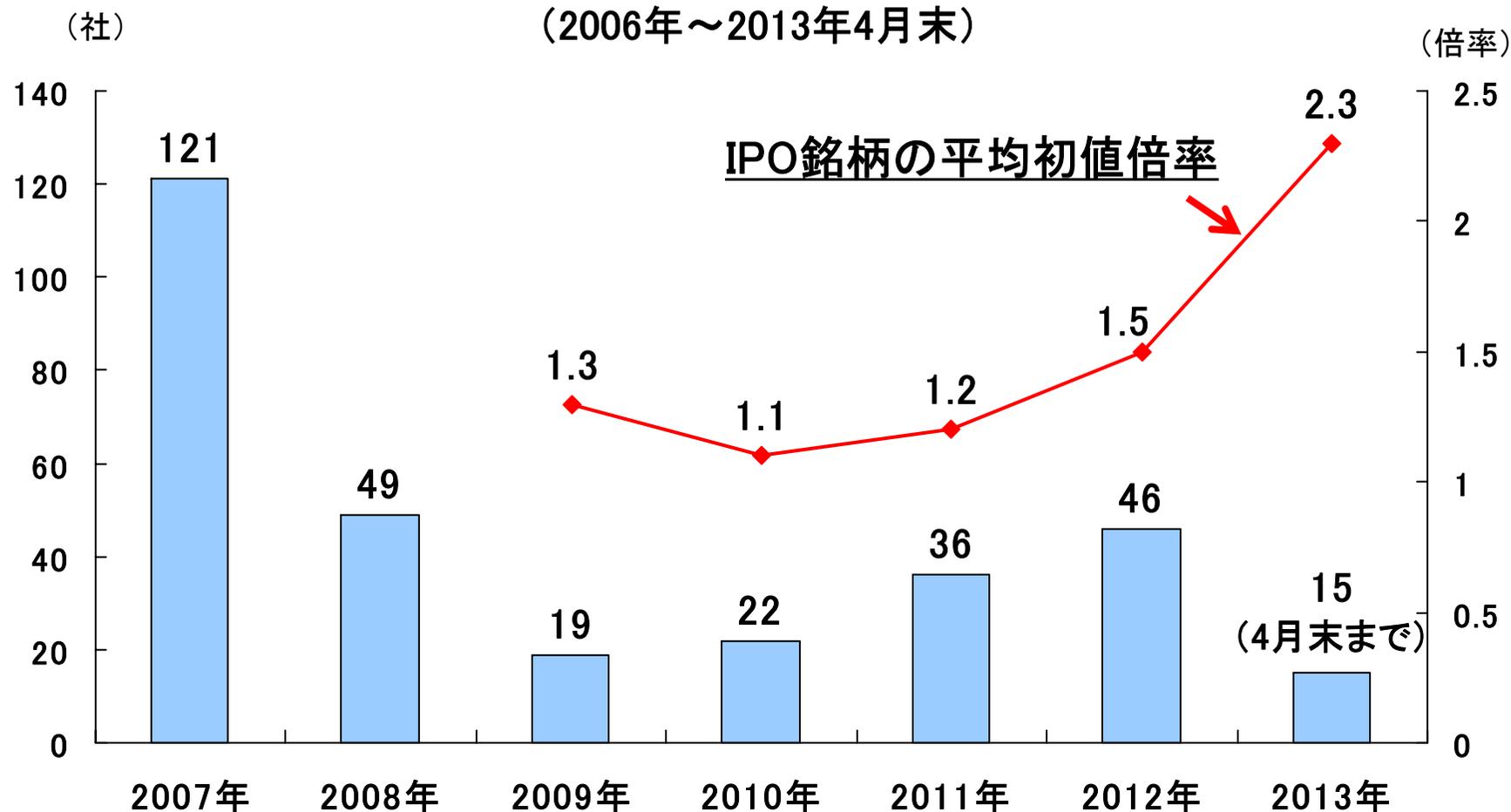
|     | 2012年<br>3月末 | 2012年<br>9月末 | 2013年<br>3月末 | 騰落率 (%)            |                    |
|-----|--------------|--------------|--------------|--------------------|--------------------|
|     |              |              |              | 12年3月末<br>vs12年9月末 | 12年9月末<br>vs13年3月末 |
| 米ドル | 82.87        | 77.96        | 94.22        | ▲5.9               | +20.9              |
| ユーロ | 110.56       | 100.21       | 120.76       | ▲9.4               | +20.5              |
| 人民元 | 13.16        | 12.41        | 15.17        | ▲5.7               | +22.2              |

# 日本のIPOマーケットの状況

2012年の新規株式上場社数は2008年の水準に回復

## 日本の新規株式上場社数の推移

(2006年～2013年4月末)



# アセットマネジメント事業における IPO・M&A実績



|               | 2012年3月期<br>通期実績 | 2013年3月期<br>通期実績 | 2014年3月期<br>通期見通し |
|---------------|------------------|------------------|-------------------|
| IPO・M&A<br>社数 | 14               | 12               | 15                |

| EXIT時期     | 投資先名                     | 市場(国名)     |
|------------|--------------------------|------------|
| 2012年4月30日 | SBIモーゲージ(株)              | KOSPI(韓国)  |
| 9月25日      | Modacom Co.,Ltd.         | KOSDAQ(韓国) |
| 9月28日      | (株)メディアフラッグ              | 東証マザーズ     |
| 12月17日     | SBI AXES(株)              | KOSDAQ(韓国) |
| 12月20日     | シュッピン(株)                 | 東証マザーズ     |
| 12月20日     | (株)ユーグレナ                 | 東証マザーズ     |
| 2013年1月1日  | (株)東京証券取引所グループ           | M&A        |
| 1月30日      | i-Sens Inc.              | KOSDAQ(韓国) |
| 2月1日       | (株) All Japan Solution   | M&A        |
| 2月1日       | 日本企業開発支援(株)              | M&A        |
| 2月13日      | Global Display Co., Ltd. | KOSDAQ(韓国) |
| 3月27日      | タマホーム(株)                 | 東証一部       |

# 有望な投資先を抱えるベンチャーキャピタル分野(1)

## 投資事例①株式会社リプロセル

(SBIグループ子会社及び運営するファンドからの出資比率:18.1%)※

### 国内初のiPS細胞ベンチャー

#### <事業概要>

- ・ES/iPS細胞用研究試薬の販売
- ・ES/iPS細胞を用いた創薬スクリーニング及び毒性試験受託
- ・創薬用初代培養細胞の販売および毒性試験受託

2013年6月26日  
JASDAQ上場予定

2009年4月に京都大学山中教授から初めてライセンスを受け、世界初となるヒトiPS細胞由来の心筋細胞を上市。

2010年10月にはヒトiPS細胞由来の神経細胞の販売を開始。

新聞記事

(2013年1月29日 日経産業新聞)

# 有望な投資先を抱えるベンチャーキャピタル分野(2)

## 投資事例② Acucela Inc.

(SBIグループ出資比率: 16.9%・第2位大株主)※

公開目標: 2013年内

主幹事証券: 三菱UFJモルガン・スタンレー証券

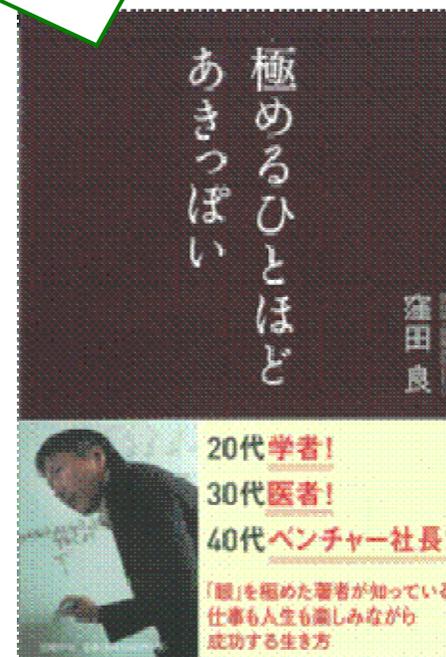
(本書より)

全世界1億2,000万人の失明を救う夢の薬

仮に、新薬開発に成功すれば、加齢黄斑変性の市場規模は少なくとも5,000億円、場合によっては1兆円に達すると見られている。

### <アキュセラ社のパイプライン>

| 薬剤・プロジェクト名<br>(パートナー) | 適応疾患        | 現状                                     |
|-----------------------|-------------|--|
| ACU-4429 (大塚製薬)       | ドライ型加齢黄斑変性症 | 臨床試験<br>(フェーズ II b/III)<br><b>最終試験</b> |
| レバミピド (大塚製薬)          | ドライアイ       | 臨床試験<br>(フェーズ III)<br><b>最終試験</b>      |
| OPA-6566 (大塚製薬)       | 緑内障         | 臨床試験<br>(フェーズ 1/2)                     |

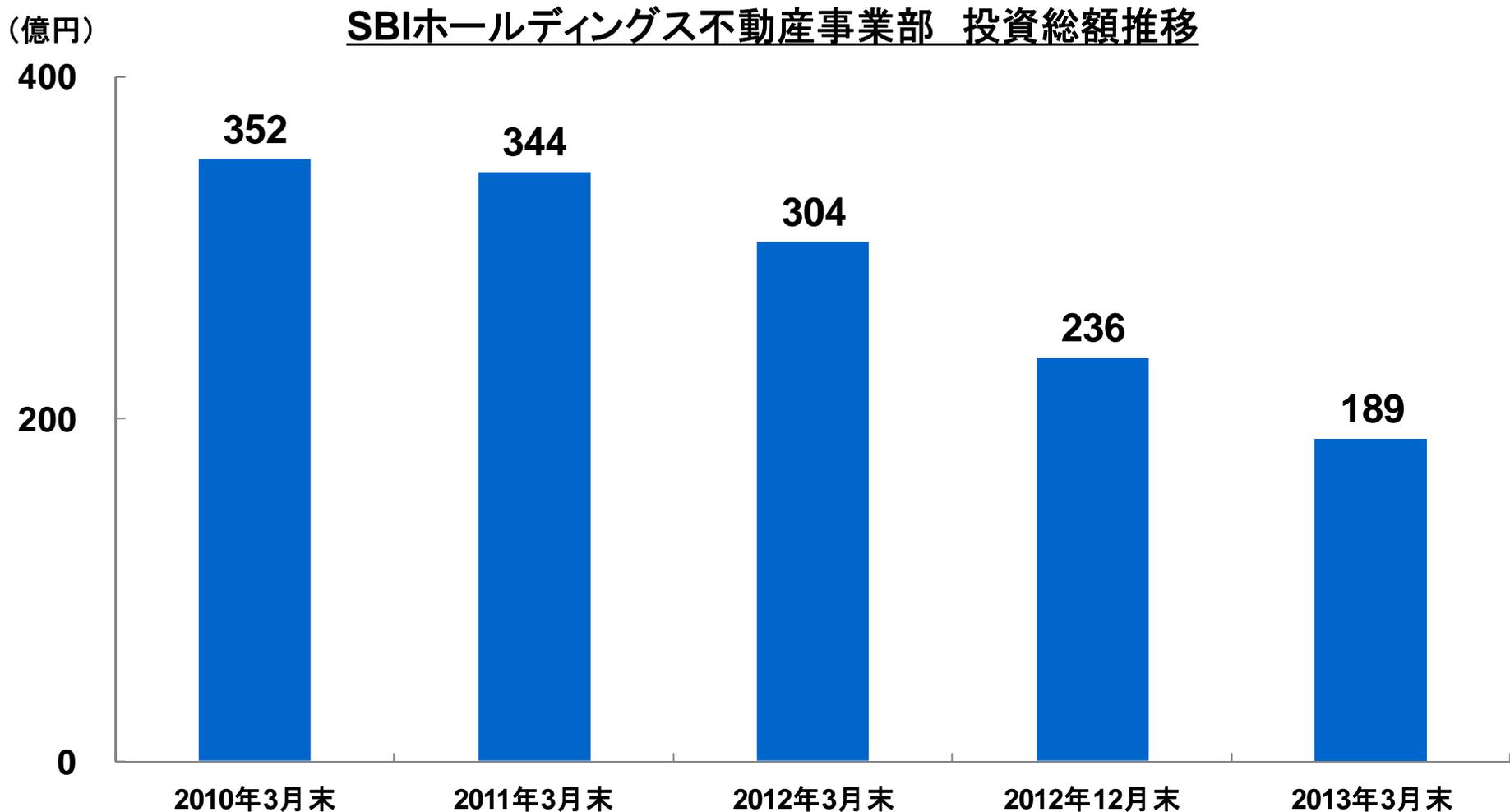


(アキュセラ窪田CEO著・日経BP社)

## ③不動産関連事業

## 市況の改善を機に保有資産の売却を推進

SBIホールディングス不動産事業部では保有資産の圧縮に注力しており、市況の改善を機にさらに売却活動を活発化。早期の資金回収を図る。



# SBIライフリング 2013年3月期業績

- **2期連続の上場来最高益を達成**
- 市況の改善を背景に、SBIライフリングの主力商品である賃貸用デザインマンション「Branche」シリーズの物件売却が堅調に推移。

(単位:百万円)

|       | 2012年3月期<br>(連結) | 2013年3月期<br>(単体) (※1) | 前期比<br>増減率(%) |
|-------|------------------|-----------------------|---------------|
| 売上高   | 5,677            | 6,066                 | +6.9          |
| 営業利益  | 744              | 1,106                 | +48.5         |
| 経常利益  | 646              | 1,024                 | +58.5         |
| 当期純利益 | 644              | (※2) 675              | +4.7          |

※1. 2013年3月期より単体決算となっております。従いまして、前年同期比較につきましては参考値となります。

※2. 繰延税金資産の一部取り崩しによる法人税等調整額233百万円の税金費用を計上。

2013年6月1日を効力発生日として、1株につき500株の割合の株式分割を実施し、同時に単元株式数を100株とする単元株制度を採用

## (5) 配当政策と株主構成

## 配当政策の基本方針

### 【配当政策の基本方針】

年間配当金として、1株当たり最低配当金額10円の配当を実施し、更なる利益還元が可能と判断した場合にはその都度引き上げることを目指す

### 1株当たり配当実績

|   | 中間 | 期末         | 年間         |
|---|----|------------|------------|
| 2013年3月期(実績)                                    | —  | <b>10円</b> | <b>10円</b> |
| 2012年10月1日を効力発生日として実施した当社株式1株につき10株の割合での株式分割を実施 |    |            |            |
| 2012年3月期(実績)                                    | —  | 100円       | 100円       |

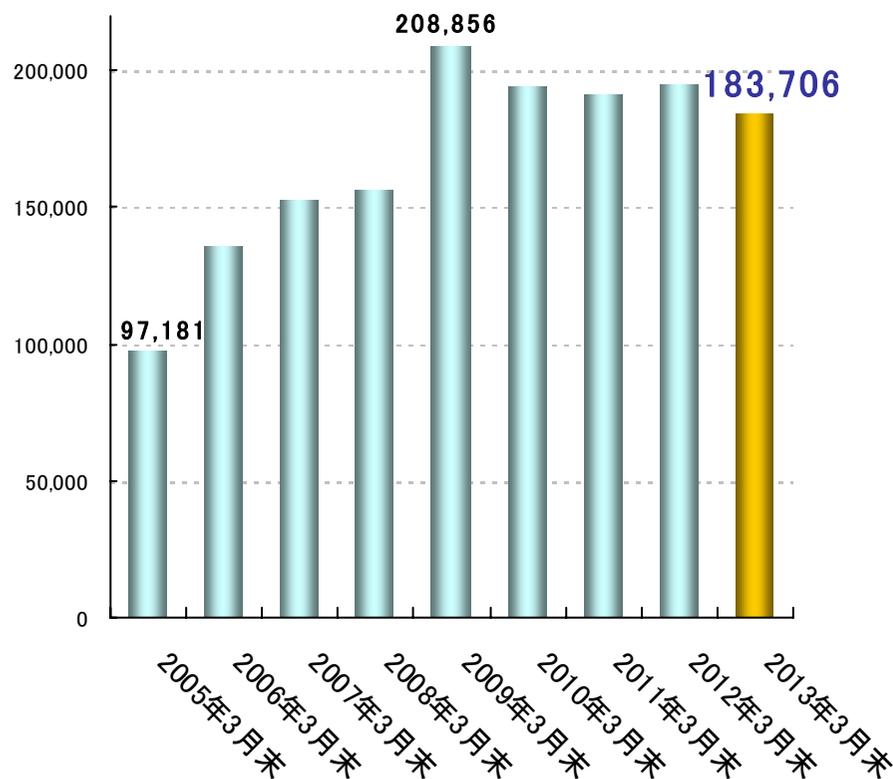
# SBIホールディングス 株主構成の推移

2009年3月末から、外国人投資家の保有比率が急上昇  
以降、継続して40%の保有比率を保っている

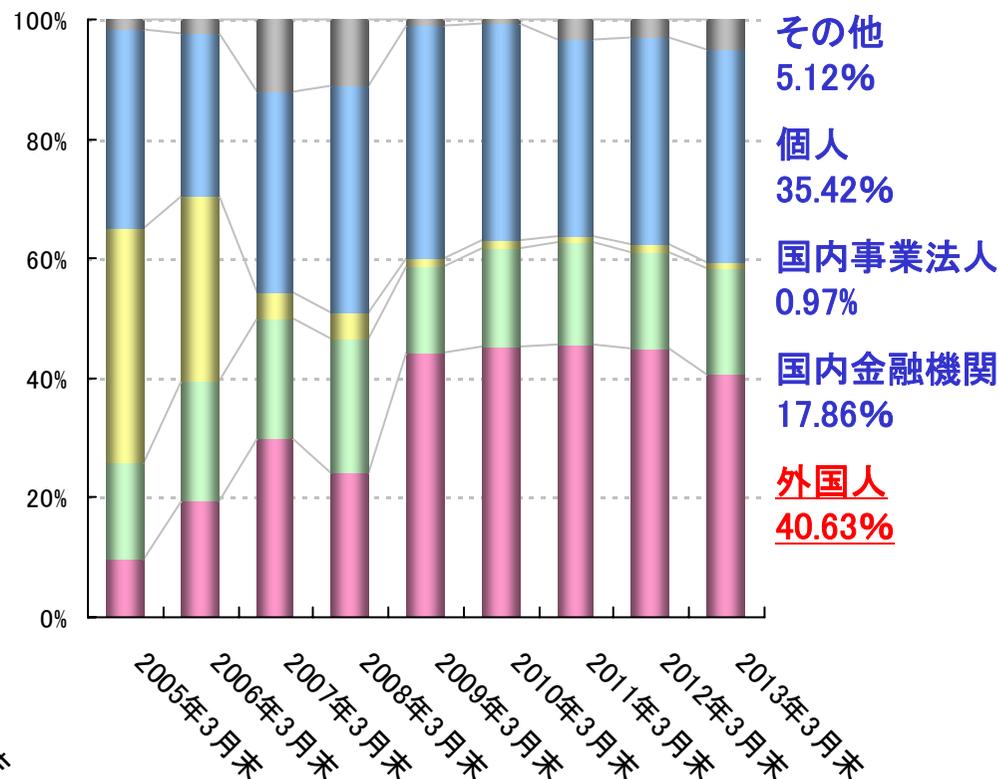
## 株主数の推移

## 株主構成比率の推移

(単位:名)



■ 外国人 ■ 国内金融機関 ■ 国内事業法人 ■ 個人 ■ その他



※その他には「自己株式」3.33%を含む

## 2. 今期は「攻めに転じる」と発表していますが、 どのような戦略なのでしょう？

- (1) 国内金融サービス事業での取り組み
- (2) 次の成長ステージに移行する海外事業
- (3) 医薬品の研究開発ネットワークの拡大と  
海外展開を加速するバイオ関連事業

## 攻めの経営(1)

### 国内金融サービス事業での取り組み

- ① **SBI証券**
- ② **SBIマネープラザ**
- ③ **住信SBIネット銀行**
- ④ **SBI損保**
- ⑤ **SBI少短保険ホールディングス**
- ⑥ **SBIモーゲージ**

## 事業環境の変化に対応した攻めの戦略

### 施策1 システム及びコールセンターの増強について

取引量および顧客基盤の更なる増加に対し、システムの増強(※)やコールセンターの人員増を図る

(※)メインシステムのキャパシティ拡充、処理性能向上のためのサーバの増設・リプレイス等

### 施策2 新商品の販売

グループシナジーを強化し、モーニングスターの子会社であるSBIアセットマネジメントが商品化した「EXE-i (エグゼアイ)」シリーズの新規募集を2013年4月8日より開始。

<特長>

- ・海外ETFを複数組み合わせるという『従来にはないインデックスファンドの“かたち”』を提供。
- ・信託報酬を低減し、購入時の手数料等を不要とするなど徹底的な低投資コストを実現した商品であり、長期投資・積立投資に適している。

260万口座超の顧客基盤を活かして販売拡大に取り組む

SBI証券

グループ内での商品組成、販売を強化

SBI Asset Management

### 施策3 富裕層顧客の更なる拡大を目指す

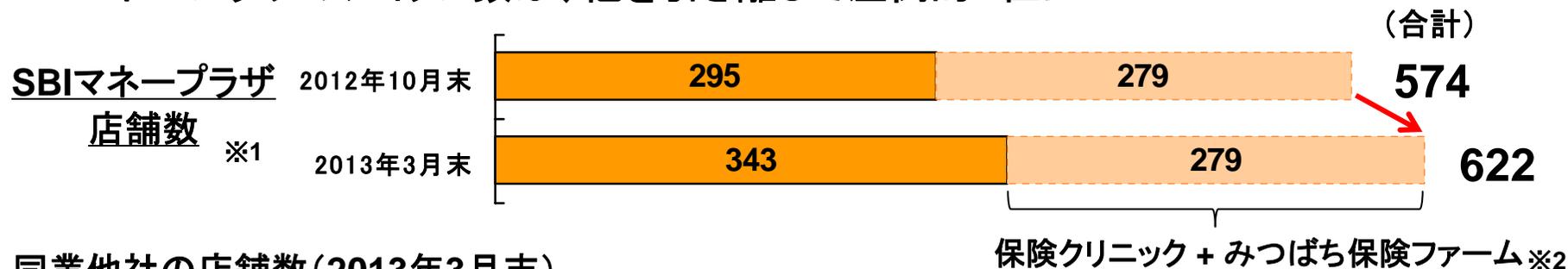
SBIマネープラザとの連携強化や法人部隊の増強を図る

②SBIマネープラザ:

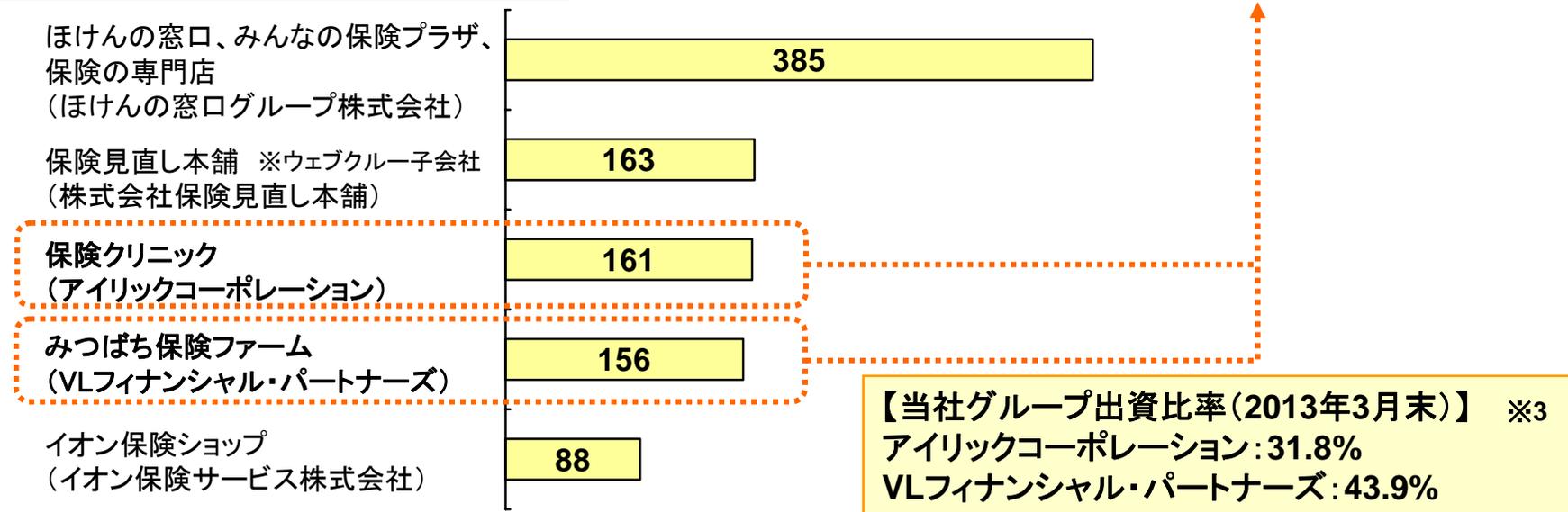


## 店舗網の更なる拡大により販売力を強化

直営店を中心に順次SBIマネープラザの看板を設置予定の保険クリニックとみつばち保険ファーム(みつばち保険ファームは2013年3月末時点で38店舗に看板設置済み)を加えた全国のSBIマネープラザのショップ数は、他を引き離して圧倒的1位に



### 同業他社の店舗数(2013年3月末)



※1 SBIマネープラザには保険取扱店以外の店舗数も含む

※2 みつばち保険ファームのうちSBIマネープラザの看板設置店(2013年3月末時点で38店舗)は、SBIマネープラザ店舗に含まれているため控除

※3 SBIグループ出資比率はIFRS基準でグループ子会社に該当する子会社・ファンドからの出資比率合計

## 2014年1月開始の日本版ISAへの取り組み

- SBI証券では、2013年3月29日から口座開設の予約申込みの受付開始
- SBIマネープラザでは日本版ISAに関するセミナーを随時開催
- モーニングスターは5月20日に日本版ISAポータルサイトを開設



- 金融機関比較サービス
- 株式・投信の当社独自のコラム、分析レポート
- 投資助言サービス(有料)
- FP紹介サービス(有料)
- スマホサイト開設

※一部予定を含む

# 住信SBIネット銀行を中心とする 企業生態系の充実・強化

～預金残高増加に対応し、運用の安定化・多様化を図る～



住信SBIネット銀行を  
中心とする企業生態  
系の充実・強化



預金

オートローン  
SBIクレジットやSBIオートサポート  
等経由

運用例:

**住宅ローン**  
・住信SBIネット銀行による提携不動  
産会社経由の住宅ローン  
・三井住友信託銀行の銀行代理業  
としてフィービジネスを展開

二本立てにし、住宅ローン  
ビジネスの拡大に対応



口座数: 約168万口座  
預金残高: 約2.9兆円  
(2013年4月末)

SBIホールディングスはSBIク  
レジットの全株式を丸紅子会  
社の運営する投資ファンドへ  
売却(2013年3月)  
⇒SBIクレジットが今後丸紅  
傘下で自動車を超えた領域  
へ事業を拡大させていくこと  
が、住信SBIネット銀行の運  
用資金増加への対応策の1  
つになる

**NEW!!**

目的ローン(2013年5月10日開始)

ネットローン

## さらなる収益性向上に向けた施策



- より一層の損害率の改善、事業費率の圧縮が期待される施策を実施しており、2014年3月期以降のコンバインド・レシオ100%以下の定着が視野に入る
- IFRS連結ベースで、2014年3月期に四半期の実質黒字化、2016年3月期の通期黒字化、2017年3月期のIPOを目指す

参考純率改定に伴い、  
価格競争力を維持しつつ  
平均で1%の保険料値上げを実施  
(2013/4/1より)

車両保険における車両自己負担額  
0-10万円※の引受の停止、  
特約の見直し等による  
自動車保険の商品改定  
(新規契約2012/10/2より、  
継続契約2013/2/6満期分より)

募集時の  
フィルタリングの細分化と強化

SBIマネープラザと連携した  
リアル販売チャネルの強化

商品ポートフォリオの多様化

※車両自己負担額0-10万円:車両事故の際の免責額を1回目は0、2回目以降を10万円とする方式。

**損害調査体制の拡充等、サービスレベル向上への施策も実施中**

④SBI損保:



# 商品ラインアップの多様化

新商品の販売開始ならびに提携企業の商品の取扱によりラインアップを拡充

## 【自社商品】

2012年8月 販売開始

**SBI損保のがん保険** 自由診療タイプ

**SBI損保の自動車保険**

新たに2013年4月より自転車事故補償特約を発売



全国343店舗(3月末)の  
SBIマネープラザの  
対面販売チャネルも  
最大限に活用

## 【提携企業の引受商品】

死亡保険

あんしん ◆ 世代

引受保険会社:  
いきいき世代株式会社

医療保険

新しいいき ◆ 世代

引受保険会社:  
いきいき世代株式会社



認可を取得次第  
取扱開始

火災保険 2012年8月 取扱開始



引受保険会社:  
セゾン自動車火災保険株式会社

地震補償保険



引受保険会社:  
SBI少額短期保険株式会社

海外旅行保険



引受保険会社:  
エイチ・エス損害保険株式会社

④SBI損保:

## サービスレベルの向上に向けた取り組み



業務拡大に伴い、SBIビジネスサポートと共同で、鳥栖市に「SBI損保九州コンタクトセンター(仮称)」を開設することを発表。

SBIビジネスサポートのノウハウを最大限に活かし、加入希望者、既契約者に対して、申込み受付や内容照会等の電話受付業務・事務処理業務等を行う拠点を開設し、顧客サービスレベルの向上を目指す。

新聞記事



SBIグループ各社をはじめ、多くの企業に法人向けコンタクトセンターの企画・運営・構築、人材派遣サービス業を行っている、総合人材サービス会社。

(2013年3月28日 佐賀新聞朝刊)

⑤SBI少短保険ホールディングス:

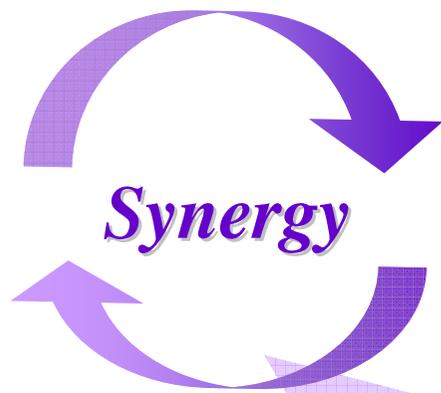


# 少額短期保険事業者『いきいき世代』の全株式を取得

- SBI少短保険ホールディングス(2012年12月に設立)が医療保険、生命保険を扱う『いきいき世代』の全株式を取得し、当社の連結子会社化
- SBI少短保険ホールディングスでは、今後、SBI少額短期保険も傘下に加え、少額短期保険事業の拡大を目指す



- ・シニアを中心とした顧客層
- ・健康系雑誌をメインとする販売チャネル



|       | 2011年3月期 | 2012年3月期 |
|-------|----------|----------|
| 経常収益  | 2,669百万円 | 2,792百万円 |
| 経常利益  | 236百万円   | 384百万円   |
| 当期純利益 | 157百万円   | 242百万円   |

相互の顧客への商品訴求  
販売チャネル、販売ノウハウの相互活用  
保険会社間での連携強化、リソースの効率的利用

生保事業の再参入については、  
既存生命保険会社の買収についても引き続き検討中。



## 商品ラインアップの多様化により競争力を強化



主力商品である【フラット35】に加えて多様な商品の開発・提供を行なうことで、住宅ローン需要の更なる取り込みを図る

### 【フラット35】

- 固定金利
- 満期35年の長期固定金利住宅ローン
- 物件価額の9割までが融資上限

### SBIフラットα

- 変動金利
- 【フラット35】と組み合わせることにより最高10割まで融資が可能

### SBI【フラットつなぎ】

- 固定金利
- 物件の引渡しまでの過程で必要になる「中間資金」に対応したローン



2012年6月発売

### SBIフラットリフォーム

- 変動金利
- リフォーム市場をターゲットにした住宅ローン

2013年1月発売

### SBIフリーダム

- 変動金利／固定金利
- インターネット専用商品
- 最短1営業日で審査結果回答

## SBIモーゲージは韓国での 事業展開に向けて準備中

➤ 2012年4月上場後、株価は大幅に上昇

|   | 公募価格<br>(ウォン)                  | 現在の株価<br>(2013年5月31日、<br>ウォン) | 公募価格比<br>(%) | 時価総額<br>(億円) * |
|---|--------------------------------|-------------------------------|--------------|----------------|
| <b>SBIモーゲージ</b><br>〔出資比率:66.5%、<br>韓国KOSPI上場〕 | <b>7,000</b><br>(2012年4月30日上場) | <b>13,700</b>                 | <b>+95.7</b> | <b>289</b>     |

\*2013年5月31日の為替レート(1ウォン=0.0889円)で換算

➤ 韓国での事業展開を推進

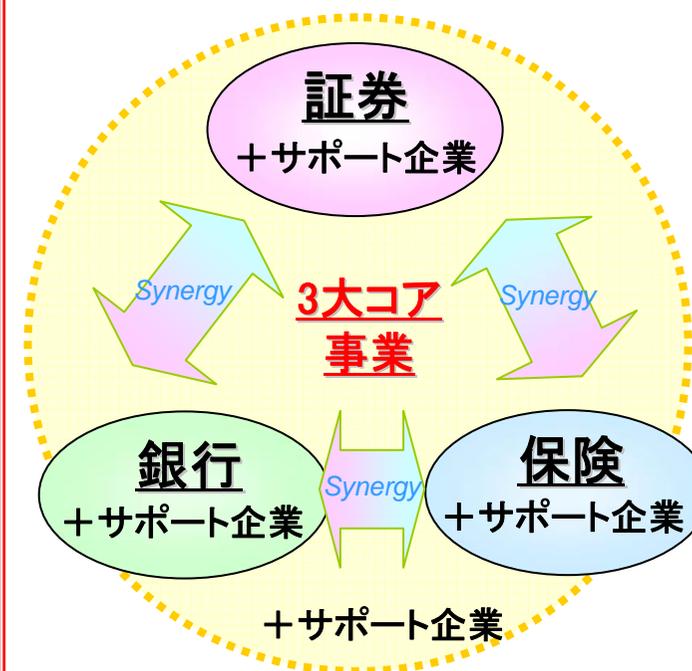
- 韓国子会社を2012年10月1日に設立
- 同国初のモーゲージバンクとしてライセンス取得に向け準備中

※SBIグループ出資比率はIFRS基準でグループ子会社に該当する子会社・ファンドからの出資比率合計

# 国内金融サービス事業は3大コア事業（証券・銀行・保険）を徹底的に強化

- 方針① 3大コア事業と強いシナジーの見込めない子会社は原則として売却または引き続き国内外の取引所で株式公開を進める。それによって得られた一部の資金は3大コア事業の強化に充当。
- 方針② 関連性の強い事業をより一体的に運営するための組織再編
- 方針③ 3大コア事業を強化するためのグループ外企業との提携を推進
- 方針④ 全グループ企業のビッグデータを効率的に活用
- 方針⑤ 生損保事業及び投資信託事業の拡大に伴い、グループの資産運用機能の一層の充実

## SBIグループの国内金融サービス事業



## 攻めの経営(2)

### 次の成長ステージに移行する海外事業

- ① 海外投資事業は外部出資者を募り、よりファンドサイズを拡大する第2フェーズへ移行開始
- ② 海外金融サービス事業は更に深化し、金融サービスのネット化を推進

# ①海外投資事業は外部出資者を募り、より ファンドサイズを拡大する第2フェーズへ移行開始

## 第1フェーズ

当社と海外現地パートナーとの共同出資により1号ファンドを組成



## 第2フェーズ

外部出資者を募ることでより大規模な2号ファンドを組成

### 新ファンドへの外部出資者の募集体制を強化

海外：各海外拠点にファンド募集専門の人員を配置

国内：SBIインベストメント、SBI証券、SBIマネープラザ等、  
当社が有する国内法人ネットワークを活用

今後期待される各国マーケットの回復および  
更なる上昇に対応できる投資体制を構築

## 外部出資者を募り、よりファンドサイズを拡大した例

オランダ開発金融公庫と共同設立した新興アジア諸国における金融セクターへの投資に特化したファンド



### 【ファンド概要】

|             |   |                       |
|-------------|---|-----------------------|
| 出資約束金       | : | 当初60百万USD(最大100百万USD) |
| 投資対象        | : | 新興アジア諸国における金融機関等      |
| ファンド運用・管理会社 | : | SBI VEN CAPITAL       |



SBIグループ・オランダ開発金融公庫・外部出資者分を加えた  
60百万USDにて投資を開始予定(2013年8月予定)

## ②海外金融サービス事業は更に深化し、 金融サービスのネット化を推進



ロシア



**YAR BANK**  
Bank of the Rising Opportunities

### YARバンク(旧オビバンク)のネットバンク化の推進

ロシアの大手総合金融グループ、METROPOLグループ傘下の商業銀行に当社が出資し、当社持分50%のジョイントベンチャーに。

2012年12月期の当期純利益は1億1千万円 (※1ルーブル=3.26円で換算)



2013年10月のサービス提供開始(予定)に向け、システムの要件定義が完了し、開発に本着手



インドネシア



(当社グループ出資比率:25.0%)

### BNI証券の経営合理化の推進や、SBI証券の協力のもとでの ネット取引システムの改善を実施

同社との接続によりSBI証券では2012年4月23日よりインドネシア株式のリアルタイム取引が可能



日本で経験を積んだ人材をBNI証券に派遣し、親会社のBNI銀行とも協力の上で、経営の合理化やネット取引システムの整備を推進中

## 攻めの経営(3)

# 医薬品の研究開発ネットワークの拡大と 海外展開を加速するバイオ関連事業

①SBIバイオテック

②SBIファーマ

# SBIバイオテックによる医薬品開発の進捗状況



(SBIグループ出資比率:71.6%)

～2014年内の公開に向けて準備中(主幹事証券:みずほ証券)～

| プロジェクト例<br>(パートナー)             | 適応疾患                    | 現状  |
|--------------------------------|-------------------------|---|
| GNKG168<br>(中国 Huapu)          | B細胞性慢性リンパ性白血病           | 臨床試験(フェーズ I)  |
| 免疫細胞療法<br>(米 ベイラー研究所)          | 癌                       | 米国:臨床試験(フェーズ II)<br>日本:京都大学医学部附属病院にて臨床研究。臨床試験(治験)を準備中 |
| ILT7抗体                         | 自己免疫疾患                  | アストラゼネカ子会社に開発販売権を供与                                   |
| 以下はSBIバイオテック子会社であるクォーク社のパイプライン |                         |   |
| PF-655<br>(ファイザー)              | 糖尿病性黄斑浮腫(DME)、加齢性黄斑変性症  | 臨床試験(フェーズ II b)                                       |
| QPI-1002<br>(ノバルティスファーマ)       | 腎臓移植後の臓器機能障害(DGF)、急性腎障害 | 臨床試験(フェーズ II a)                                       |
| QPI-1007                       | 非動脈炎性前部虚血性視神経症治療薬候補     | 臨床試験(フェーズ II)   |

2012年12月に米国ベンチャー企業クォーク社を完全子会社化

成功報酬(総額): 713百万USDドル (約672億円)  
うち受領済み金額: 28.35百万USDドル

成功報酬(総額): 670百万USDドル (約631億円)  
現時点で受領分はないが、近々一部の受領を見込む

※2013年3月末の為替レートで円換算

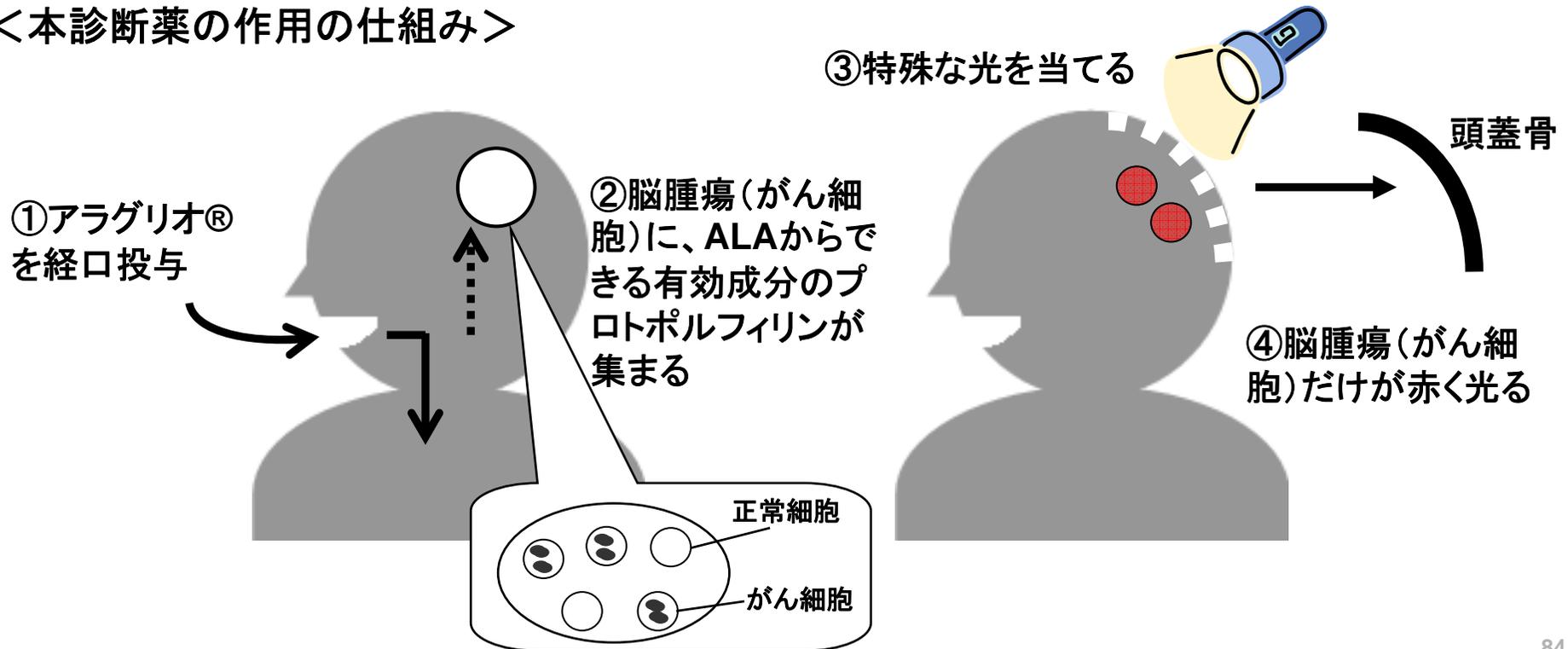
※SBIグループ出資比率はIFRS基準でグループ子会社に該当する子会社・ファンドからの出資比率合計

## 悪性神経膠腫の経口体内診断薬「アラグリオ®」

脳腫瘍摘出手術での経口投与による蛍光診断薬としては日本で初めての製剤

現在、日本における悪性神経膠腫の標準治療は顕微鏡下手術による腫瘍部位の切除だが、本診断薬を使用した国内臨床試験では、脳腫瘍と正常組織との識別を容易にすることの有効性と安全性を確認

### <本診断薬の作用の仕組み>



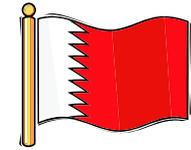
## その他のALA関連医薬品の進捗状況

| 適応疾患  | 進捗   |
|---|--|
|  <p>術中がん診断薬:<br/>膀胱がん</p> <p>オーファンドラッグ指定</p> | <p>2012年1月より、高知大学を中心とした5大学にて医師主導治験を実施</p> <p>→ <b>2012年末にフェーズⅢ治験終了</b></p> <p>→ 2014年後半に承認取得を目指す</p>   |
|  <p>がん化学療法による<br/>貧血治療薬</p>                  | <p>•英国にて2012年12月よりフェーズⅠ臨床試験開始</p> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>既に5-アミノレブリン酸塩酸塩は、事業パートナーである独medac社が欧州医薬品庁(EMA)の承認を受け、ドイツ、英国等欧州の20ヶ国以上の国々で術中診断薬を発売しており、<b>ヨーロッパでは医薬品成分として受け入れられている。</b></p> <p>⇒フェーズⅠ臨床試験は半年程度で終了することを見込んでおり、フェーズⅡ臨床試験においては複数の分野の医薬品として治験申請を検討中</p> </div> <p>•英国でのフェーズⅠ臨床試験終了後、フェーズⅡに入り次第、米国でもフェーズⅡから臨床試験開始予定</p> |

## バーレーンでのALA事業体制を着々と構築中



2012年4月：バーレーン政府とALA事業推進に関して合意



2013年3月：バーレーン皇太子と現地企業トップらの来日に際し、バーレーン大使館主催のビジネス・レセプションにてSBIファーマは5本の契約書に調印

① バーレーンの政府系ファンド **Mumtalakat Holding Company** と、同国での医薬品分野を中心とするALA事業連携に関する基本合意書を締結



中東の近隣諸外国への輸出も視野にALA製造拠点の設立を目指す

② **バーレーン開発銀行** から現地法律及びファイナンス面の助言やサポートを受けることで合意

③ 現地流通大手 **Dawani Group Holdings** と健康食品・化粧品の現地マーケティングに関する合弁会社を設立することで最終合意

④ **バーレーン医科大学** と複数の臨床研究開始に向けた基本合意書を締結(対象分野については今後決定)



臨床研究に関しては、複数の大学病院や研究機関と提携し、現地での研究開発を加速

⑤ バーレーンにある **湾岸諸国立大学 Arabian Gulf University** と糖尿病に関する共同臨床研究に向けて最終合意

## 今後のバーレーンでの事業計画

今後6ヶ月以内に以下の諸事業を順次実施予定:

### 1. バーレーンの専門家委員会による会合

6月12日・13日に日本バーレーン専門家委員会会合がバーレーンで開催され、6月末から7月初旬に掛けてALAに関する共同臨床研究について、両国間で協議が行われる。

### 2. 糖尿病に関する臨床試験を開始

バーレーンの湾岸諸国立大学Arabian Gulf Universityにて、糖尿病治療中の患者を対象としたアドオン試験(※)を、ラマダン明け(8月中旬)以降順次実施予定  
(※)既存の治療薬による標準治療を受けている患者に対して、さらに治験薬かプラセボで評価を行う方法

### 3. ALA-USDT(ALA超音波力学治療)臨床試験を開始

バーレーン医科大学にて ALA-USDT(ALA超音波力学治療)を実施予定

論文

マウスでの超音波力学治療では、ALAを投与したマウスのほうが癌が縮小

(出所: Scientific Research Journal of Cancer Therapy, DOI:10.4236)

### 4. 国際ALAポルフィリン学会を開催予定

10月下旬にバーレーン政府の後援で、国際ALAポルフィリン学会を開催予定

### 3. SBIグループの目指す方向性は？

- (1) インターネット金融サービス事業では、顧客中心主義を徹底し、インターネットの進化と深化によりグループ各社の飛躍的成長を具現化
- (2) アセットマネジメント事業のグローバル化を推進し、「世界のSBI」へ
- (3) 日本発で世界に貢献できるALAを利用したバイオ事業の育成

SBIグループの目指す方向性:

**(1) インターネット金融サービス事業では、顧客中心主義を徹底し、インターネットの進化と深化により、グループ各社の飛躍的成長を具現化**

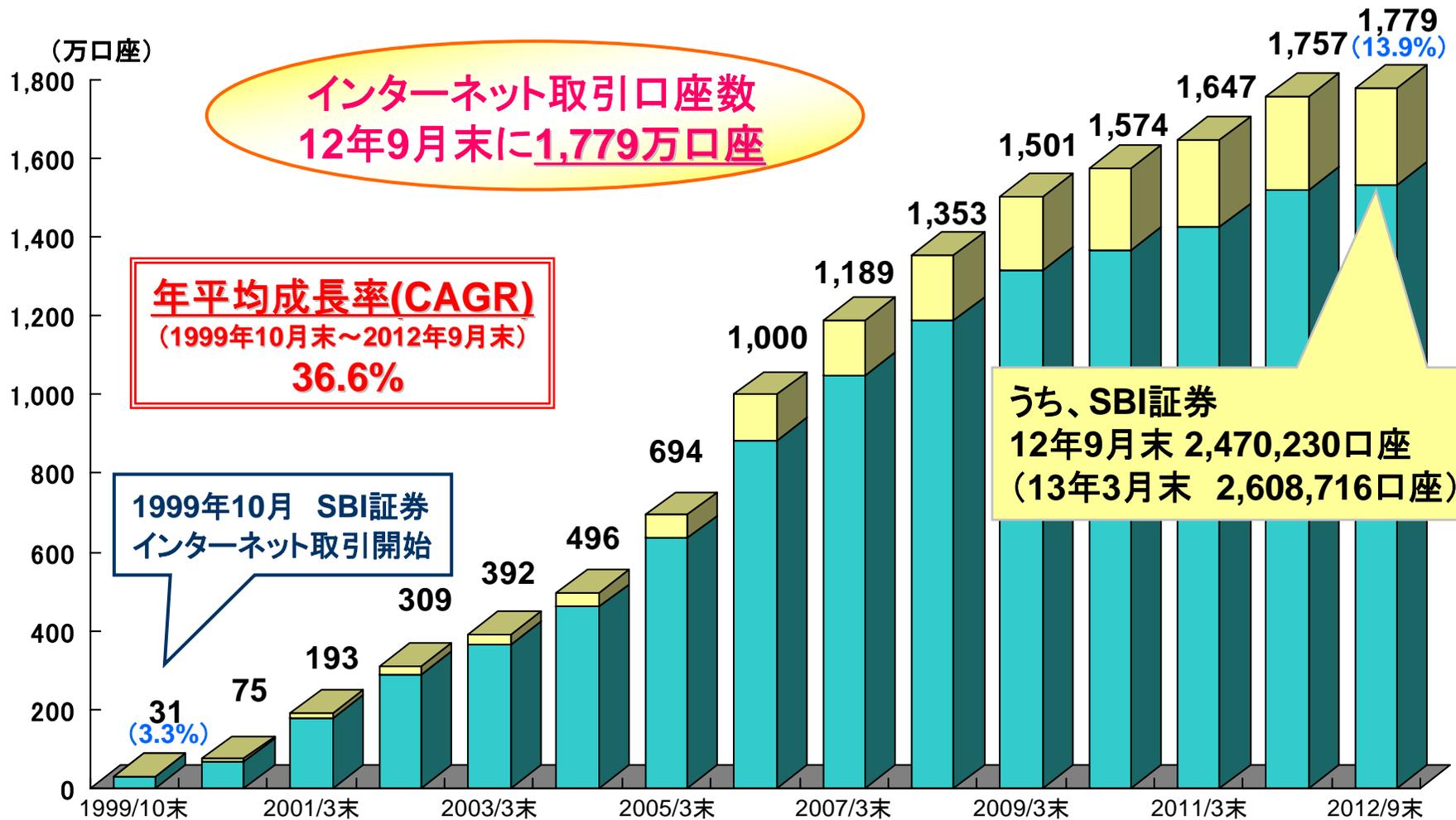
速度の向上やユビキタス化、Web上での表現方法の充実などのインターネットの「進化」により、これまでインターネットが利用されていなかった分野へもインターネットが「深化」して活用されていく

# 拡大を続けるオンライン証券口座

## インターネット取引証券口座数の推移

(1999年10月末～2012年9月末)

( ): SBI証券の割合



データ出所: 日本証券業協会「インターネット取引に関する調査結果」(2012年9月末)、統計開始は1999年10月末

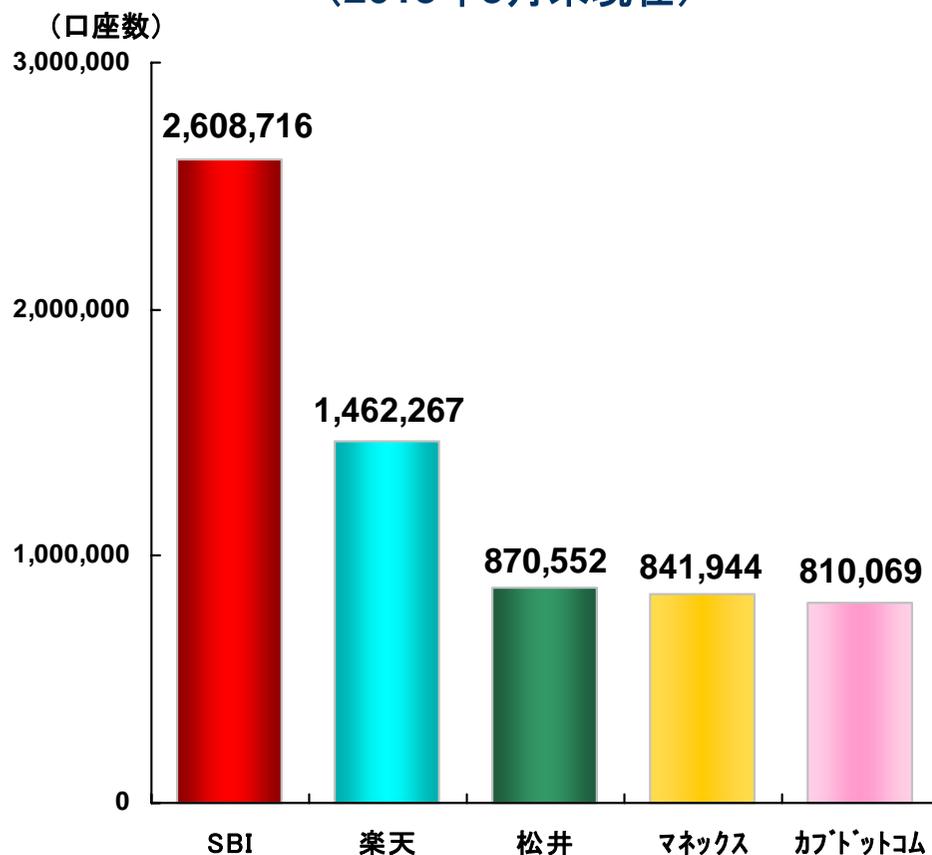
# SBI証券の顧客基盤①

## <口座数・預り資産>

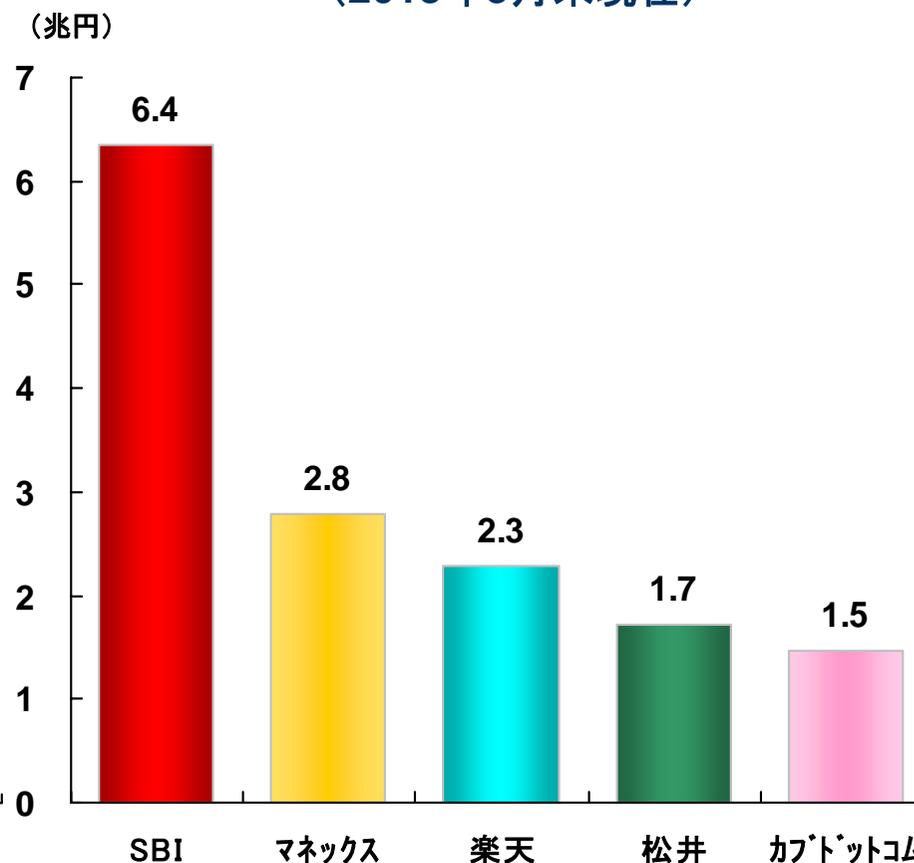


引き続き口座数、預り資産残高で他社を大きく上回る

【主要オンライン証券5社の口座数】  
(2013年3月末現在)



【主要オンライン証券5社の預り資産残高】  
(2013年3月末現在)



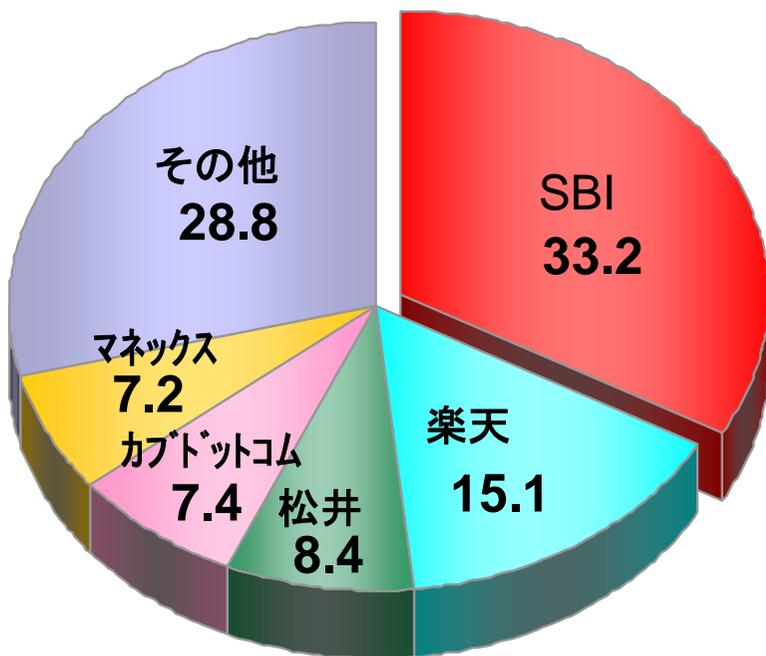
出所: 各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計

## SBI証券の顧客基盤② <個人株式売買代金シェア>

日本における個人株式委託売買代金において、オンライン証券シェアは約70%を占め、SBI証券は約33%のシェアを維持。

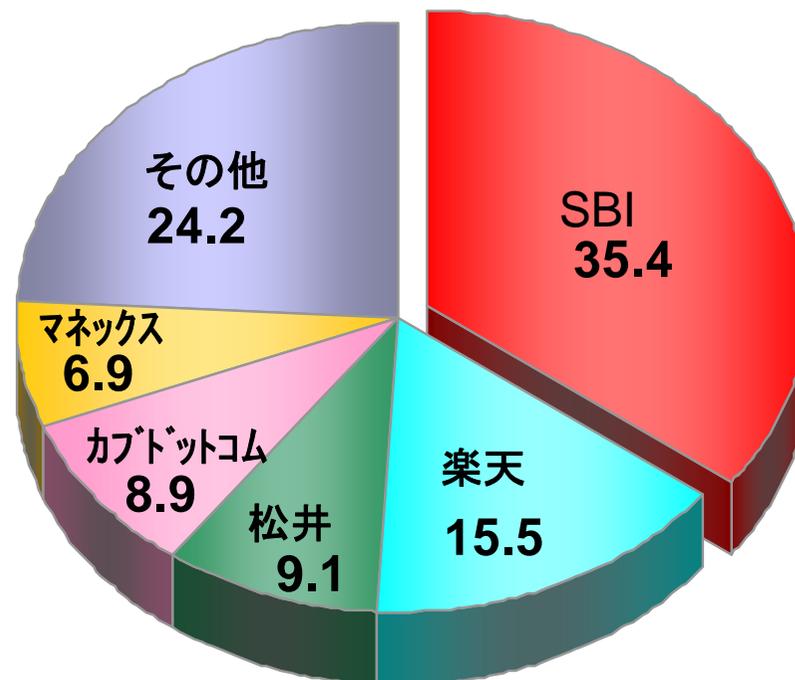
個人株式委託売買代金シェア(%)

**2013年3月期**  
 (2012年4月～2013年3月)



内、個人信用取引委託売買代金シェア(%)

**2013年3月期**  
 (2012年4月～2013年3月)



出所: 東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計  
 ※ 個人株式委託売買代金、個人信用取引委託売買代金は3市場1、2部等

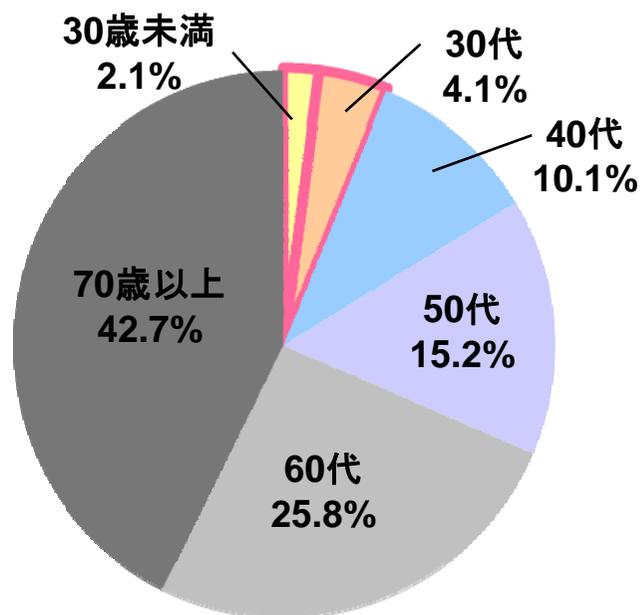
## 本格的なインターネット世代が成人へ

日本の商用インターネット  
開始:1992年

⇒ 子供の頃からネットに慣れ親しんだ世代が2010年頃から本格的な購買行動・金融活動を開始

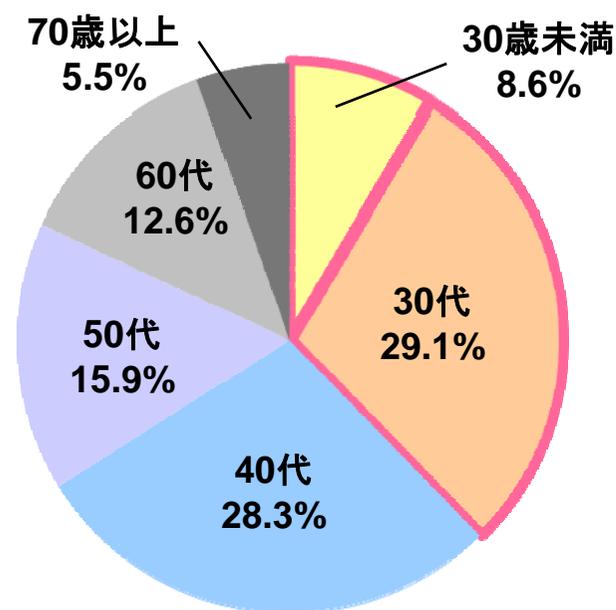
### SBI証券のチャネル別顧客層(2013年4月末現在)

#### ■ 対面(SBIマネープラザ)



対面の顧客は高齢層の占める割合が高い

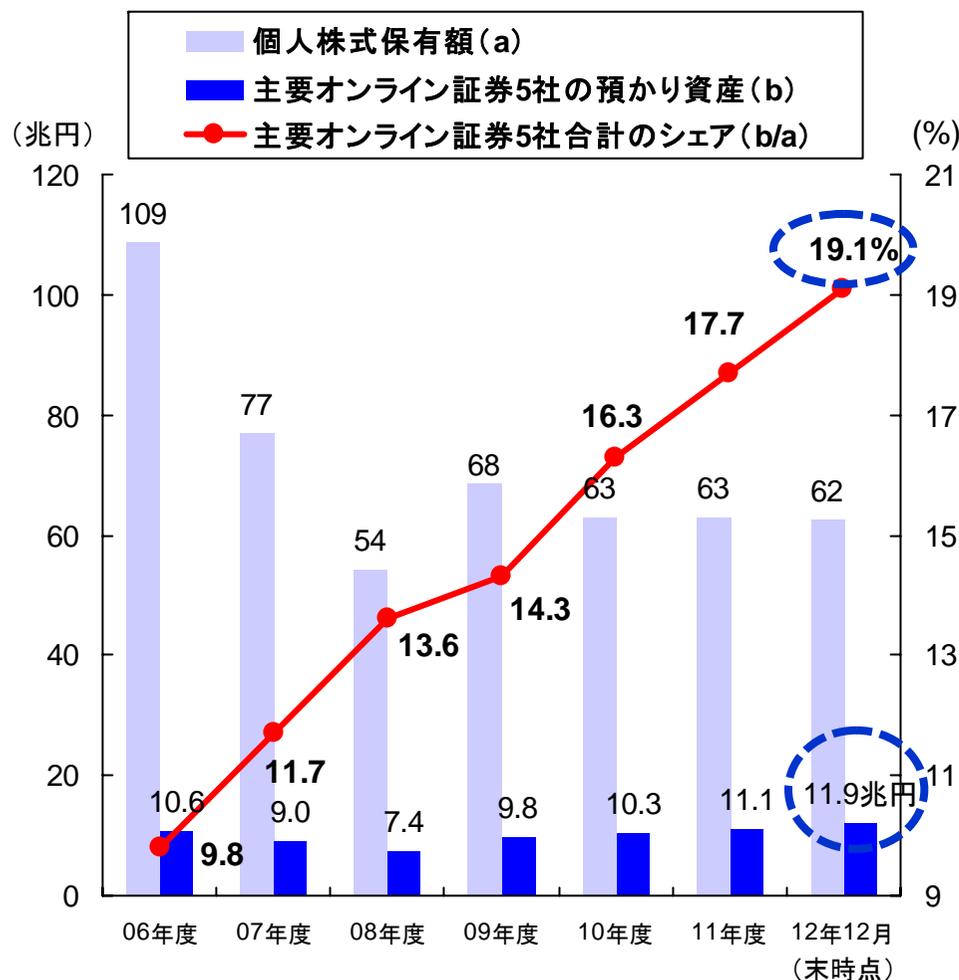
#### ■ ネット



時間とともに本格的に資産形成を行っていく20代・30代の割合が高い

# ストックで見た個人株式取引市場における 主要オンライン証券5社のシェア

## 個人株式保有額(ストック)のシェア推移



個人株式委託売買のフローにおいて、7割強と圧倒的なシェアを占める主要オンライン証券5社



主要オンライン証券5社合計の預かり資産残高は11.9兆円(2012年12月末現在)であり、日本における個人株式保有額の19.1%に過ぎない。

**ストックで見た主要オンライン証券5社のシェアは今後も更なる成長が見込まれる**

# 顧客満足度評価(SBI証券)

## 第1位 2013年度版「オリコン顧客満足度ランキング」



### 「ネット証券会社」部門

7年  
連続!

<評価項目>

「手数料・取引コスト」、「口座開設の容易さ」、「取扱商品量」、「提供情報の豊富さ」、「取引ツールの使いやすさ」など計12項目

## 三つ星 HDI (Help Desk Institute) 主催 2012年11月度 [証券業界]



-「問合せ窓口格付け」

3年  
連続!

-「サポートポータル格付け」

2年連続!  
3回目

SBI証券のコールセンターでの電話対応の質の高さ、およびWebサイトでの情報の見つけやすさ、使いやすさが評価

サポート体制においても、顧客満足度に注力

②ネット銀行:

## 海外における銀行サービスのIT化によるインパクト例



### 米国での現状



➤ 1985年頃: 銀行取引の70%は支店や現金などを使って行われていた。

⇒ 2010年: 個人顧客の銀行取引の75~90%はインターネット、コールセンター、モバイル機器、ATMを通して行われている。

総取引に占める支店の割合は5~13%という統計もある。



パソコン

➤ 顧客が支店を訪れる頻度: 年間平均5回以下

➤ 支店での取引件数の月平均は2006年11,400件→2010年8,440件に減少

➤ 銀行の窓口業務は2015年までに56%減少すると予測

(出所: 米国コンサルティング企業・ノヴァンタス社、情報企業・アメリカンバンカー社発表資料)

### スウェーデンでの現状



➤ 2010年にはスウェーデン人の88%が一度も銀行に行かなかった

(出所: 欧州大手ITサービス企業・ティエト社発表資料)



**技術革新により、金融サービスの提供形態が変わってきている**

②ネット銀行:

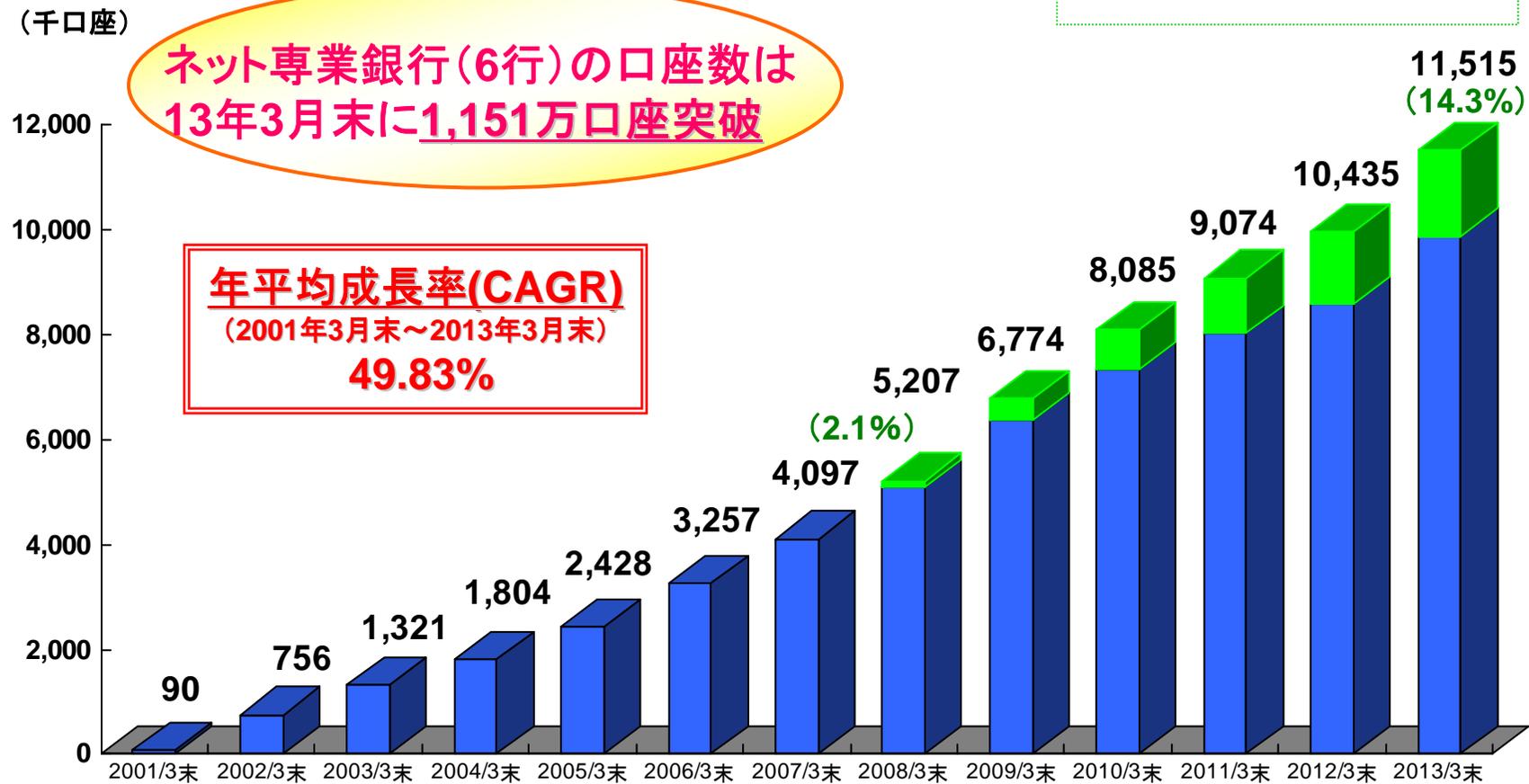
# 証券を上回る勢いで拡大するインターネット専門銀行



## 日本のインターネット専門銀行6行の口座数推移

(2001年3月末～2013年3月末) (※)

( ): 住信SBIネット銀行の割合

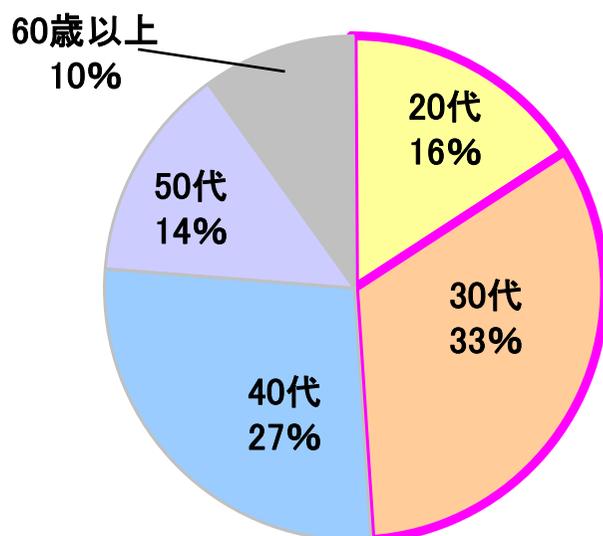


(※) 各行公表資料より当社にて集計。インターネット専門銀行は住信SBIネット銀行、ジャパンネット銀行、ソニー銀行、楽天銀行、じぶん銀行、大和ネクスト銀行。

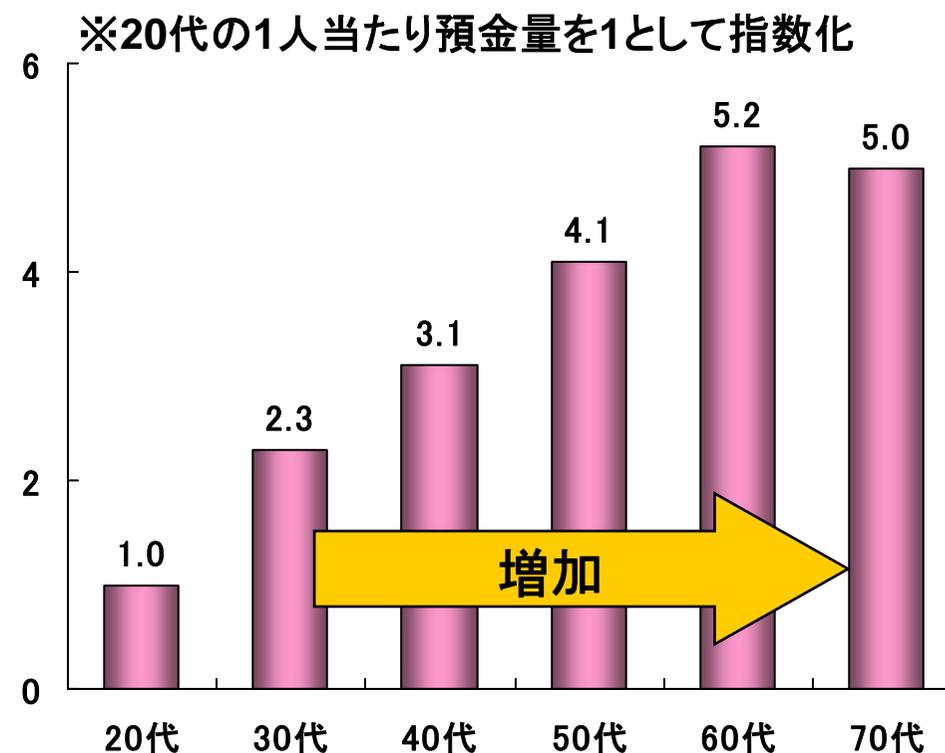
# 今後も拡大が見込まれる一顧客層の特徴

## 住信SBIネット銀行の顧客層

### ■顧客層



### ■1人当たり預金量



SBI証券同様、時間とともに現在20代・30代の顧客の資産は増加し、資産運用のための様々な金融取引も増加すると想定される

## 顧客満足度評価(住信SBIネット銀行)

**第1位:** 2012年度JCSI(日本版顧客満足度指数)調査  
銀行業界



4年  
連続!

～価格への納得感である「知覚価値」など全6項目で1位を獲得～

**第1位:** 2012年度版「オリコン顧客満足度ランキング」  
ネット銀行部門「ネット銀行総合」



3年  
連続!

ランキング1位を獲得した項目:

「手数料(振込み・ATM・時間外手続きなどを含む)」、  
「取扱い商品の豊富さ」、「定期預金・積み立て」、「外貨預金」

**第1位:** 2012年日本投資サービス顧客満足度調査  
新形態銀行部門



※CS(顧客満足度)に関する調査・コンサルティングの国際的な専門機関である株式会社J.D.パワー アジア・パシフィック が実施

③ネット損保:

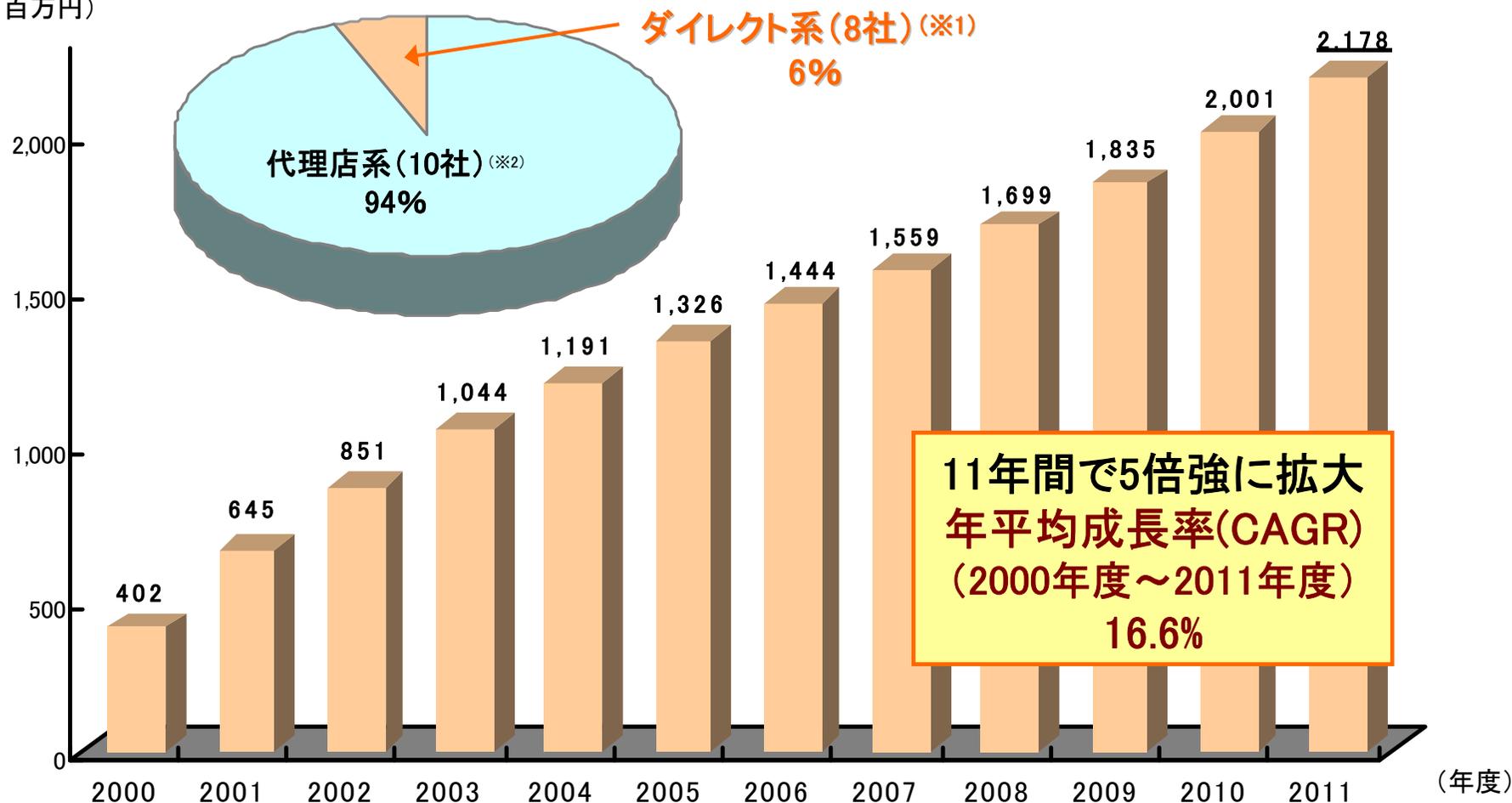


# 順調に拡大する日本のダイレクト系損保業界

## ダイレクト系損保8社 自動車保険 元受正味保険料の推移

■元受正味保険料におけるシェア(2011年度)

(単位:百万円)



(※1)ダイレクト系損保(8社): ソニー、三井ダイレクト、そんぽ24、イーデザイン、チューリッヒ、アクサ、アメリカンホーム、SBI損保

(※2)代理店系損保(10社): 東海日動火災保険、損保ジャパン、MS&AD(三井住友海上火災保険、あいおいニッセイ同和損害保険)、日本興亜損害保険、日新火災海上保険、富士火災海上保険、共栄火災海上保険、セコム損害保険、朝日火災海上保険、大同火災海上保険 (出典)各社開示資料をもとに当社作成

## 突出した価格競争力を有するSBI損保

2013年3月の自動車保険料ランキングでは、26歳(6等級、新規)、35歳(6等級、新規)、60歳(14等級、継続)といずれの世代の代表例でも1位

### 「週刊ダイヤモンド」自動車保険料ランキング (35歳 6等級 新規)

|   | 社名             | 自動車保険料<br>(円)* |
|---|----------------|----------------|
| 1 | <b>SBI損保 ◆</b> | <b>31,350</b>  |
| 2 | セゾン自動車         | 36,250         |
| 3 | アメリカンホーム       | 36,510         |
| 4 | セコム損保          | 37,130         |
| 5 | イーデザイン損保 ◆     | 38,540         |
| 6 | 三井ダイレクト ◆      | 39,350         |

□ : ダイレクト系損保

◆ : 1998年以降、開業

|    |            |        |
|----|------------|--------|
| 7  | アクサ損保 ◆    | 43,210 |
| 8  | チューリッヒ保険   | 46,560 |
| 9  | そんぽ24 ◆    | 47,600 |
| 10 | ソニー損保 ◆    | 53,810 |
| 11 | 三井住友海上     | 55,320 |
| 12 | あいおいニッセイ同和 | 55,910 |

(2013/3/9 「週刊ダイヤモンド」掲載記事より抜粋の上当社作成)

#### ※保険料の条件

・車種:トヨタ プリウス 型式:ZVW30 (新車割引適用あり)・契約開始日:2013年3月1日(契約期間1年、一時払い)・契約対象:個人(男性)・年齢・等級条件:被保険者年齢35歳(35歳以上補償)、ゴールド免許、6等級、新規・使用目的:日常・レジャー・年間走行距離:1万km・対人・対物賠償:無制限(免責金額ゼロ)・車両保険:なし・人身傷害:5000万円 車外の事故も補償・搭乗者傷害:なし(チューリッヒ保険のみ500万円付帯)・運転者の範囲:本人・配偶者に限定(配偶者の年齢、免許の色は本人と同じ)・割引:長期割引、利用者が限定される割引は適用外・その他:東京在住、過去5年間事故なし

※インターネット割引適用:SBI、アメリカンホーム、セコム、セゾン、三井ダイレクト、イーデザイン、チューリッヒ、アクサ、ソニー

※証券不発行割引適用:SBI、アメリカンホーム、セコム、セゾン、イーデザイン、チューリッヒ、日本興亜、ソニー

※前年事故割引適用:イーデザイン、セゾン、そんぽ24、三井ダイレクト

※回答を拒否:朝日火災、共栄火災、全労災、大同火災、日新火災、富士火災、AIU、JA共済

## 顧客満足度評価(SBI損保)

### SBI損保の自動車保険



**第1位:** 2013年度版「オリコン顧客満足度ランキング」  
自動車保険部門 「保険料の満足度」

4年  
連続!



**第1位:** 週刊ダイヤモンド(※)2013年3月9日特大号  
「自動車保険料ランキング」

5年  
連続!



**第1位:** 楽天の保険  
「2012年度上半期 自動車保険 人気商品ランキング」

4年連続!



**第1位:** 価格.com  
2012年 自動車保険満足度ランキング  
「保険料に関する満足度」

3年  
連続!

### オフィシャル・ホームページ



HDI-Japan HDI問合せ窓口格付け  
「サポートポータル(オフィシャル・ホームページ)部門」  
最高ランクの『三つ星』を取得

SBIグループの目指す方向性:

## **(2) アセットマネジメント事業のグローバル化を推進し、「世界のSBI」へ**

- ① 新興国を中心に幅広い地域をカバーするグローバル投資体制の構築はほぼ完了**
- ② 今後は金融サービス事業の国際展開に一層尽力**

# ① 新興国を中心に幅広い地域をカバーする グローバル投資体制の構築はほぼ完了

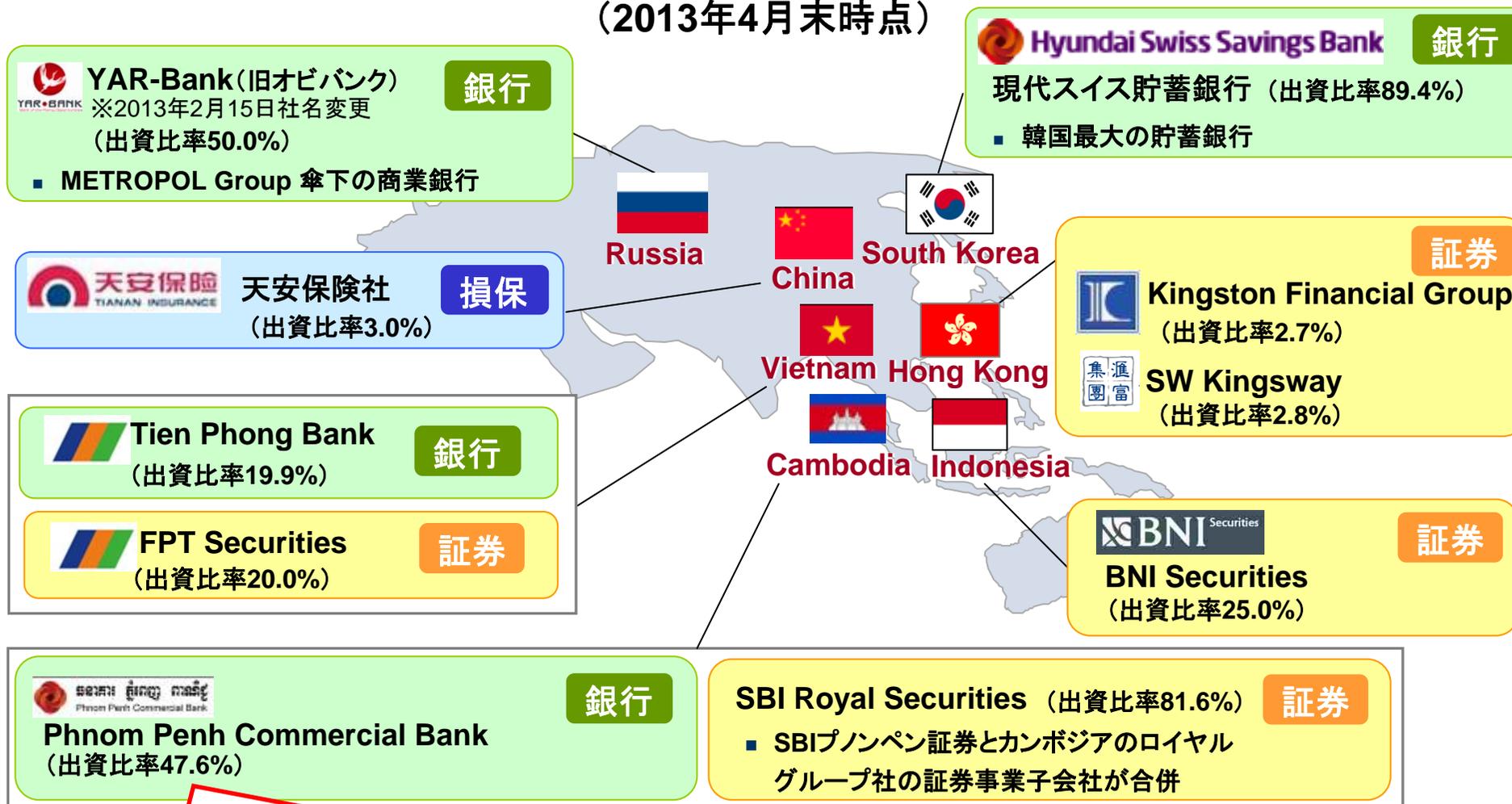
各国の有力な金融機関、政府系投資機関や大学の投資機関等との  
JVファンドの設立により構築したネットワークを最大限活用



## ② 今後は金融サービス事業の国際展開に一層尽力

### アジアを中心とした海外金融機関への出資状況

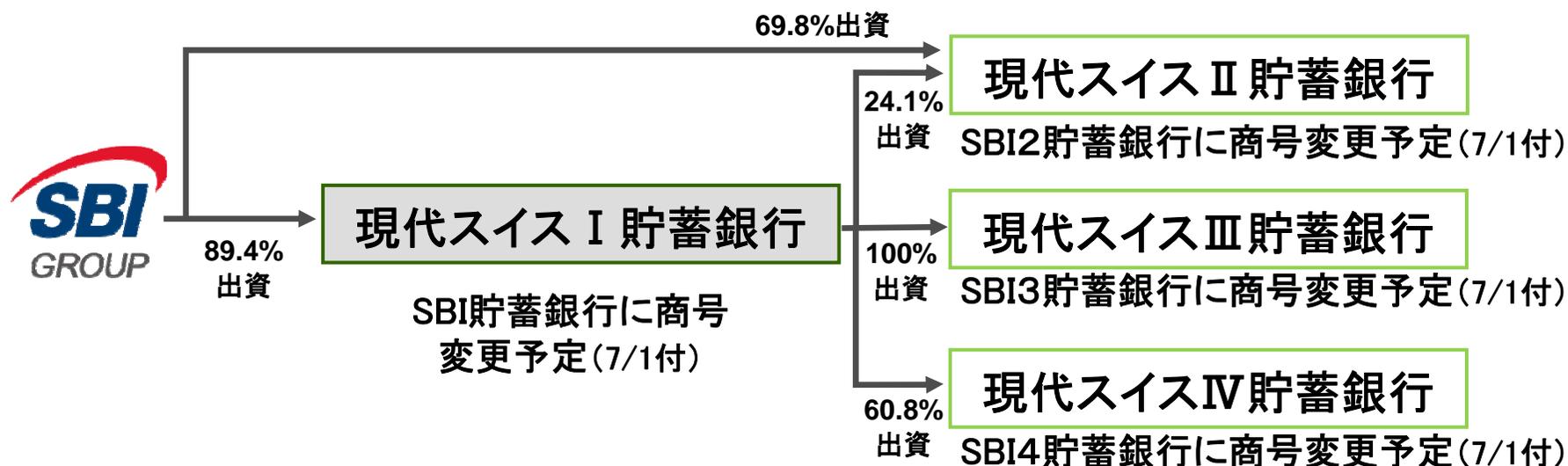
(2013年4月末時点)



カンボジア金融当局の承認を経て、取得株式数は過半数を超える予定

# 現代スイス貯蓄銀行への出資について ～連結子会社化の背景①～

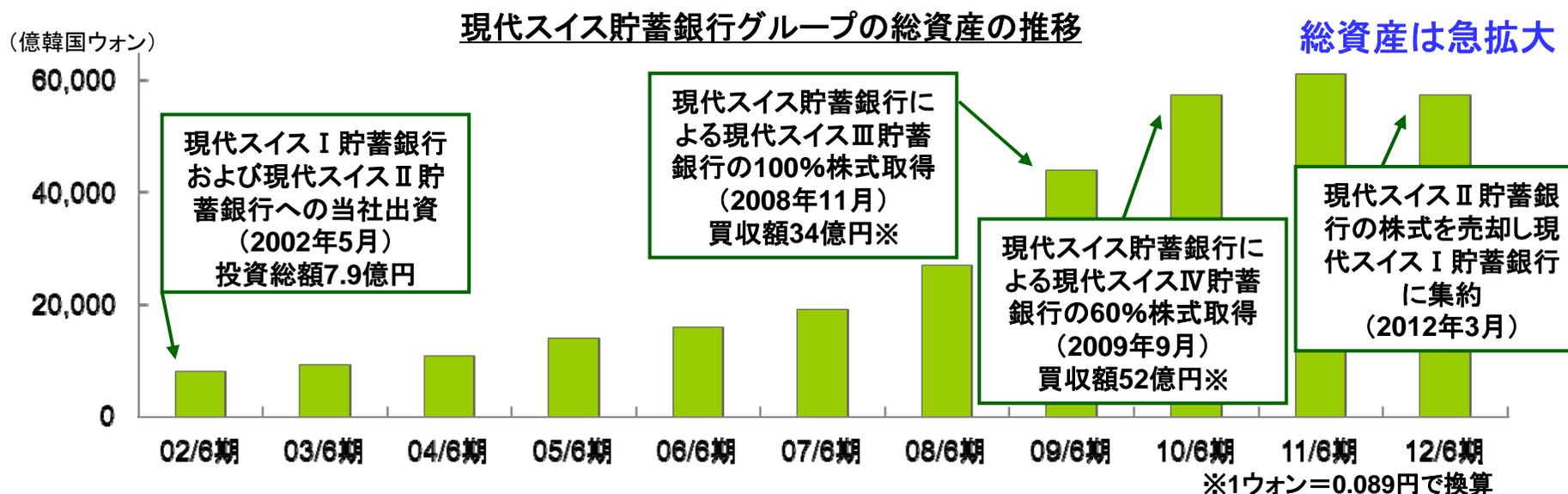
- ◆ 2002年5月に、現代スイス I 貯蓄銀行へ10%、現代スイス II 貯蓄銀行へ20%出資（投資総額7.9億円）
- ◆ 2012年3月に、現代スイス I 貯蓄銀行と現代スイス II 貯蓄銀行の2行に分散して保有していた株式を、グループ親会社である現代スイス I 貯蓄銀行に集約。  
その結果、当社グループの現代スイス I 貯蓄銀行への出資比率は20.9%となり、現代スイス II 貯蓄銀行への出資比率はゼロとなる。
- ◆ 今回の増資引受（総額約202億円）後の現代スイス貯蓄銀行グループの姿



# 現代スイス貯蓄銀行への出資について ～連結子会社化の背景②～



## 2002年の出資以後、現代スイス貯蓄銀行グループは規模を急拡大



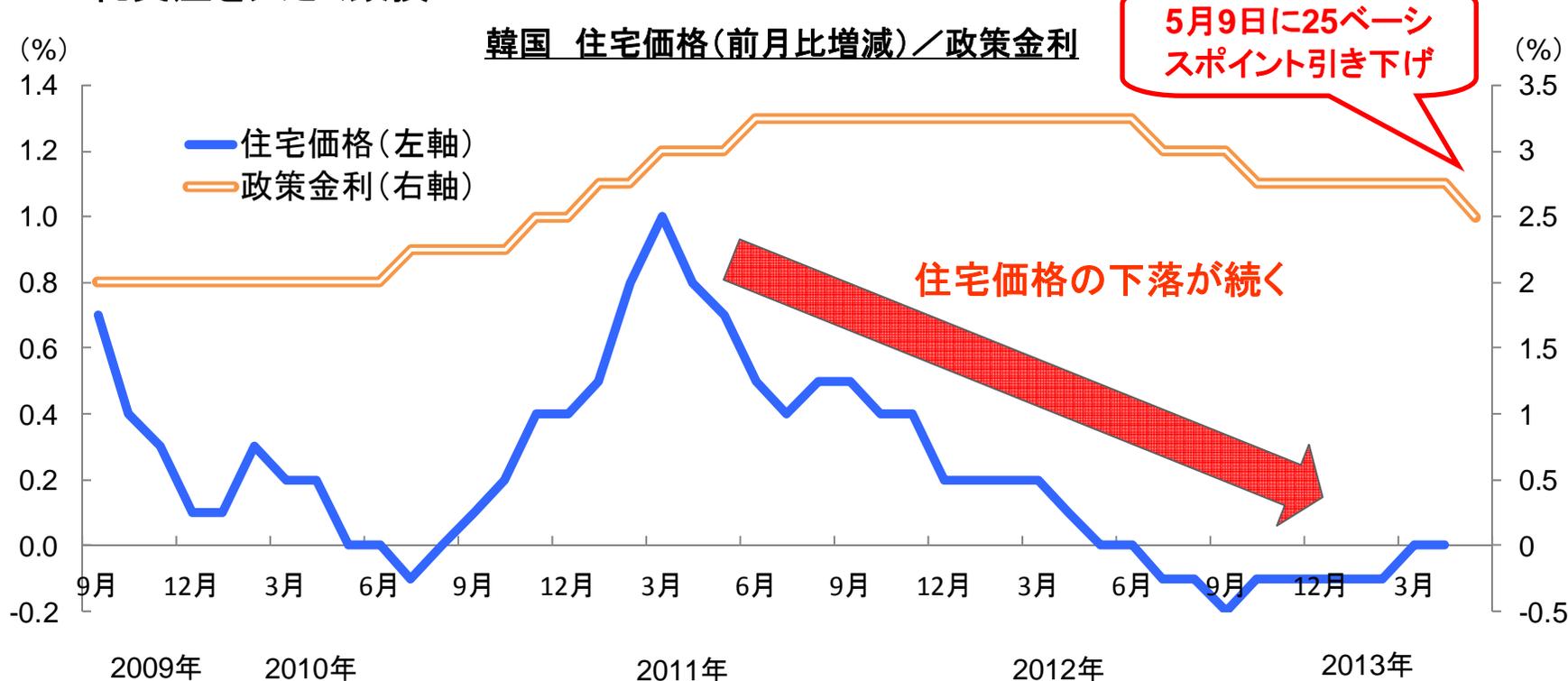
[当社出資以後の現代スイス貯蓄銀行グループの業績推移]

(単位: 億韓国ウォン)

|      | 02/6期 | 03/6期 | 04/6期  | 05/6期  | 06/6期  | 07/6期  | 08/6期  | 09/6期  | 10/6期  | 11/6期  | 12/6期  |
|------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総資産  | 7,910 | 9,020 | 10,731 | 13,913 | 15,885 | 19,057 | 26,836 | 43,779 | 57,268 | 60,960 | 57,345 |
| 営業収益 | 1,789 | 1,607 | 1,556  | 2,377  | 2,633  | 2,716  | 3,244  | 5,126  | 6,530  | 7,975  | 7,556  |
| 営業利益 | 216   | 340   | 92     | 256    | 157    | 361    | 465    | 723    | ▲74    | ▲550   | 1      |
| 当期利益 | 138   | 34    | 47     | 115    | 255    | 181    | 350    | 596    | 172    | ▲634   | ▲531   |

# 現代スイス貯蓄銀行への出資について ～連結子会社化の背景③～

- ✓ 事業規模の拡大を目指し、これまで法人向けの大口不動産担保融資やプロジェクト・ファイナンス(PF)貸付に注力（原則として不動産を担保に設定している）
- ✓ 昨今の不動産市況の悪化を受け、当局より引当金の大幅な積み増しを求められ、純資産を大きく毀損

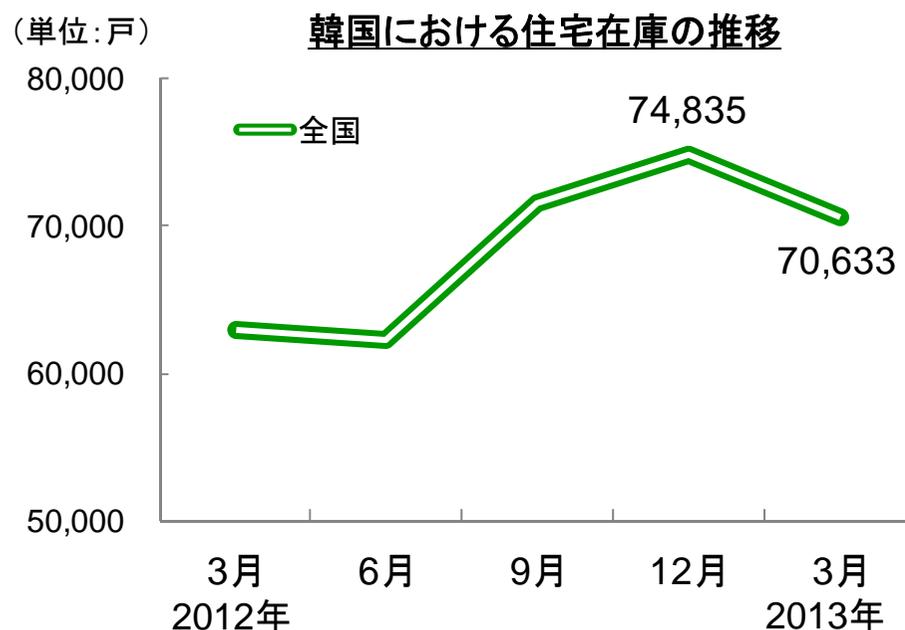


出所: Economic Statistics System, The Bank of Korea

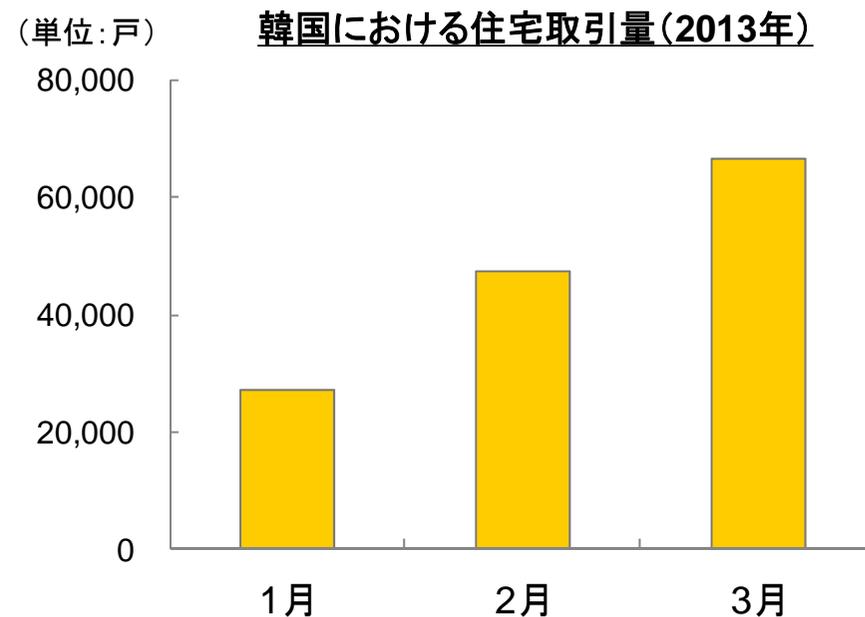
取得に際して現代スイスグループの資産を評価替えし、  
当社連結上は潜在的な不良資産処理損失の大半を織り込んだ状態でスタート

## 回復傾向にある韓国不動産市場

- 2013年3月末における住宅在庫は2012年12月末に比べ、5.6%減少
- 2013年に入り、住宅取引量は改善傾向



出所:韓国 国土交通部

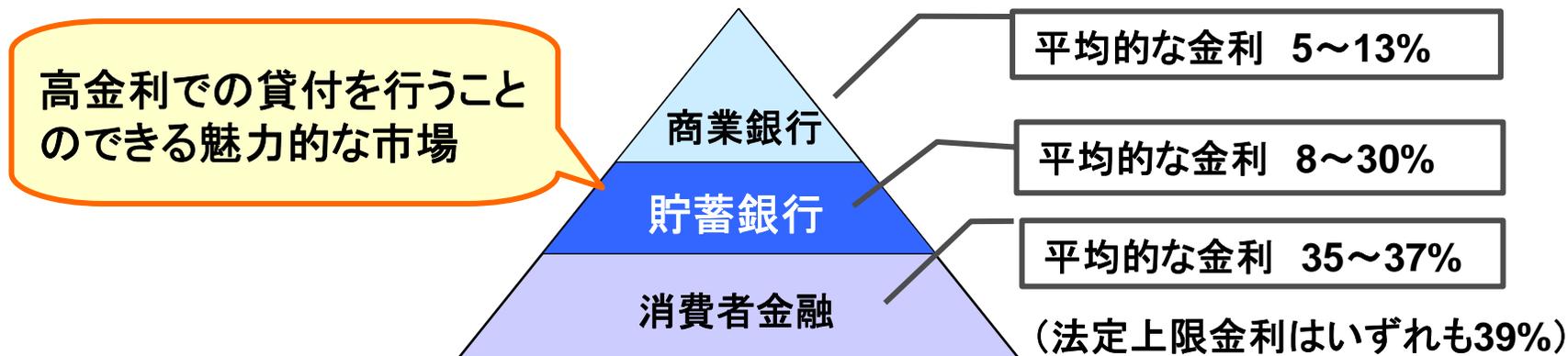


出所:韓国 国土交通部

併せて、2013年4月1日より韓国で実施された不動産取得税及び譲渡所得税の免除及び引き下げなどにより、韓国の不動産価格には底打ちの気配が徐々に見え始めており、事業環境が今後好転していくことも予想される。

# 現代スイス貯蓄銀行への出資について ～連結子会社化の背景④～

- 日本での状況と異なり、貸付に対する上限金利の高い魅力的な市場  
【 現在の韓国貸付金融市場における貯蓄銀行のポジショニング 】

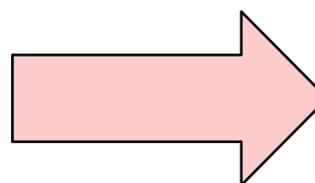


- 業界の淘汰に伴い現代スイス貯蓄銀行が圧倒的No. 1に

昨今の政府主導の貯蓄銀行業界の再編等により、同行を除く貯蓄銀行の多くが市場から撤退。2012年6月以降、上位25社中11社が撤退ないし営業停止。

[ 貯蓄銀行業界内ランキング(総資産) 2012年6月現在 ] (単位:百万韓国ウォン)

|    |                |           |
|----|----------------|-----------|
| 1  | 現代スイス I 貯蓄銀行   | 2,602,529 |
| 2  | HK相互貯蓄銀行       | 2,582,105 |
| 3  | 京畿相互貯蓄銀行       | 1,890,446 |
| 4  | 東部相互貯蓄銀行       | 1,888,460 |
| 5  | 現代スイス II 貯蓄銀行  | 1,783,109 |
| ⋮  | ⋮              | ⋮         |
| 25 | 現代スイス III 貯蓄銀行 | 681,350   |

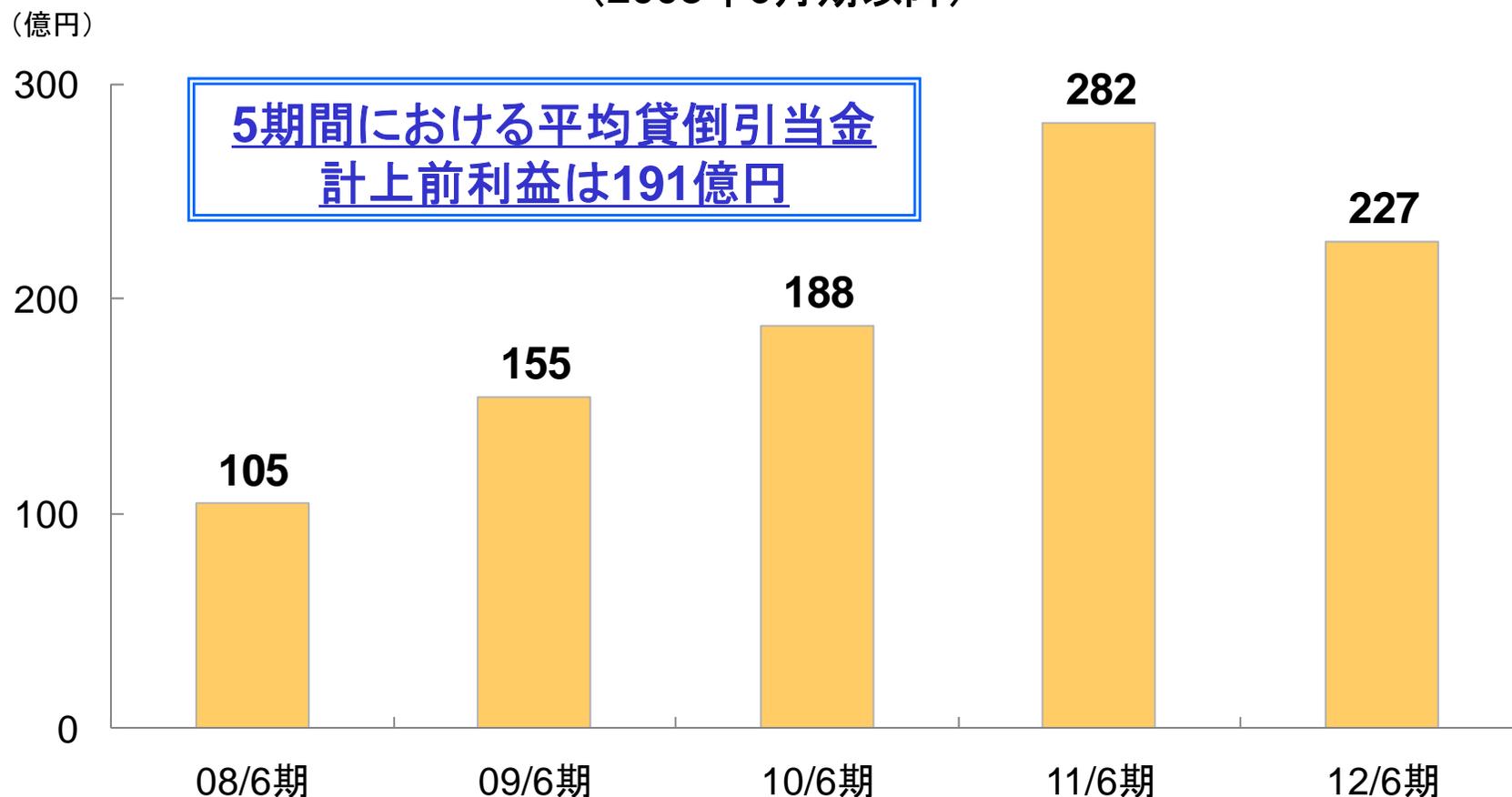


現代スイス貯蓄銀行グループの競争力は非常に強固に

|    |                |
|----|----------------|
| 1  | 現代スイス I 貯蓄銀行   |
| 2  | HK相互貯蓄銀行       |
| 3  | 東部相互貯蓄銀行       |
| 4  | 現代スイス II 貯蓄銀行  |
| 5  | モア相互貯蓄銀行       |
| ⋮  | ⋮              |
| 14 | 現代スイス III 貯蓄銀行 |

# 現代スイス貯蓄銀行の貸倒引当金計上前利益について

## 現代スイス貯蓄銀行の貸倒引当金計上前利益※の推移 (2008年6月期以降)



(2013年5月27日の為替レートで円換算)

※貸倒引当金計上前利益

貸出利息の額から預金利息の額を引いた資金利益、手数料等の役務取引等利益、債券・外為等の売買損益を意味する「その他業務利益」などを合計したもののから、販管費等の経費を差し引いて算出したもの。貸倒引当金計上による影響を含まない。

## 現代スイス貯蓄銀行の今後の事業戦略

1. 法人向けのプロジェクト・ファイナンスを中心とした大口融資に集中していた従来の事業戦略を転換し、個人向け・法人向けともに、徹底して融資の小口化を図る
2. SBIがこれまでに培ってきたノウハウを最大限活用し、法律上許可される範囲内で同行グループのネット化を推進
3. 役員の派遣及び韓国における優秀な幹部人材の採用を実施。  
厳格な資産査定によるリスク管理の強化等を開始
4. 金利約30%の個人向け無担保ローンの貸し出しを増やしていく一方で、新規の定期預金金利を引き下げ、預金調達コスト（平均4.3%）の削減を図っており、預貸マージンは今後拡大していく見込み

# 現代スイス貯蓄銀行への出資について ～連結子会社化の背景⑤～



現代スイス貯蓄銀行(7/1付けでSBI貯蓄銀行に商号変更予定)を  
中心とした韓国での金融生態系の構築



## SBIグループの韓国事業

現代スイス貯蓄銀行  
※SBI貯蓄銀行に商号変更予定(7/1付)

総資産は業界トップの韓国最大の貯蓄銀行。  
釜山、慶尚南道を除く韓国全土に営業網を保有。

現代スイス資産運用  
※SBI資産運用に商号変更  
予定(7/1付)

不動産に特化した資産運用会社

SBI Investment Korea

韓国のベンチャーキャピタル  
(韓国KOSDAQ上場)

## 金融生態系

SBI Global

投資顧問業務および  
投資一任業務  
(韓国KOSDAQ上場)

SBI Mortgage

同国初のモーゲージバンクとして  
ライセンス取得に向け準備中  
(韓国KOSPI上場)

SBI Axes

決済サービスの提供。  
2013年1月7日より、  
韓国現地法人が営業を開始。  
(韓国KOSDAQ上場)

# 現代スイス I 貯蓄銀行の連結子会社化が、 同行の重要な子会社の経営権取得につながる(1)

現代スイス貯蓄銀行および同行傘下銀行を連結子会社化することが、今後成長の期待される現代スイス資産運用とカンボジアのプノンペン商業銀行2社の発行済株式総数の過半を取得した上での**経営権取得**につながる見込み

## (1) 韓国 現代スイス資産運用 (SBI資産運用に商号変更予定(7/1付))

[ 受託高および損益推移 ]

(単位:億韓国ウォン)

|       | 09/3期 | 10/3期 | 11/3期 | 12/3期 | 13/3期 ※ |
|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 受託高   | 1,494 | 6,025 | 6,726 | 2,664 | 6,860   |
| 営業収益  | 9.7   | 21.1  | 47.7  | 36.1  | 42.1    |
| 当期純利益 | ▲10.2 | ▲6.0  | 16.5  | 1.4   | 3.3     |

※2013年3月期の実績は、外部監査人の監査前の数値であり、監査の結果等により変更される場合がある。

# 現代スイス I 貯蓄銀行の連結子会社化が、 同行の重要な子会社の経営権取得につながる(2)

## (2) カンボジア プノンペン商業銀行



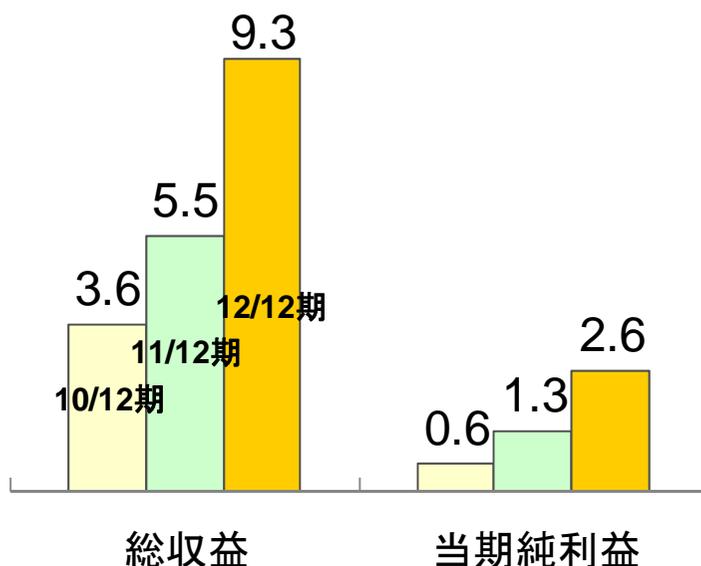
ធនាគារ ភ្នំពេញ ពាណិជ្ជ  
Phnom Penh Commercial Bank

(現在の当社グループ出資比率:47.6%)

- ・最終的には90%超まで株式を取得できる可能性大
- ・現時点において70百万米ドルでの買収の申し出を受けるほどの  
優良な商業銀行

※SBIグループ出資比率はIFRS基準でグループ子会社に該当する子会社・ファンドからの出資比率合計

<3カ年の業績推移> (単位:百万米ドル)



| (単位:百万\$) | 10/12期 | 11/12期       | 12/12期       | 13/12期 (E) | 14/12期 (P) | 15/12期 (P)   |
|-----------|--------|--------------|--------------|------------|------------|--------------|
| 総資産       | 80     | 102<br>(15位) | 123<br>(18位) | 212        | 282        | 358<br>(10位) |
| 預金残高      | 40     | 60<br>(15位)  | 78<br>(19位)  | 150        | 209        | 270<br>(7位)  |
| 貸出金残高     | 30     | 43<br>(14位)  | 69<br>(17位)  | 129        | 183        | 244<br>(7位)  |

※( )内の順位はカンボジアにおける商業銀行39社中のPPCBの順位。  
2011/12期および2012/12期の順位は実績、2015/12期の順位は同社予想。

SBIグループの目指す方向性:

**(3) 日本発で世界に貢献できるALAを利用した  
バイオ事業の育成**

# SBIグループが世界で独占的に取り組むALA関連事業 (医薬品、健康食品、化粧品)



## ALA=5-アミノレブリン酸(アミノ酸の一種)

ALAは、植物においては、光合成を行うために必要な葉緑素(クロロフィル)の、ヒトや動物においては、赤血球のヘモグロビンの生合成のための原料となり、細胞内のミトコンドリアにおけるエネルギー生産を支えている。

### アミノ酸ALA 活性酸素抑える酵素の働き マウスで1.5倍活発に

「(東京工業大学とSBIファーマのグループは)老化によって働きが低下する酵素「チトクロームcオキシダーゼ」(COX)※がアミノレブリン酸(ALA)というアミノ酸を摂取することで働きを高めることにマウスの実験で成功した。

ALAを投与したときのCOXの働きは投与しない時の1.5倍になった。

老化防止の研究につながる成果として注目されそうだ。」

新聞記事

※チトクロームcオキシダーゼ:ミトコンドリア内の電子伝達系の最後の酵素

(2011年6月28日 日刊工業新聞)

## 学会等でも注目を集めるALA(i)

### ポルフィリン-ALA学会

(2011年5月発足)



ALA and Porphyrin Research Society  
ポルフィリン-ALA学会

ポルフィリンならびにALAを扱う研究者が広く集い、分野の垣根を越えた交流を促進

(例) 毎年シンポジウムを開催

第1回: 2011年5月開催

第2回: 2012年4月開催

第3回: 2013年4月開催

→ 毎回100名超の出席者

会長: 大倉一郎氏(東京工業大学名誉教授)  
副会長: 三好憲雄氏(福井大学医学部)

### 第7回糖尿病とその合併症 予防に関する世界会議

(2012年11月11日~14日、スペイン・マドリッド)

#### ALAに関するセッションを開催

タイトル: 「糖尿病におけるミトコンドリアとALAの機能について」

座長: 慶應義塾大学医学部

腎臓内分泌代謝内科 伊藤裕教授

### UAE-日本生命科学フォーラム

(2013年4月、東京・広島)

アブダビの保健省関係者と厚生労働省、広島大学、東京大学医科学研究所等との生命科学分野の研究・技術シーズに関する定期的な会合

#### ALAに関するテーマを採用

## 学会等でも注目を集めるALA(ii)

### 第3回 ポルフィリン-ALA学会での発表内容(一部抜粋)

(2013年4月開催)

- 「5-ALAを用いた光線力学療法と抗がん剤の併用に関する基礎的および臨床的研究」 (鳥取大学獣医外科、SBIファーマ、長田中央研究所)
- 「脳腫瘍幹細胞様細胞に対する5-ALA PDT感受性の評価」  
(大阪医科大学脳神経外科、理化学研究所・ライフサイエンス技術基盤研究センター)
- 「5-アミノレブリン酸および鉄配合製剤外用による乾燥皮膚改善効果」  
(SBIファーマ、銀座スキンクリニック)
- 「マウス急性放射線障害モデルにおけるALAの放射線障害軽減作用」  
(東京大学院医、SBIファーマ)
- 「5-アミノレブリン酸の放射線増感作用に関する基礎研究」  
(産業医科大学 脳神経外科、東京工業大学大学院生命理工学研究科、SBIファーマ)

・・・等々

## 様々なALAに関する研究開発等の ネットワークを国内外で拡大中

～ALAを用いた研究は国内外90に及ぶ大学・病院等において  
様々な病気の分野で進行中～

英国と米国で展開しているがん化学療法による貧血治療薬の開発はCRO(Contract Research Organization)に委託して進めているが、フェーズ I 臨床試験(安全性試験)は順調にいけば半年程度で完了する計画であり、フェーズ II 試験以降では複数の分野で展開し、それぞれの分野で世界の主要な製薬会社との共同開発を検討中。

(例)



# 中東でのALA事業(創薬開発・臨床研究・製造・輸出等々) の拠点となるバーレーン

## ALAを用いた糖尿病分野をはじめとする複数の臨床研究を開始

### 背景

バーレーンをはじめ中東諸国は糖尿病患者の比率が高い。

(%)

|         |       |      |       |         |
|---------|-------|------|-------|---------|
| MENA地域: | バーレーン | カタール | クウェート | サウジアラビア |
| 糖尿病患者比率 | 15.4  | 15.4 | 14.6  | 16.8    |
| 主要先進国:  | 米国    | イギリス | ドイツ   | 日本      |
| 糖尿病患者比率 | 10.3  | 3.6  | 8.9   | 5.0     |

(出所:国際糖尿病連合 データベース)



### 【ALAを利用した糖尿病の臨床研究に関する提携機関】

バーレーン国防軍病院糖尿病診療科／湾岸諸国立大学Arabian Gulf Universityの附属病院／バーレーン医科大学 等々

### 【大腸がんのALAを利用した光線力学診断の臨床研究に関する提携機関】

KING HAMAD UNIVERSITY HOSPITAL／バーレーン医科大学

## 医薬品分野では各国でプロジェクトが進行中



英国

5-アミノレブリン酸塩酸塩のがん化学療法による貧血治療薬としてのフェーズ I 試験を開始



中国

バイオベンチャー益安生物へ40%出資



ドイツ

独製薬会社medac傘下のALA関連事業会社photonamicへ20%出資



バーレーン

バーレーン国防軍病院糖尿病診療科とAGUの附属病院などを中心に、糖尿病に関する臨床研究を開始

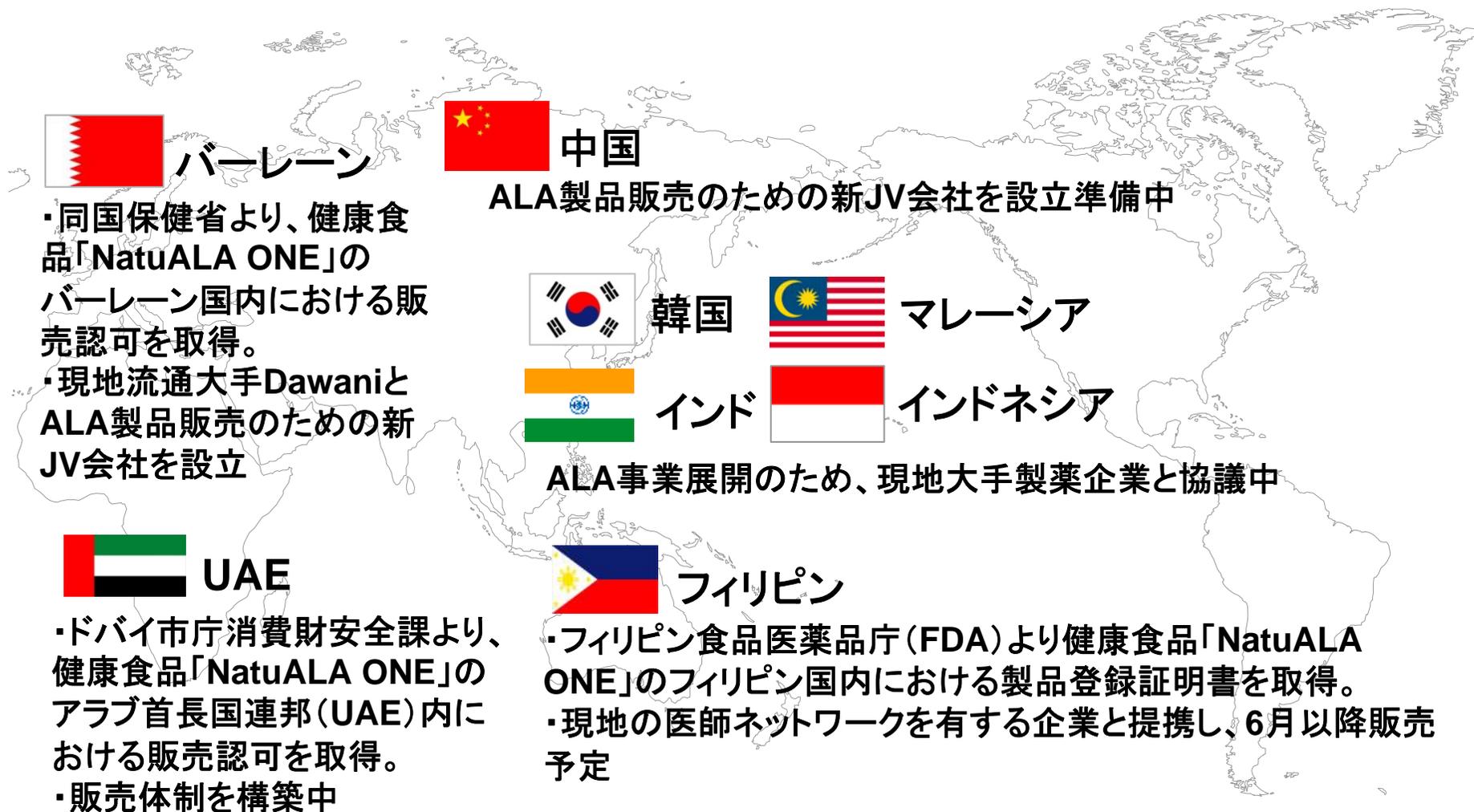


米国

- 5-アミノレブリン酸塩酸塩のがん化学療法による貧血治療薬に関して、英国でのフェーズ I 臨床試験終了後、フェーズ II に入り次第、米国でもフェーズ II から臨床試験開始予定
- ハワイ大学にてALAと糖尿病に関する研究が進行中

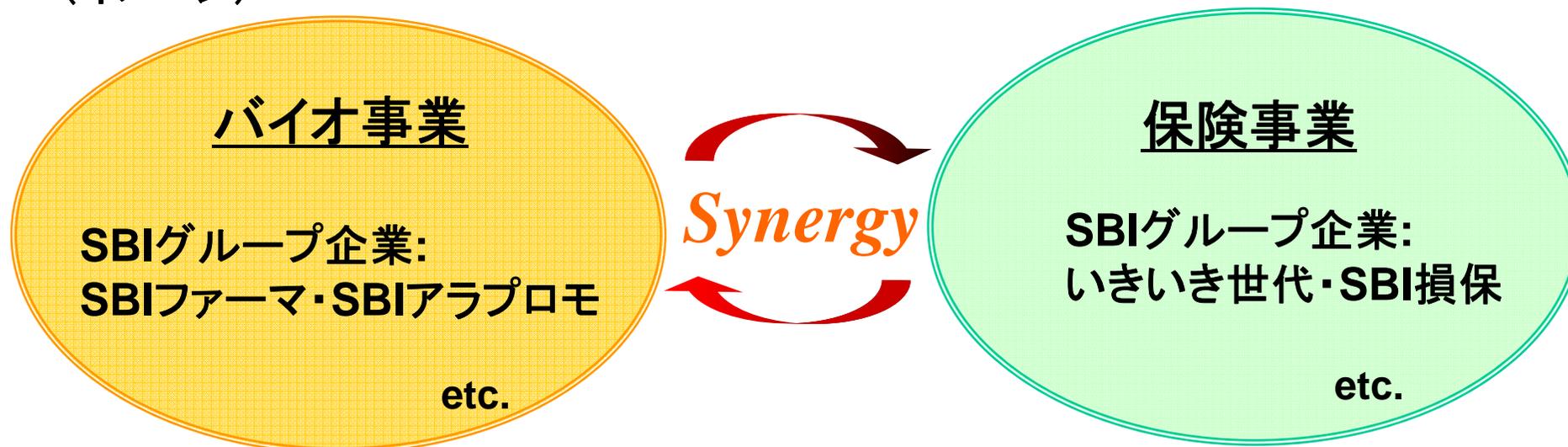
## 健康食品の海外への販路拡大に向け、 現地当局からの認可取得等が順調に進捗

～中東地域に加え、アジア展開も加速させていく～



# SBIグループのバイオ事業と保険事業は 大きなシナジー可能性を有する

(イメージ)



シナジーを活かしたサービス例:

バイオ事業会社が保険契約者に対して専用サービス・商品を提供 ※

etc.



バイオ事業が保険契約者の方の健康維持・向上に貢献し、  
結果として保険会社は保険金支払いが減少するという、  
顧客とウィン・ウィンの関係構築を目指す

4. 株価についてはどう考えていますか？

# 直近の当社株価推移

株式時価総額(2013年5月31日終値ベース) **2,914億円**



# 2013年4月以降、当社株価は水準訂正に進む



2012年9月末と比べ、2013年3月末では大株主に変化

発行済株式総数に対する保有株式数の割合

(単位:%)

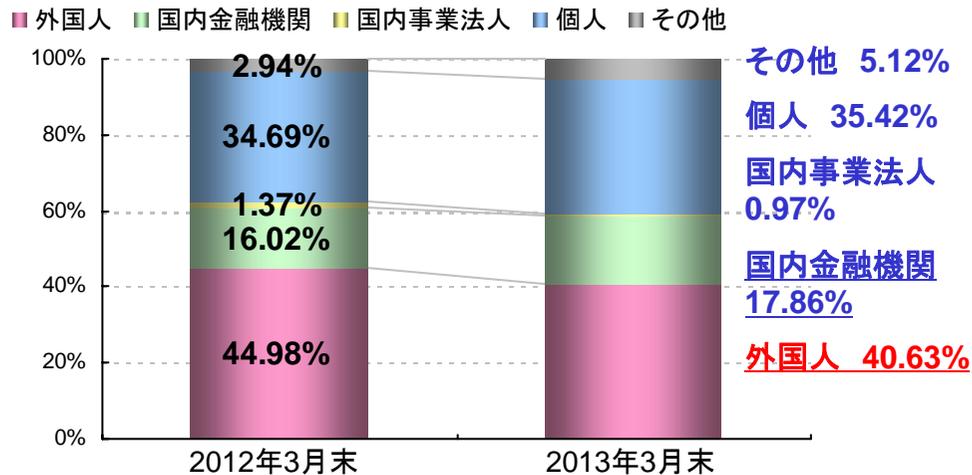
|                   | 2012年9月末 | 2013年3月末 | 2013年4月15日現在 |
|-------------------|----------|----------|--------------|
| 英国<br>オービスグループ ※2 | 18.84    | 6.35     | 2.89 ※1      |
| 日本 レノ ※3          | 4.79     | 0.13     | 不明           |

(注) 発行済株式総数に対する保有株式数の割合は報告義務発生日時点のものである。

※1 直近(2013/4/15)に提出された大量保有報告書に基づく割合 ※2 2012/2/2(報告義務日)に最高20.36%保有

※3 2012/10/12(報告義務日)に最高5.85%保有

## 当社株主構成の推移



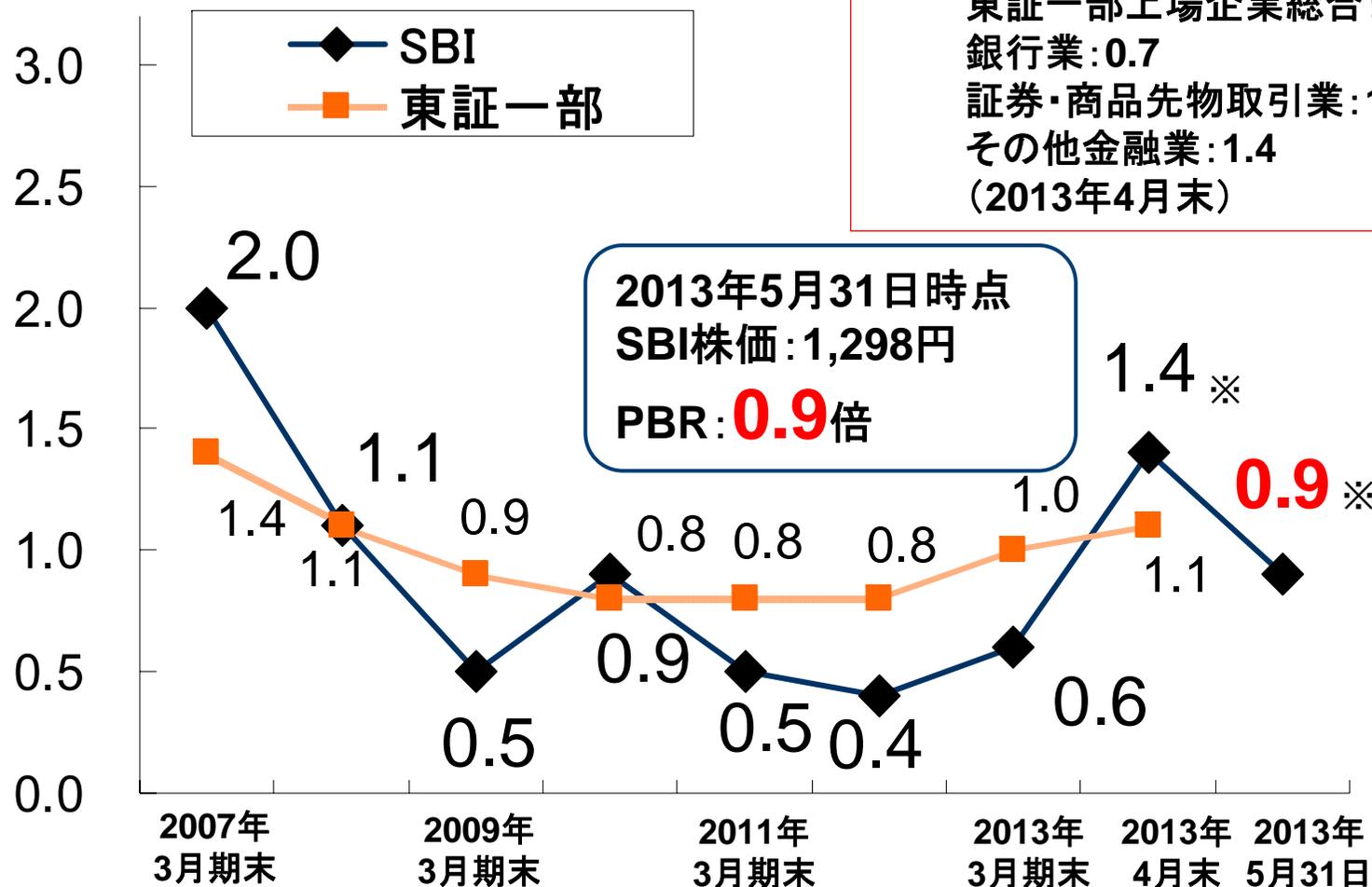
オービスによる保有が大幅に減少したものの、2013年3月末における外国人による保有比率は40.63%と、引き続き**40%超**の水準。

2013年4月に入り、最大株主のオービスグループの売却がほぼ完了し、蓋が外れたように株価が急反発。水準訂正へ進む

# SBIホールディングス PBRの推移

PBR = 各期末当社東証終値 ÷ (各期末1株当たり純資産)

(倍)



東証一部上場企業総合: 1.1  
 銀行業: 0.7  
 証券・商品先物取引業: 1.8  
 その他金融業: 1.4  
 (2013年4月末)

2013年5月31日時点  
 SBI株価: 1,298円  
 PBR: **0.9**倍

[参考]  
 2013年3月期決算発表後の  
 日本経済新聞社の  
 予想EPSに基づく当社PER  
 (2013/5/30の終値での値)

PER: **19.4**倍

※2013年4月末および2013年5月31日におけるSBIのPBRは2013年3月末現在のBPSに基づき算出

※2012年3月期末以前のSBIのPBRは日本会計基準のBPSに基づき算出

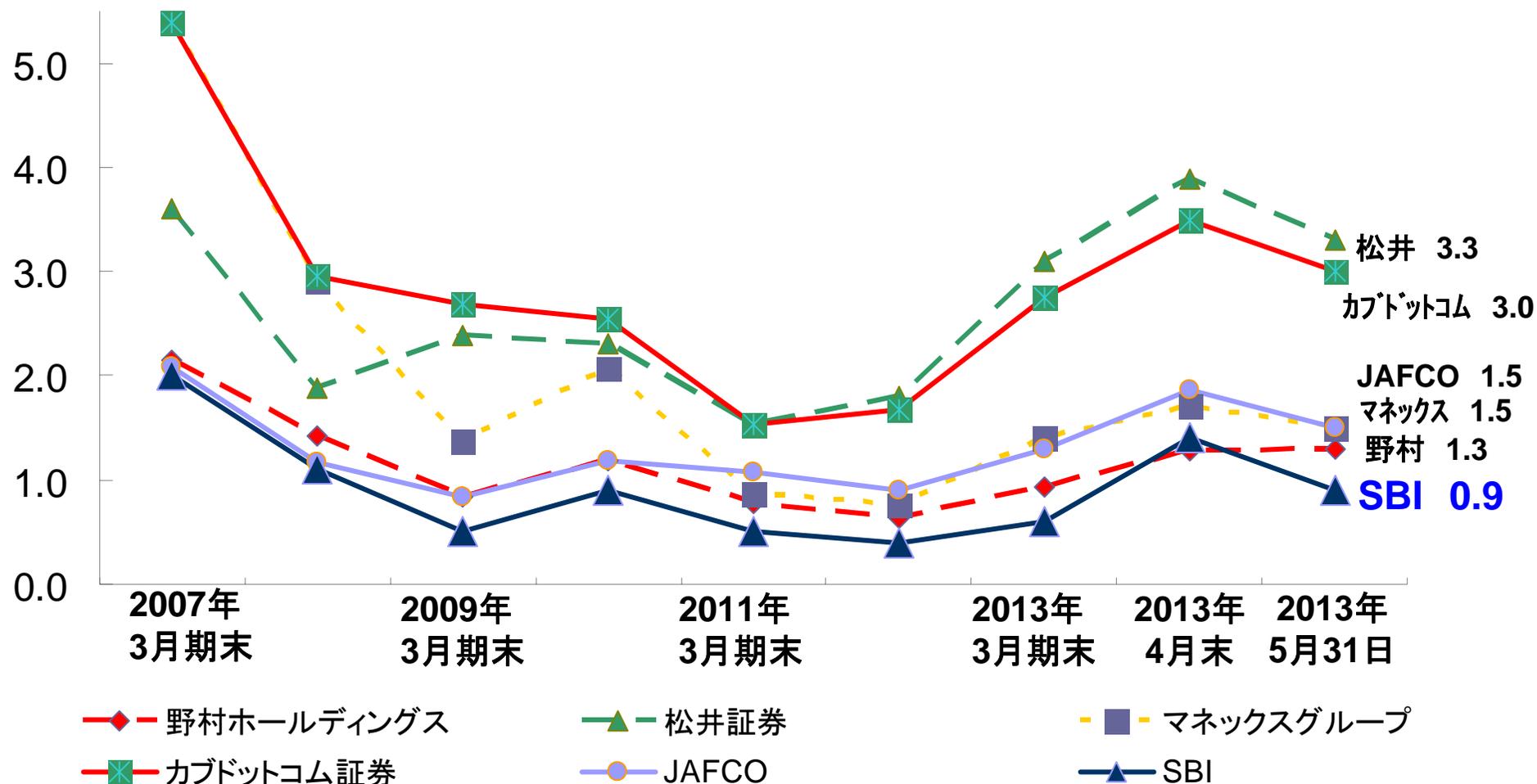
出所: 東証HP

# 他社とのPBR比較

PBR = 各期末各社東証終値 ÷ (各期末1株当たり純資産)

(倍)

(2013年5月31日現在)



※2013年4月末および2013年5月31日における各社PBRは2013年3月末現在の各社BPSに基づき算出

※2012年3月期末以前のマネックスとSBIのPBRは、それぞれ日本会計基準のBPSに基づき算出

出所: 東証HP

# 当社推計による各事業分野の評価額

## (1) 金融サービス事業 ①SBI証券-(i)

### ①SBI証券

評価額は**2,975億円**と保守的に推計される(2013年5月31日終値ベース)

SBI証券の評価額(推計)の算出方法は以下の通り

公開類似企業比較(Comparable Public Company Analysis)による

公開類似企業(松井証券、カブドットコム証券)の時価総額や収益などを比較。

以下の式に基づき算出された2つの値[(A)と(B)]の平均値をSBI証券の評価額とする。

$$\frac{\{(\text{松井 株価収益率} + \text{カブコム 株価収益率})\}(\text{※1})}{2} \times \text{SBI証券 当期純利益(2013年3月期)} - (A)$$

$$\frac{\{(\text{松井 株価純資産倍率} + \text{カブコム 株価純資産倍率})\}(\text{※2})}{2} \times \text{SBI証券 純資産残高(※3)(2013.3末)} - (B)$$

※1 松井証券およびカブドットコム証券の株価収益率は、2013年3月期の1株当たり当期純利益に基づき、算出

※2 松井証券およびカブドットコム証券の株価純資産倍率は、2013年3月末現在の1株当たり純資産に基づき、算出

※3 SBI証券の純資産から当社への短期貸付金を控除した純資産残高

# 当社推計による各事業分野の評価額

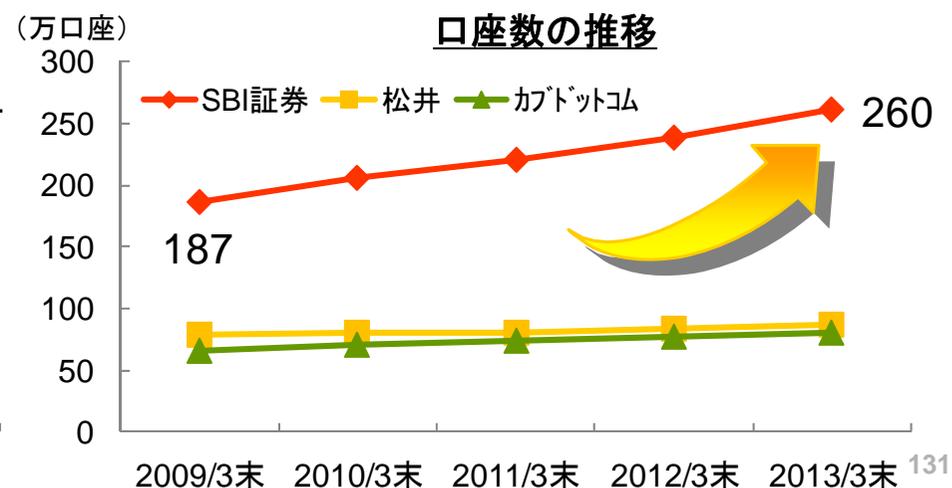
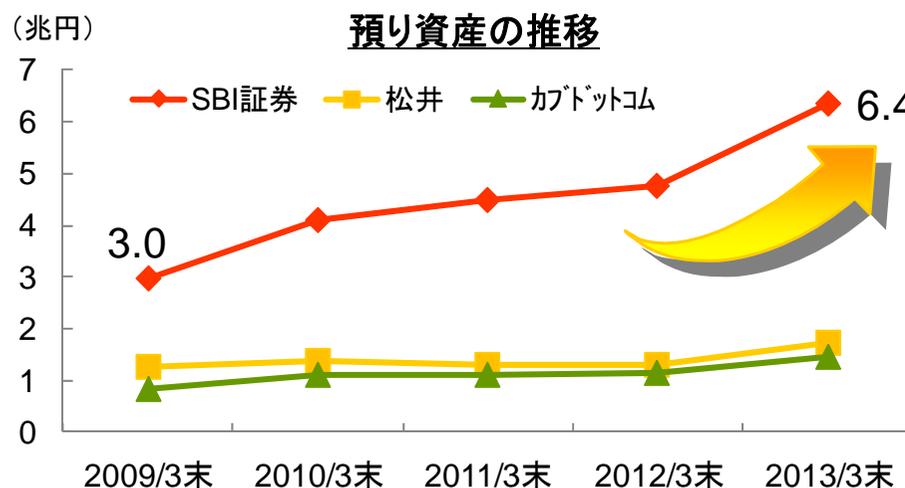
## (1) 金融サービス事業 ①SBI証券-(ii)

では、当社推計によるSBI証券の評価額は妥当な水準なのか？

### SBI証券と上場ネット証券2社(松井証券、カブドットコム証券)との比較

※2013年5月31日現在の終値に基づき算出

| (2013年3月期)     | SBI証券                            | 松井証券                 | カブドットコム証券           |
|----------------|----------------------------------|----------------------|---------------------|
| 評価額(時価総額)※     | 2,975億円                          | 2,806億円              | 1,085億円             |
| 預り資産(2013年3月末) | <b>No.1</b> 6兆3,603億円            | 1兆7,159億円            | 1兆4,720億円           |
| 口座数(2013年3月末)  | <b>No.1</b> 260万口座               | 87万口座                | 81万口座               |
| 個人株式委託売買代金シェア  | <b>No.1</b> 33.2%                | 8.4%                 | 7.4%                |
| 営業利益           | <b>No.1</b> 115億円<br>(前期比52.4%増) | 102億円<br>(前期比38.1%増) | 39億円<br>(前期比30.8%増) |



# 当社推計による各事業分野の評価額

## (1) 金融サービス事業 ② 住信SBIネット銀行-(i)

### ② 住信SBIネット銀行

評価額は**386億円**と保守的に推計される

(SBIグループ持分:50.0%分)

住信SBIネット銀行の評価額(推計)の算出方法は以下の通り

2013年3月期からの5期間、当行の税引後利益(※)が年率20%で成長すると仮定し、当該期間における当社持分の超過収益力を算出。そして、その超過収益力に2013年3月末現在の純資産の当社持分を加えて算出

※2013年3月期の経常利益 79億円、税引後利益 48億円に基づき、算出。



収益面および規模において高い成長性を有する同行の評価額を保守的に**772億円**と推計 ⇒ **386億円**

(SBIグループ持分:50.0%分)

# 当社推計による各事業分野の評価額

## (1) 金融サービス事業 ②住信SBIネット銀行-(ii)

### 住信SBIネット銀行の評価額(772億円)の水準を考察

住信SBIネット銀行

 SBI Sumishin Net Bank

- 2013年3月期通期 経常利益(79億円(前期比36.4%増))  
～ 経常利益100億円が視野に ～
- 預金残高2兆9,000億円を突破(2013年5月10日現在)

2012年3月期経常利益 100億円規模の上場地方銀行

|        | 経常利益<br>(億円) | 前期比<br>(%) | 時価総額<br>(億円) | 順位※1 |
|--------|--------------|------------|--------------|------|
| 岩手銀行   | 100          | +12.9      | 731          | 38   |
| 南都銀行   | 92           | ▲19.8      | 1,045        | 19   |
| 阿波銀行   | 90           | +46.0      | 1,199        | 42   |
| 千葉興業銀行 | 90           | +33.0      | 383          | 48   |
| 山梨中央銀行 | 87           | +18.5      | 736          | 40   |
| 沖縄銀行   | 84           | ▲11.8      | 827          | 59   |
| 北越銀行   | 80           | +19.8      | 489          | 49   |
| 池田泉州銀行 | 77           | +33.3      | 1,185*       | 17   |
| 十八銀行   | 74           | +12.0      | 401          | 46   |
| 佐賀銀行   | 73           | +0.4       | 353          | 54   |
| 秋田銀行   | 71           | +26.9      | 483          | 45   |
| 山形銀行   | 70           | +11.7      | 673          | 52   |

同水準の規模を有する上場地方銀行との比較

#### 収益性での比較

経常利益100億円規模の地銀12社の  
平均時価総額: 約700億円

預金残高3兆円超の上場  
地銀の時価総額は  
1,000億円を超える水準

\* 時価総額は池田泉州銀行を主要子会社とする池田泉州ホールディングスの値

※1 順位は地方銀行・新規参入銀行等75行での預金残高順ランキング

※2 時価総額は2013年5月31日の終値を使用

# 当社推計による各事業分野の評価額

## (1) 金融サービス事業 ③SBIリクイティティ・マーケット

### ③SBIリクイティティ・マーケット

評価額は**218億円**と推計される(2013年5月31日終値ベース)

SBIリクイティティ・マーケットの評価額(推計)の算出方法は以下の通り

公開類似企業比較(Comparable Public Company Analysis)による

公開類似企業(マネースクエア・ジャパン)の時価総額や収益などを比較。

(マネースクエア・ジャパン 株価収益率)(※) × SBIリクイティティ・マーケット 当期純利益(2013年3月期)

※マネースクエア・ジャパンの株価収益率は、2013年3月期の1株当たり当期純利益に基づき、算出

<参考>ヤフーによるサイバーエージェントFXの買収(2013年1月31日)

サイバーエージェントFXの全株式(16,200株)を**210億円**で取得

| サイバーエージェントFX(2012/3期) |       | SBIリクイティティ・マーケット(2013/3期) |
|-----------------------|-------|---------------------------|
| 8,498百万円              | 営業収益  | 7,743百万円                  |
| 4,021百万円              | 営業利益  | 1,512百万円                  |
| 2,289百万円              | 当期純利益 | 941百万円                    |
| 9,067百万円              | 純資産   | 3,470百万円                  |

SBI証券などへの按分前営業利益は61億円

# 当社推計による各事業分野の評価額

## (1) 金融サービス事業 ④その他金融サービス事業(上場会社)

### ④その他金融サービス事業における上場子会社・持分法適用会社

|                  | SBIグループ<br>持分比率(%) | 区分      | 上場市場    | 時価総額(億円)<br>(2013年5月31日<br>終値ベース) | SBIグループ<br>持分(億円) |
|------------------|--------------------|---------|---------|-----------------------------------|-------------------|
| モーニングスター         | 49.2               | 連結子会社   | JASDAQ  | 283                               | 139               |
| SBIモーゲージ         | 66.5               | 連結子会社   | 韓国KOSPI | 289*                              | 192               |
| ソルクシーズ           | 26.3               | 持分法適用会社 | JASDAQ  | 54                                | 14                |
| 上場子会社・持分法適用会社 合計 |                    |         |         | 626                               | <b>345</b>        |

(\* 2013年5月31日の為替レートで円換算)

# 当社推計による各事業分野の評価額

## (1) 金融サービス事業 上記事業体の評価額合計

### ① SBI証券

公開類似企業比較により、**2,975億円**と保守的に算出（2013年5月31日終値ベース）

### ② 住信SBIネット銀行

収益面および規模において高い成長性を有する同行の評価額を保守的に772億円と推計 **386億円**（SBIグループ持分：50.0%分）

### ③ SBIリクイティ・マーケット

公開類似企業比較により、**218億円**と算出（2013年5月31日終値ベース）

### ④ その他金融サービス事業における上場子会社・持分法適用会社3社の持分時価総額合計

モーニングスター、SBIモーゲージの上場子会社2社と持分法適用会社のソルクシーズの  
時価総額合計（SBIグループ持分） **345億円**（2013年5月31日終値ベース）



上記①～④評価額の合計 **3,924億円**（SBIグループ持分での合計額）

## 当社推計による各事業分野の評価額

### (1) 金融サービス事業 ⑤その他金融サービス事業(収益事業体)

前述のほか、金融サービス事業には多くの収益事業体がある

|                      |      | 事業内容  | 2013/3期<br>営業利益(億円) | SBIグループ<br>持分比率(%) |
|----------------------|------|---|---------------------|--------------------|
| SBIホールディングス 比較サイト事業等 |      | ローンや保険などに関する比較サイトの運営                          | 12                  | 100.0              |
| SBIリース               |      | ICT分野を中心とした総合リース業及びインターネットによるリース関連見積もりサイト等の運営 | 5                   | 100.0              |
| SBIジャパンネクスト証券        | 成長企業 | 私設取引システム(PTS)の運営業務                            | 2                   | 52.8               |
| SBIビジネスサポート          |      | 法人向けコンタクトセンター、人材派遣サービス業                       | 2                   | 100.0              |
| セムコーポレーション           |      | 不動産担保ローン                                      | 2                   | 79.7               |

金融サービス事業のうち、収益貢献度は高いものの3大コア事業とシナジーの見込めなかったSBIベリトランス(2012年3月期営業利益約13億円:日本会計基準)およびSBIクレジット(2013年3月期営業利益約5億円:当社IFRS取込ベース)等の売却を2012年3月以降実施。

 **金融サービス事業において、選択と集中を徹底し、これまでに約170億円を回収**

# 当社推計による各事業分野の評価額

## (2)アセットマネジメント事業 ①評価額の算出方法

### アセットマネジメント事業

アセットマネジメント事業の評価額は約1,551億円と推計される

＜参考＞JAFCOの時価総額 **1,782億円** (2013年5月31日終値ベース)

本評価額の推計値は、以下の(i)～(iii)の評価額を合計したものの

(i)保有する有価証券の価値(2013年3月末現在) 約918億円

保有する営業投資有価証券およびその他の投資有価証券を毎四半期ごとに公正価値評価しており、その時価合計のうちの当社持分を算出。

(ii)SBIインベストメントの評価額(2013年5月31日終値ベース) 約497億円

(※保有する有価証券等の資産を除く評価額)

公開類似企業比較(Comparable Public Company Analysis)による

公開類似企業(JAFCO)の時価総額や収益などを比較。

SBIインベストメントの有する持株会社機能としての費用負担分を控除した実力としての  
当期純利益(試算値) × JAFCO 株価収益率(※)

※JAFCOの株価収益率は、2013年3月期の1株当たり当期純利益に基づき、算出

# 当社推計による各事業分野の評価額

## (2)アセットマネジメント事業 ②その他収益事業体

### (iii) 上場子会社・持分法適用会社及び支配権を有する会社の時価総額

|                         | SBIグループ<br>持分比率(%) | 区分           | 上場市場     | 時価総額(億円)<br>(2013年5月31日<br>終値ベース) | SBIグループ<br>持分(億円) |
|-------------------------|--------------------|--------------|----------|-----------------------------------|-------------------|
| SBI AXES                | 75.0               | 連結子会社        | 韓国KOSDAQ | 119*                              | 89                |
| SBI Investment<br>Korea | 43.9               | 持分法適用会社      | 韓国KOSDAQ | 85*                               | 37                |
| SBI Global              | 43.3               | 営業投資有価<br>証券 | 韓国KOSDAQ | 23*                               | 10                |
| 上場子会社・持分法適用会社 合計        |                    |              |          | 227                               | 136               |

(\* 2013年5月31日の為替レートで円換算)

### [上記評価額に含まれない、その他アセットマネジメント事業における主な収益事業]

|                |      | 事業内容                                       | 2013/3期<br>営業利益(億円) | SBIグループ<br>持分比率(%) |
|----------------|------|--|---------------------|--------------------|
| SBIキャピタル       |      | バイアウト・企業再生ファンド等の運用・管理                      | 6                   | 100.0              |
| プノンペン商業銀行      | 海外事業 | 商業銀行業務等                                    | 4                   | 47.6               |
| YARバンク         | 海外事業 | 商業銀行業務等                                    | 2                   | 50.0               |
| ナルミヤ・インターナショナル |      | オリジナル、ライセンスブランドの展開による<br>子供服および関連製品の製造加工販売 | 3                   | 100.0              |

※SBIグループ出資比率はIFRS基準でグループ子会社に該当する子会社・ファンドからの出資比率合計 139

# 当社推計による各事業分野の評価額

## (3) バイオ関連事業 ① SBIファーマ

### バイオ関連事業

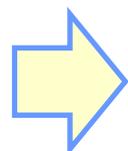
SBIグループ内におけるバイオ関連事業各社は、それぞれに有望なパイプラインを複数有しており、国内外での医薬品の臨床研究等が進捗することで、今後大きく貢献し得る主力事業となる。

バイオ事業全体の評価額は約640億円と推計される

#### ① SBIファーマ

SBIファーマの評価額(推計)の算出方法は以下の通り

旧SBIアラプロモの一部株式譲渡時の時価 × 発行済株式総数 × SBIH持分比率(間接保有除く)

 2013年3月末現在の持分比率(間接保有除く)に基づき、約466億円と算出

SBIファーマの他、バイオ関連事業の評価額算定には、2013年内および2014年内での公開を目指す公開予備軍企業2社の評価額(払込出資金額の当社持分や、保有する営業投資有価証券の時価に基づき推計)なども含まれる。

## 当社推計による各事業分野の評価額

### (3) バイオ関連事業 ② バイオ関連事業における公開予備軍企業

|              | SBIグループ持分比率(%) | 公開目標   | 主幹事証券             |
|--------------|----------------|--------|-------------------|
| SBIバイオテック ※1 | 71.6           | 2014年内 | みずほ証券             |
| 米国 アキュセラ社 ※2 | 16.9           | 2013年内 | 三菱UFJモルガン・スタンレー証券 |

※1 2012年12月に米国クオーク社を完全子会社化 ※2 米国アキュセラ社はセグメント分類上、アセットマネジメント事業に含まれる。  
 ※SBIグループ出資比率はIFRS基準でグループ子会社に該当する子会社・ファンドからの出資比率合計

創薬系バイオベンチャーのほとんどは赤字企業であっても上場を果たしている

直近3年間に新規上場した創薬系バイオベンチャー

(単位:億円)

| 企業名            | 上場日         | 上場基準期の<br>当期純利益(百万円) | 上場時(初値)<br>時価総額 | 直近時価総額       |
|----------------|-------------|----------------------|-----------------|--------------|
|                |             |                      |                 | (2013年5月31日) |
| セルシート          | 2010年3月16日  | ▲650                 | 75              | 212          |
| ラクオリア創薬        | 2011年7月20日  | ▲1,307               | 196             | 143          |
| シンバイオ製薬        | 2011年10月20日 | ▲642                 | 86              | 174          |
| スリー・ディー・マトリックス | 2011年10月24日 | ▲533                 | 54              | 1,231        |
| カイオム・バイオサイエンス  | 2011年12月20日 | ▲180                 | 51              | 580          |
| ジーンテクノサイエンス    | 2012年11月30日 | ▲320                 | 30              | 155          |
| UMNファーマ        | 2012年12月11日 | ▲477                 | 83              | 415          |
| ドレックス          | 2013年2月13日  | ▲433                 | 113             | 254          |

# 当社推計による各事業分野の評価額

## (4)不動産関連事業

### 不動産関連事業

不動産関連事業の評価額は約339億円と推計される

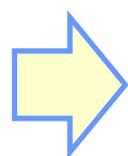
その他の事業の評価額(推計)の算出方法は以下の通り

当社2013年3月末現在の事業用の不動産資産価値を算出し、SBIライフリビングの時価総額を加える。

#### ① 事業用の不動産資産価値

資産価値 = 投資不動産残高 + 有形固定資産に含まれる不動産残高

(現代スイス貯蓄銀行およびSBIライフリビングの投資不動産残高を除く)



2013年3月末現在、約268億円

#### ② 不動産関連事業における上場子会社の時価総額

(2013年5月31日終値ベース)

|            | SBIグループ<br>持分比率(%) | 区分    | 上場市場   | 時価総額(億円) | SBIグループ<br>持分(億円) |
|------------|--------------------|-------|--------|----------|-------------------|
| SBIライフリビング | 74.2               | 連結子会社 | 東証マザーズ | 95       | <u>71</u>         |

# 5月31日終値ベースで推計される各事業体の評価額による 当社企業価値(Enterprise Value)



## ①当社の事業別評価額の合計

(単位:億円)

| (2013年5月31日終値ベース) | 事業別評価額(理論値)           |
|-------------------|-----------------------|
| 金融サービス事業          | 3,924(+) <sup>※</sup> |
| アセットマネジメント事業      | 1,551                 |
| バイオ関連事業           | 640                   |
| 不動産関連事業           | 339                   |
| 合 計               | 6,454(+)              |

## ②外部借入金(SBIHD単体、2013年3月末現在)

**1,370億円**

当社の企業価値(上記①、②の合計額)

**7,824億円**

※金融サービス事業には他にも、SBIHの比較サト事業、SBIリース、SBIビジネスサポート等、今回の理論値算出に組み入れられていない収益事業もある。

主要事業体58社のうち、19社が上記評価額算出に組み入れられていない営業黒字会社  
(営業利益額合計:約39億円)

*<http://www.sbigroup.co.jp>*